小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

⑧ 南朝と北朝

●南北朝時代●室町時代前期

決定版

●まんが

あおむら　純（じゅん）

1941年（ねん）、山口県（やまぐちけん）に生（う）まれる。アニメーションの作画（さくが）などをへて現在（げんざい）にいたる。歴史（れきし）まんがの分野（ぶんや）で大活（だいかつ）やくし、少年少女（しょうねんしょうじょ）のファンも多（おお）い。

8巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
横井　清（元桃山学院大学文学部教授）
西原和海
高橋千劔破

●考証
石井謙治（日本海事史学会名誉会長）
小泉和子（生活史研究所代表）
鈴木友也（日本美術刀剣保存協会専務理事）
高田倭男（高田装束研究所所長）
玉井哲雄（千葉大学名誉教授）

●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

●指導・執筆・協力
伊藤博之（成城大学名誉教授）
岡田威夫（共立女子高校）
表　　章（法政大学名誉教授）
川上　貢（京都大学名誉教授）
斎藤公男（日本大学理工学部名誉教授）
佐藤和彦（東京学芸大学名誉教授）
横井　清（元桃山学院大学文学部教授）
高橋千劔破

●取材協力
足利市教育委員会　(財)逸翁美術館　大阪城天守閣　京都国立博物館　宮内庁京都事務所　久留米市教育委員会　久留米市民図書館　国立国会図書館　サントリー美術館　慈済院　慈照寺　勝楽寺　常楽寺　神護寺　真正極楽寺　清浄光寺　大徳寺　竹中工務店　(財)竹中大工道具館　東京国立博物館　東京大学史料編纂所　東福寺　(財)徳川黎明会・徳川美術館　守屋美孝　大和文華館　遊行寺　竜安寺　鹿苑寺

●イラスト
角愼作　中西立太　深山のぼる
●作画協力
伊藤光男　大岡龍二　小井土繁　小杉彰
小山春夫　芝知照　坪井幸一　馬場秀夫
山本貴久雄
●装丁・レイアウト
功野真矢　佐野恒雄（ＣＳＪ）　DOMDOM
成澤哲夫（ＮＥＤ）

●版下
大山デザイン　昭和ブライト　タナカデザイン
●編集協力
エディトリアル・プランニング　銀杏社　真英社　鈴木悦子　橋森紀夫　風人社
●編集担当
柏原順太　宮部良雄　八巻孝夫

（五十音順・敬称略）

小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

8

南朝(なんちょう)と北朝(ほくちょう)

●南北朝時代●室町時代前期

監修/児玉幸多　まんが/あおむら純

年表の巻の歴史

巻数	時代	年代
1	旧石器（岩宿）	前3万
	縄文（紋）	前1万
	弥生	前1000
2	古墳	紀元1
	飛鳥	100
3	奈良	200
4	平	300
5	安	400
6		500
7	鎌倉	600
8	南北朝	700
9	室町	800
10	戦国	900
11	安土桃山	1000
12	江戸	1100
13		1200
14		1300
15		1400
16		1500
17	明治	1600
18		1700
19	大正	1800
20	昭和・前期	1900
21	昭和・後期～平成	

●この巻には、青色の部分の時代・年代が、かかれています。

鎌倉時代

時代・文化

鎌倉時代の文化

西暦 ●1333 ●1332 ●1331 ●1324 ●1321 ●1299 ●1297 ●1293

日本のおもなできごと

元寇にそなえ、鎮西探題がおかれる。「蒙古襲来絵詞」ができる。

鎌倉幕府がますますおとろえていく。

永仁の徳政令が出されたが、御家人の生活はさらに苦しくなる。

元が日本に和平をもとめ、以後、日本の商船が元に行く。

後醍醐天皇が院政を廃止する。

天皇の倒幕計画がもれて日野資朝らがとらわれる。（正中の変）

楠木正成が倒幕の兵をあげる。（元弘の乱）

このころ、吉田兼好の**「徒然草」**ができる。

後醍醐天皇が隠岐島にながされる。

各地に倒幕の兵おこり、**足利高氏**や**新田義貞**が天皇側につく。

鎌倉幕府がほろぶ。

朝廷に雑訴決断所・武者所がおかれる。

西暦 ●1309 ●1302

世界のおもなできごと

フランスに三部会ができる。

ローマ教皇がフランスのアヴィニョンに幽閉される。

●このころ、ルネサンスが北イタリアではじまる。

室町時代　南北朝時代

室町時代の文化

●1408 ●1404 ●1399 ●1397 ●1392 ●1391 ●1378 ●1356 ●1352 ●1349 ●1342 ●1341 ●1339 ●1338 ●1336 ●1335 ●1334

建武の新政（～36）。二条河原に落書が出される。
足利尊氏が後醍醐天皇と対立して挙兵する。
尊氏が京都に入って光明天皇をたてる。後醍醐天皇が吉野にうつる。

南北朝の動乱がはじまる。

尊氏が征夷大将軍となる。
北畠親房が**「神皇正統記」**をあらわし、南朝の正統性を主張する。
尊氏が天竜寺の造営費をえるため、**天竜寺船**を元におくる。
幕府が五山十刹をさだめる。
足利基氏が鎌倉公方となり、京都と関東の対立がはじまる。
幕府が、近江・美濃・尾張で**半済**を行う。

このころから南朝のおとろえがはっきりする。
二条良基らが「菟玖波集」（連歌集）を編さんする。
三代将軍義満が室町の新邸にうつる。このころ、「太平記」ができる。
義満が守護大名山名氏をうち、将軍の地位を確立する。（明徳の乱）

南北朝の統一。
義満が北山に**金閣**をたてる。（→史跡クローズアップ）
このころ世阿弥らによって能楽が大成される。
義満が大内氏をうつ。（応永の乱）
明の国書をうけたのをきっかけに、**勘合貿易**のとりきめを行う。
義満が死ぬ。

●1392 ●1381 ●1378 ●1369 ●1368 ●1347 ●1339

英仏百年戦争がはじまる。（～1453）
ヨーロッパで黒死病（ペスト）が大流行する。
朱元璋が明をおこす。
ティムール帝国が成立する。
ローマ教会が分裂する。
イギリスでワット＝タイラーの農民一揆がおこる。
李成桂が李氏朝鮮を建国する。

はじめに

後醍醐天皇の登場と室町幕府の成立

◆悪党の活やく

ドドドッ！　山野をウマでかけていく一群の男たち。いま、かれらは荘園をあらしてきたばかりのようです。いずれも、いかめしく武装しています。この男たち、どうやら「悪党」ではないのでしょうか……。

悪党とは、鎌倉幕府に反抗する武士団のことをさします。一三〇〇年の前後、西日本を中心に、各地に現われるようになりました。すでに、幕府の力はおとろえ、かれらを取り締まることができません。

そうしたおり、後醍醐天皇は朝廷に政権を取りもどそうと、倒幕の兵をあげました。

足利尊氏、楠木正成といった武士たちも、ともに立ちあがりました。

天皇は、悪党たちにも協力をもとめたのです。

◆南朝と北朝

鎌倉幕府がたおれると、後醍醐天皇の新しい政治が始まりました。これを「建武の新政」といいます。

しかし、新政権は公家ばかりを優遇しますので、武士たちの反感をかうことになりました。まもなく、これらの武士に支持された尊氏が、朝廷にそむいて挙兵しました。

そのころ朝廷では、天皇の系統が二つにわかれて、対立していました。後醍醐天皇の「大覚寺統」と、もうひとつは「持明院統」といいます。

尊氏軍とのたたかいに破れた後醍醐天皇は、吉野（奈良県）にのがれました。尊氏は、京都をおさえ、持明院統の天皇をたてることに成功しました。

その結果、朝廷は吉野と京都と、同時に二つも存在することになったのです。吉野のほうを「南朝」、京都のほうを「北朝」といいます。

◆室町幕府ひらく

一三三八年、尊氏は征夷大将軍となって、京都に幕府をひらきました。これを「室町幕府」とよんでいます。ふたたび武士政権が成立したわけです。

しかし、南朝と北朝の争いは、およそ半世紀にもわたって続きました。

幕府が、どうにか安定するのは、三代将軍・足利義満の時代になってからでした。義満は、あの美しい「金閣」を京都にたてたことでも、よく知られていますね。

この巻であつかう時代の動きは、なかなか複雑に見えます。でも、とってもおもしろいですよ。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物

第1章 鎌倉幕府ほろぶ

- 後醍醐天皇、即位する
- 笠置山の戦い
- 大画面・千早城攻防戦
- 足利高氏、天皇方につく
- 鎌倉幕府ほろぶ

第2章 建武の新政

- 後醍醐天皇の政治
- 大画面・二条河原の落書
- 足利尊氏、東国へ
- 楠木正成の最期

第3章 南北朝のあらそい

- 後醍醐天皇、南朝をひらく
- 一味神水の儀式
- 尊氏、征夷大将軍になる
- 後醍醐天皇の死

8 南朝と北朝

●南北朝時代●室町時代前期

第4章

花の御所

- ばさら大名高師直
- 直義と尊氏の対立
- 三代将軍足利義満
- 大画面・花の御所
- 南北朝の統一
- 北山山荘
- 後小松天皇の北山行幸

おもな登場人物

※この巻に登場するおもな人物を紹介します。登場人物をくわしく知るための事典として、役立たせてください。

第1章

後醍醐天皇（一二八八～一三三九年）

後宇多天皇の第二皇子。はじめ鎌倉幕府の討幕に失敗し隠岐に流される。

北条高時（一三〇三～一三三三年）

十四代執権、側近に権力をにぎられ、幕府の土台がゆらぐ。新田義貞に攻められ自刃。

楠木正成（一二九四？～一三三六年）

後醍醐天皇の幕府討伐に参加し、活やくした河内の悪党。千早城での奇襲戦法は有名。

新田義貞（一三〇一～一三三八年）

関東の武将。はじめ幕府側にいたが、後醍醐天皇の命令をうけて、鎌倉幕府をたおす。

第2章

足利尊氏（一三〇五～一三五八年）

清和源氏につながる御家人。後醍醐天皇に味方して、幕府の六波羅探題をほろぼす。

護良親王（一三〇八～一三三五年）

後醍醐天皇の皇子。元弘の乱に僧兵をひきいて活やく、のち征夷大将軍となる。

足利直義（一三〇六～一三五二年）

元弘の乱で尊氏と行動し、相模守となる。護良親王をころし、のち尊氏とも反目する。

後醍醐天皇（一二八八～一三三九年）

幕府崩壊後、天皇みずから政治にとり組む（建武の新政）。後、吉野に南朝をたてる。

⑧ 南朝と北朝

●南北朝時代●室町時代前期

僧と商人

第3章

北畠親房（一二九三～一三五四年）

後醍醐天皇を吉野にむかえて南朝をたてる。著書に有名な『神皇正統記』がある。

高師直（？～一三五一年）

足利尊氏のもとで活やくする。室町幕府では執事として実権をふるう。

足利尊氏（一三〇五～一三五八年）

光明天皇をたて室町幕府をひらき、建武式目をさだめる。天竜寺船を元に派遣する。

夢窓疎石（一二七五～一三五一年）

臨済宗の僧侶。京に天竜寺を建設する。造園家としても有名で、多くの庭園をのこす。

第4章

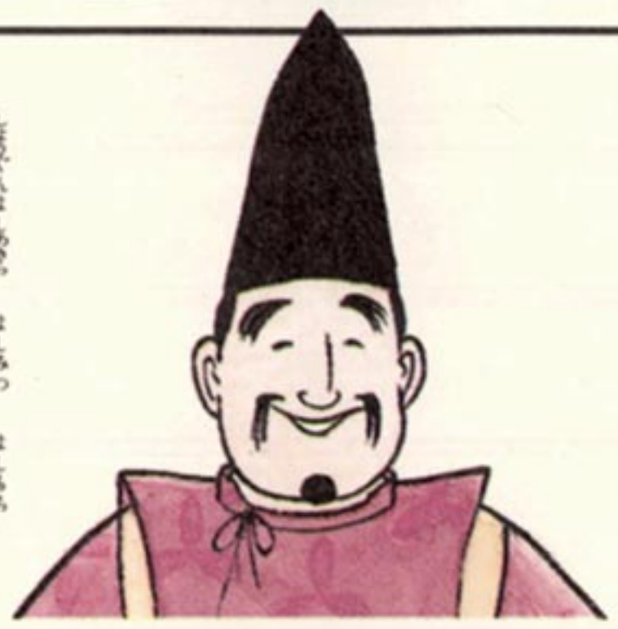
足利義満（一三五八～一四〇八年）

三代将軍。南北朝を統一し、幕府権力を確立する。「花の御所」や北山山荘を造営する。

細川頼之（一三二九～一三九二年）

守護大名。足利尊氏のもとで活やくし、管領となって三代将軍義満をたすける。

斯波義将（一三五〇～一四一〇年）



将軍義詮・義満・義持の三代にわたって管領をつとめ、対明外交でも活やくする。

大内義弘（一三五六～一三九九年）

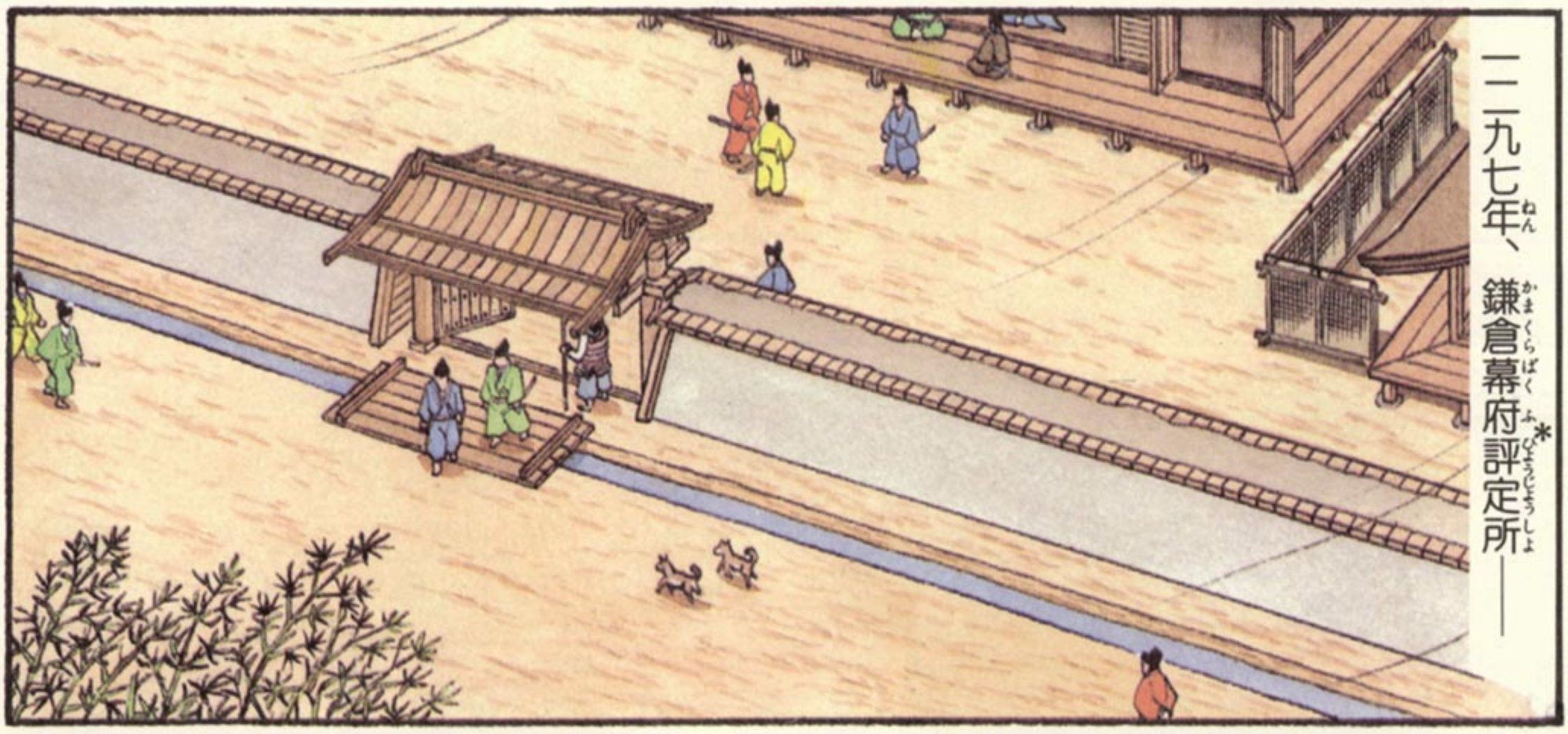
明徳の乱や南北朝合体の和平交渉に活やくする。応永の乱をおこして、戦死する。

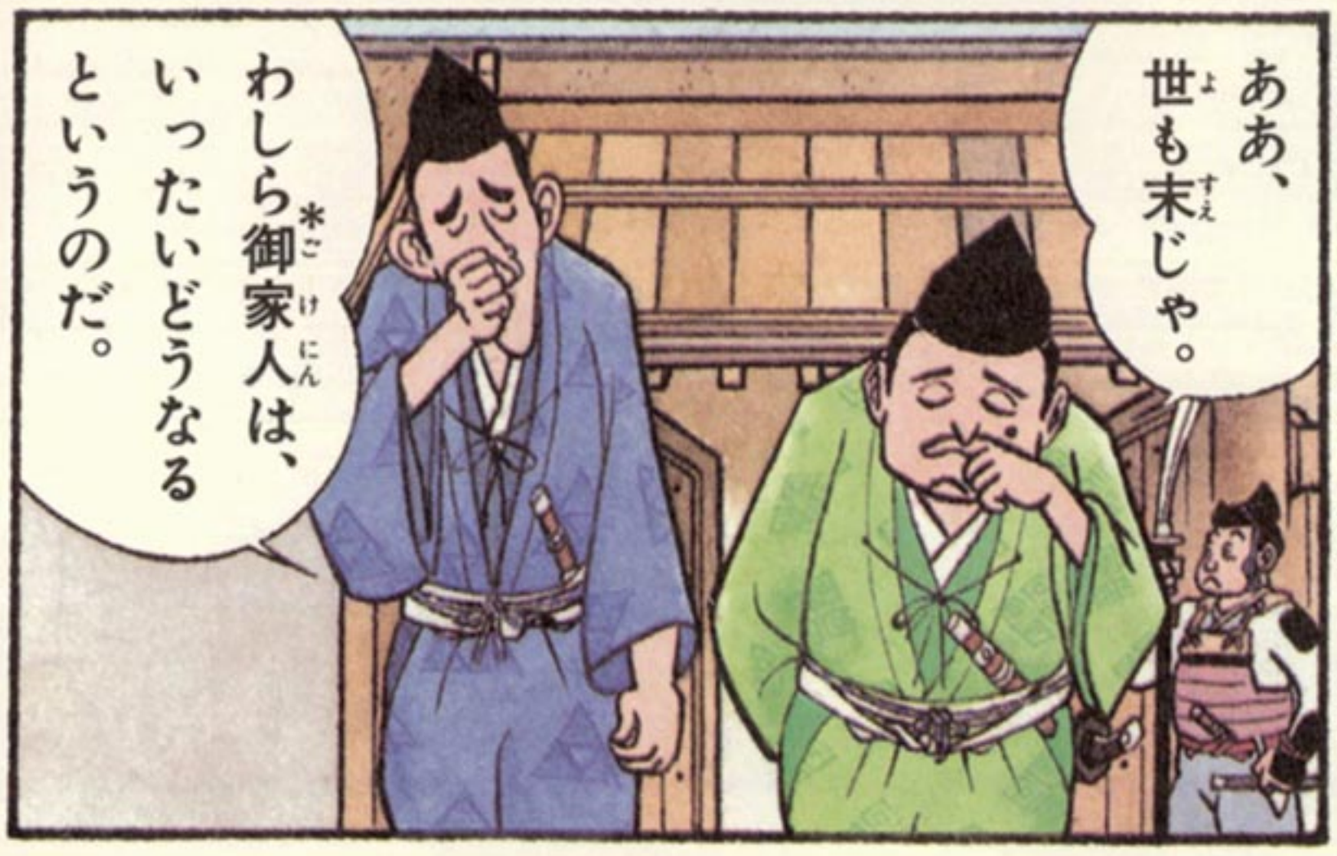
小学館 eBooks

第一章

鎌倉幕府ほろぶ

――鎌倉時代末期――





＊評定所…鎌倉幕府の正式な会議をする場所。

＊御家人…鎌倉時代に将軍との間で、主人と家来の関係をむすんだ武士。

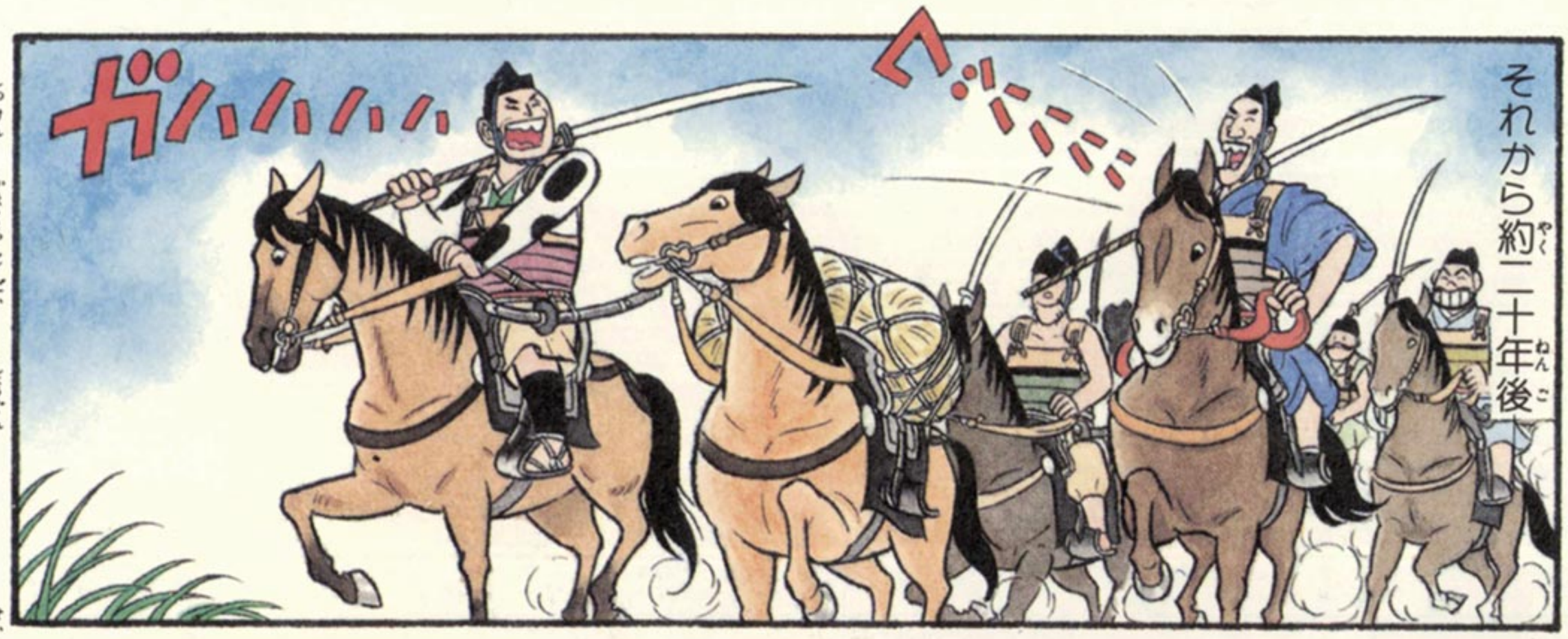
＊蒙古…元（一二七一年から一三六八年までつづいた中国の統一国家）のこと。第七巻第四章参照。

*無足…武士が自分の領地をもっていないこと。

こうした御家人たちの声に、この年三月、幕府はついに徳政令を出しました。この徳政令とは、御家人が質入れしたり、売ったりした土地を、ただでかえしてもらえるというものでした。

しかし、この徳政令によって、経済はたいへん混乱しました。けっきょく、翌年の三月に、徳政令はとりやめになりました。

*高札…規則や命令を書いて、町中などに高くかかげた立て札。



*播磨…兵庫県の西南部

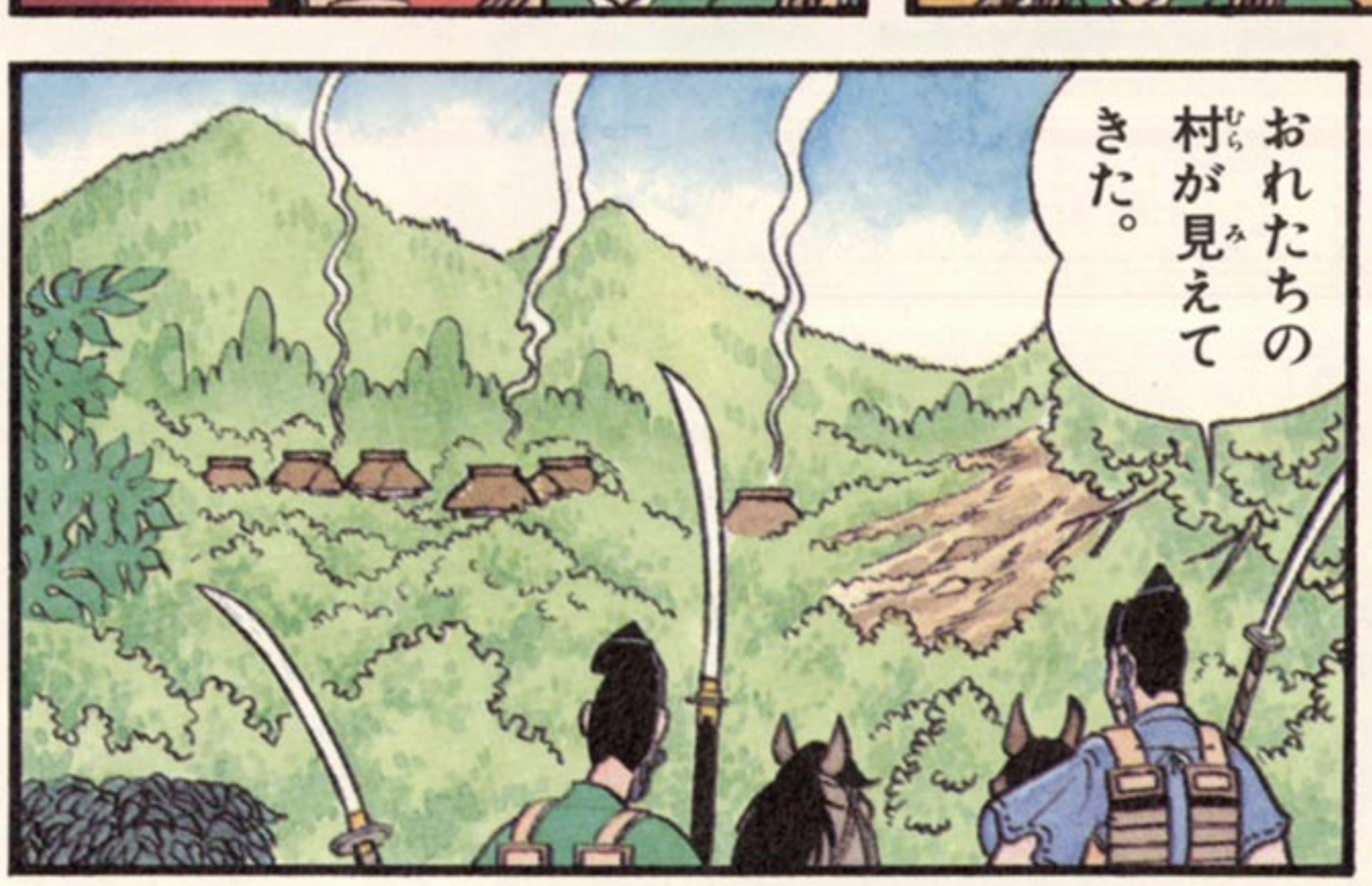
*荘園…奈良時代から戦国時代の末ごろまで、貴族や寺、神社がもっていた土地。

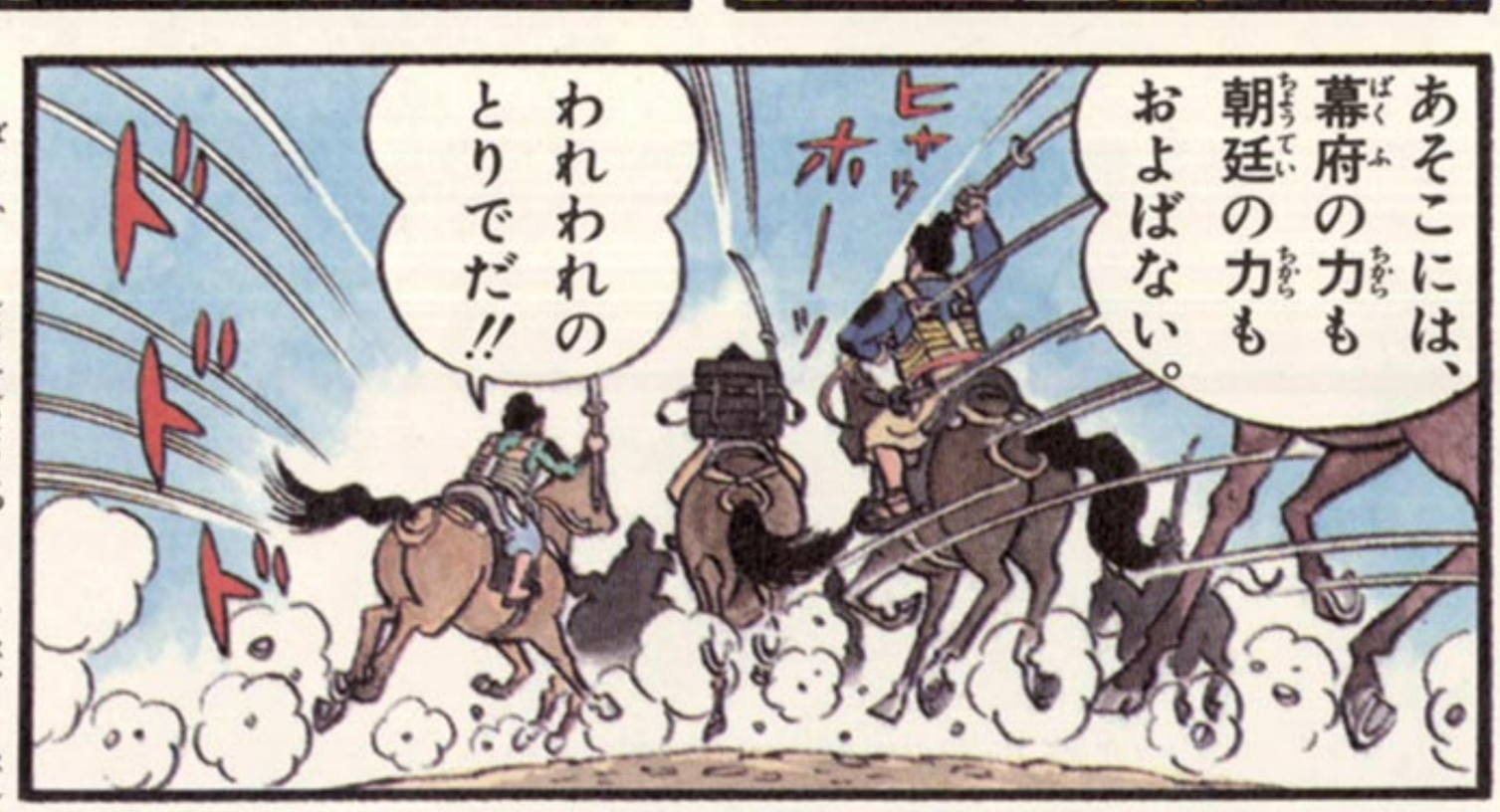
*執権…鎌倉時代に、将軍をたすけて政治をまとめた役職で、北条氏がつとめた。

*田楽…田植えのときに豊作をいのることからおこったおどりと音楽。

＊犬合わせ…犬をかみ合わせて勝負をさせるもよおし。闘犬ともいう。

政治をまかされた近臣の長崎高資らは、権力をふりかざして、わいろをとるなど、悪い政治を行いました。





幕府や荘園領主の支配に反対し、集団で略だつなどを行った人びとは、「悪党」とよばれました。

このころは、各地で悪党が勢力をのばし、そのなかにくわわった御家人も多くいました。

一三一七年、京の都では――

カーン カーン

この一月、京では大きな地震があったというが、まだたちなおっていないようだ。

二年前、鎌倉では大火事があって、だいぶ被害をうけたようです。

不吉なことよ。北条どのの世も、いつまでつづくことか……。

各地には、幕府にたいする不平不満が、ずいぶんあるようですね。

フーン フーン

もはや、幕府の力では、国をまとめていくことがむずかしいであろう……。

朝廷が、執権の北条さまにかわって、政治を行うことはできないのですか？

しっ！

……まず、無理じゃ。よほど強力なみかどが、あらわれないかぎりはな……。

天皇家が、二派に分かれてあらそっているようでは……。

二派に分かれているという、天皇家のことをお聞かせください。

うむ…。今からもう、五十年以上も前（一二五九年）のこと。

……そのころ権力があった後嵯峨上皇*が、後深草天皇に命令された…。

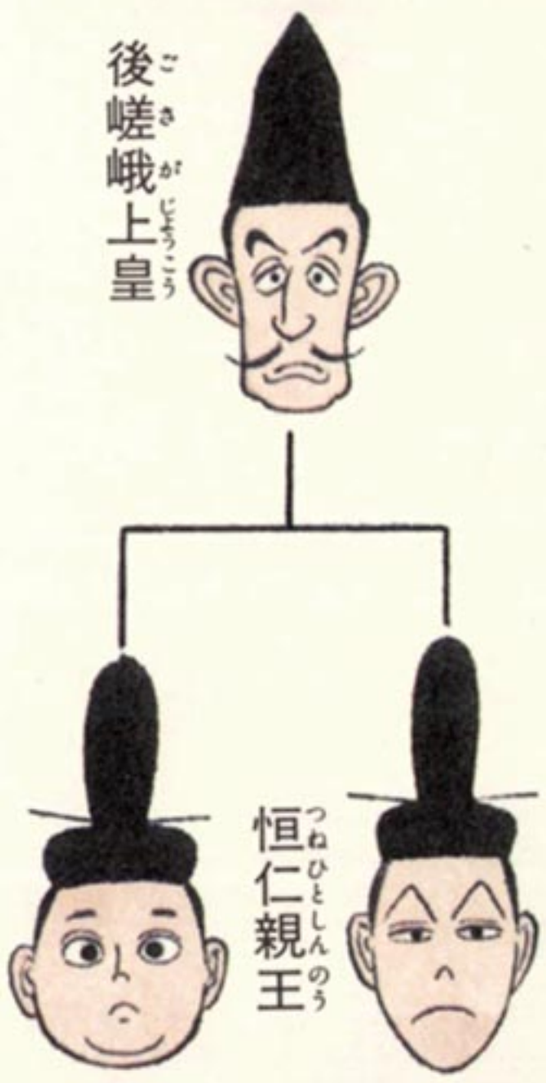
父親として、そなたに命令する。すなおにしたがうことじゃ。

後嵯峨上皇

後深草天皇

*上皇…位をしりぞいた天皇。

後嵯峨上皇の系図



みかどの位を、弟の恒仁にゆずるのだ!!

父上！わたしはまだ十七歳です。ゆずりたくありません!!

ええい、うるさい！

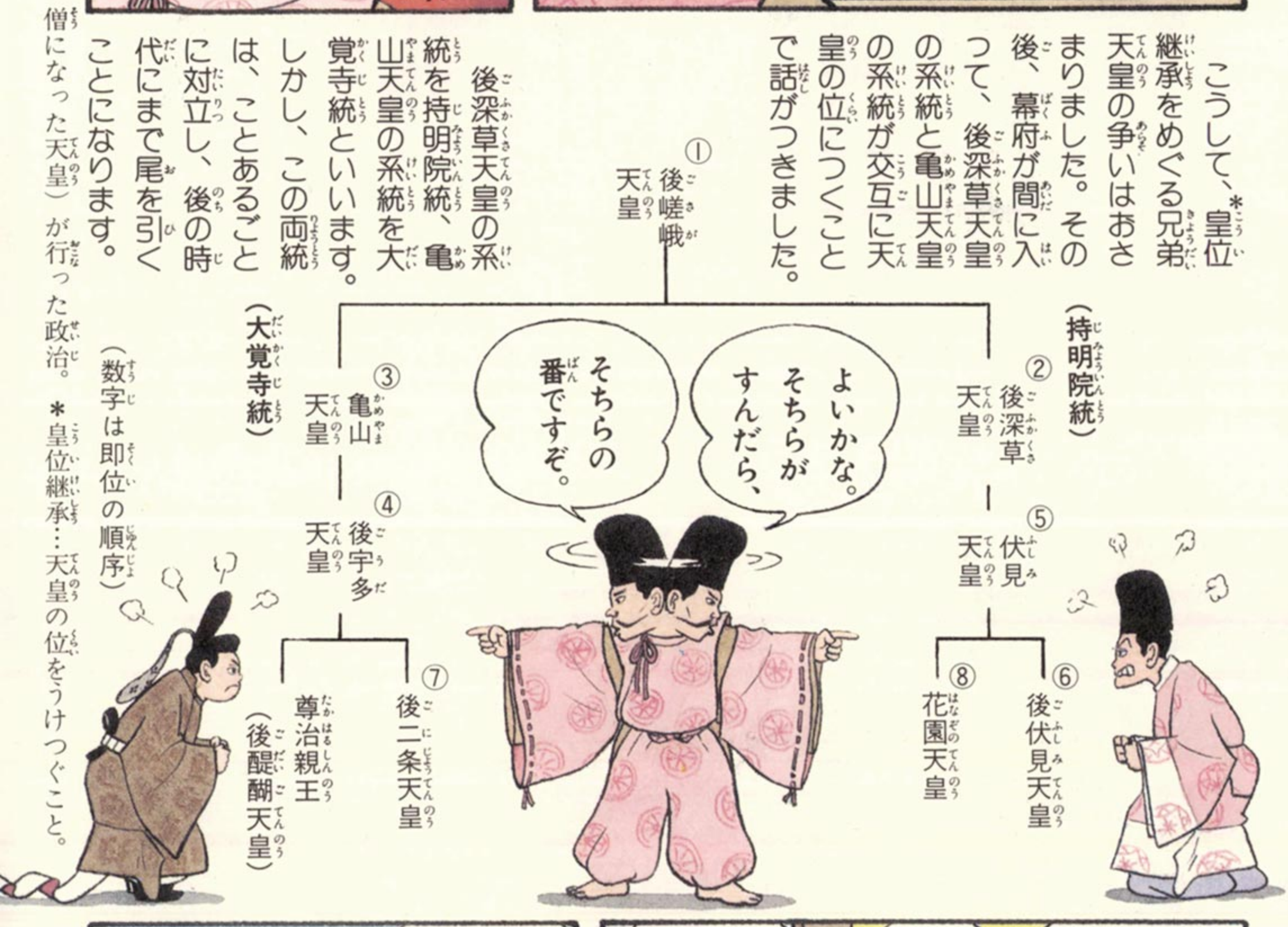
以後、恒仁の系統を、みかどにたてることにする！

弟の亀山天皇が即位し、後深草天皇は、上皇になりました。

そこで、後深草上皇は幕府の力をかりることにしたのじゃ。

わたしの系統からも、みかどを出さなければ…。

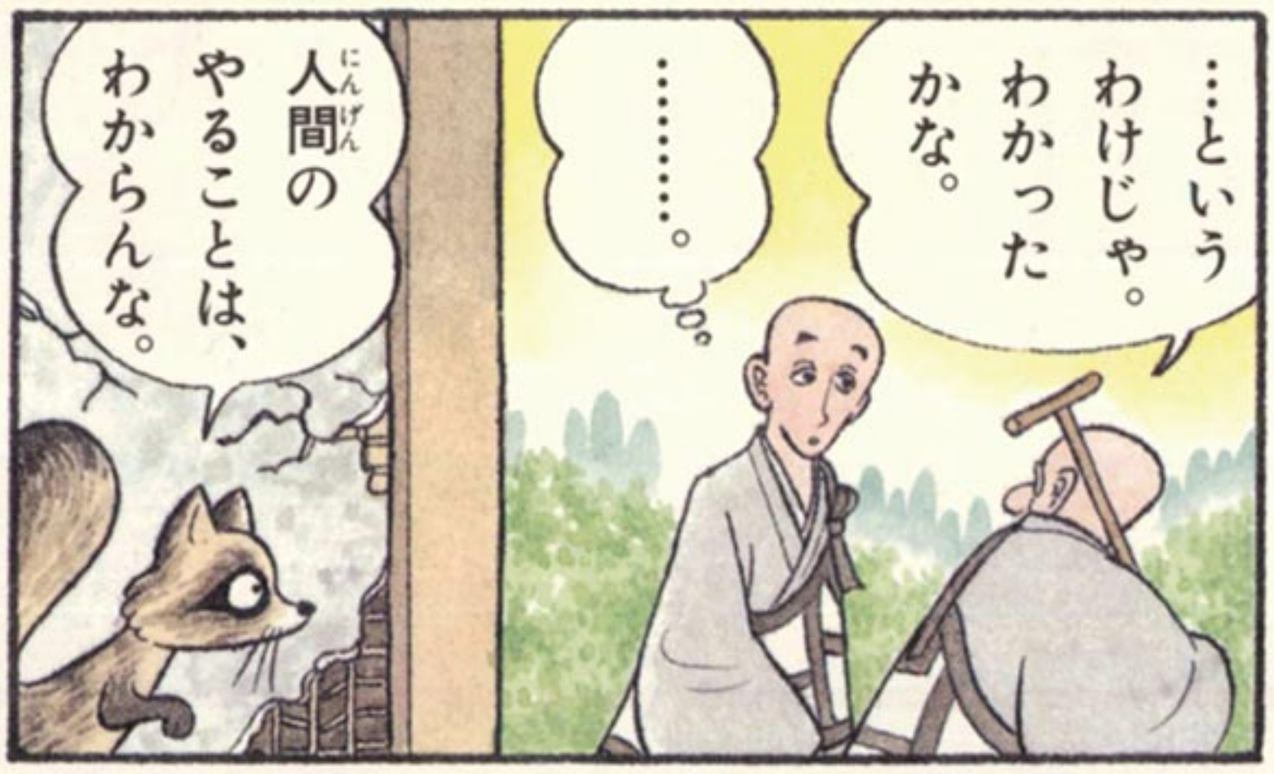
こうして、*皇位継承をめぐる兄弟天皇の争いはおさまりました。その後、幕府が間に入って、後深草天皇の系統と亀山天皇の系統が交互に天皇の位につくことで話がつきました。

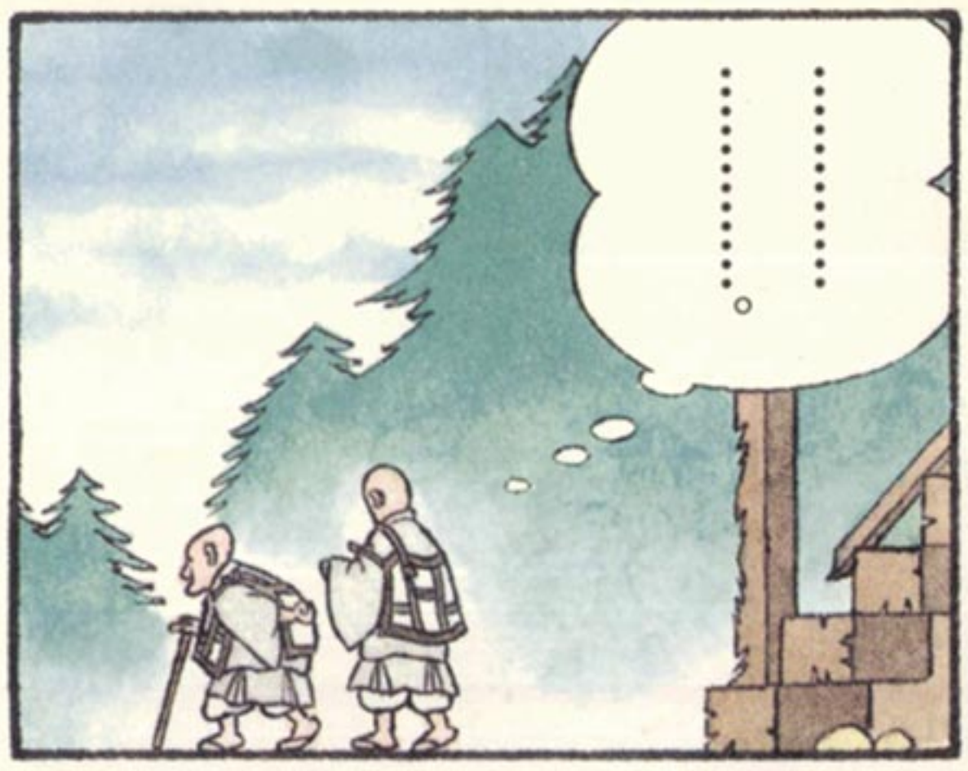


後深草天皇の系統を持明院統、亀山天皇の系統を大覚寺統といいます。しかし、この両統は、ことあるごとに対立し、後の時代にまで尾を引くことになります。

(数字は即位の順序)

*院政…上皇や法皇(位をしりぞき、僧になった天皇)が行った政治。*皇位継承…天皇の位をうけつぐこと。





一三一八年、持明院統の花園天皇のあとをうけて、大覚寺統の後醍醐天皇が即位しました。

長い間まったかいがあった。よし、やるぞ！

まず、院政をなくして、上皇中心から天皇中心の政治を行うようにせねば！

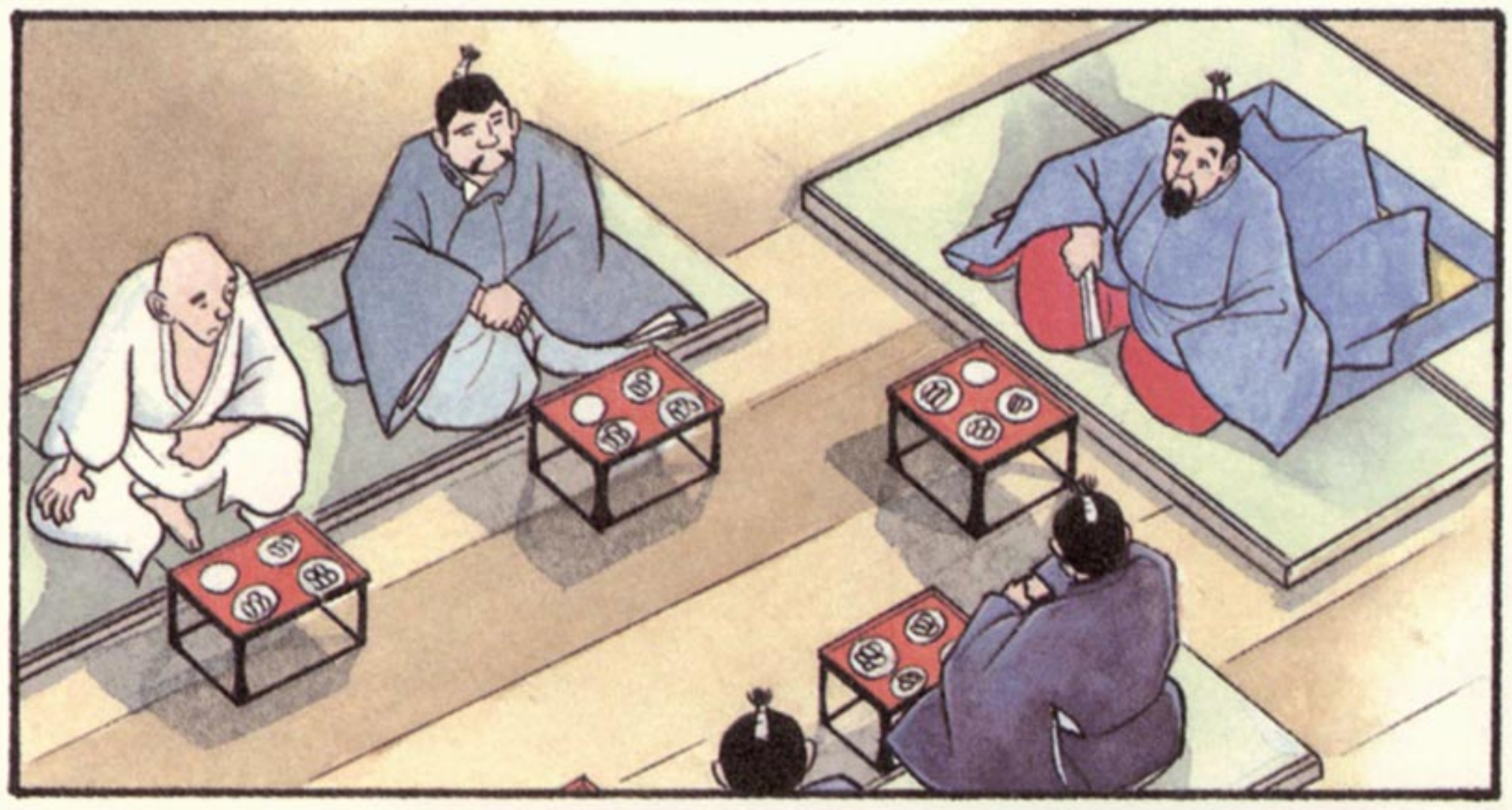
そして、今後、天皇は大覚寺統が代だいついでいくのだ。

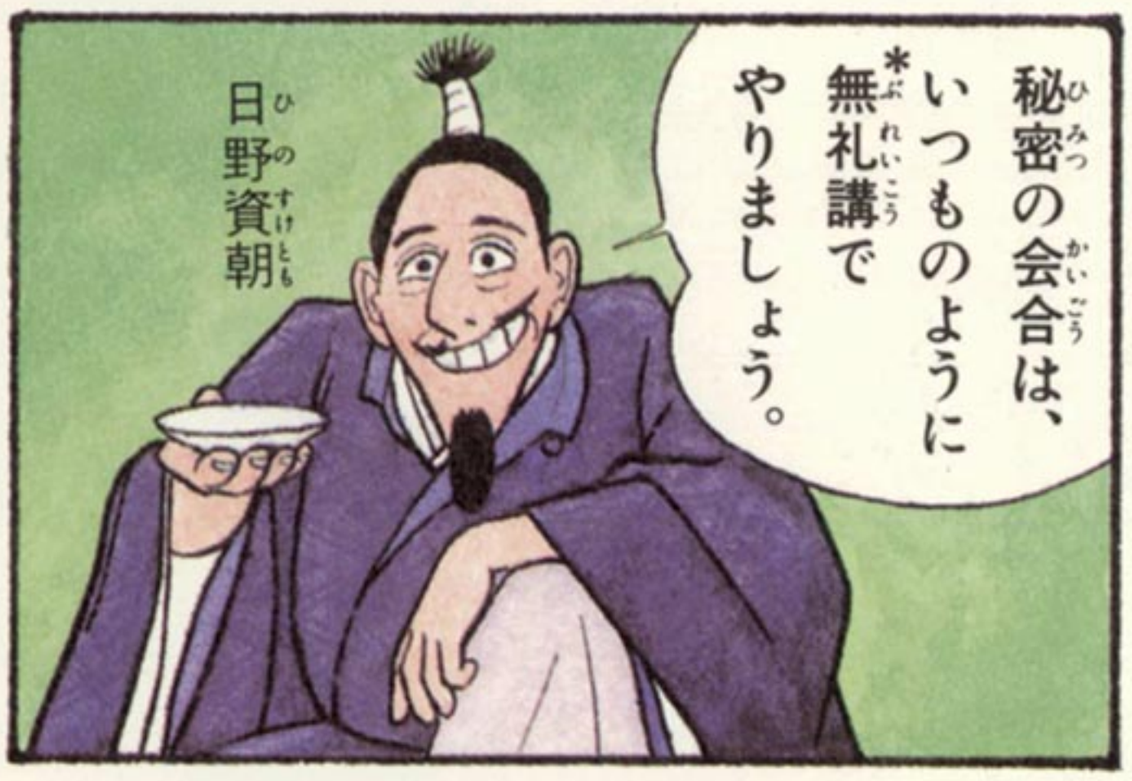
そのためには、皇位継承にまで口を出す幕府をたおさねば…。

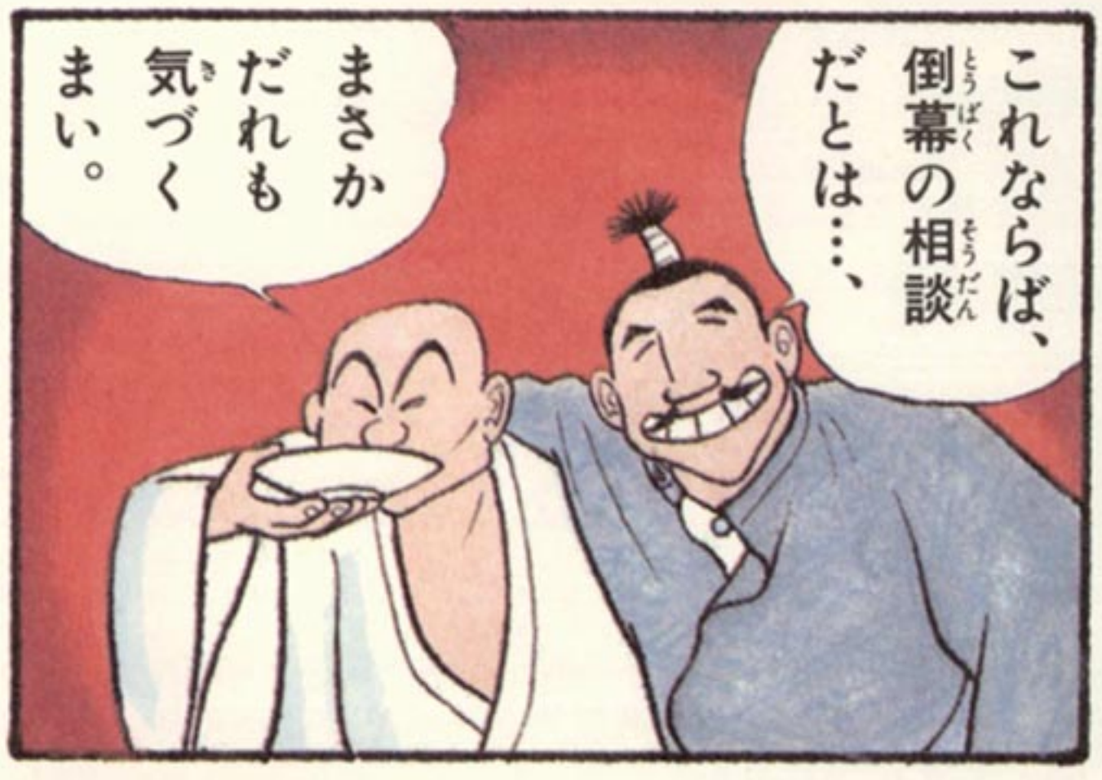
北条一門をほろぼせば、政治を武家からとりもどすことができるのだ！

政治

こうして、後醍醐天皇は、側近の公家たちとともに、ちゃくちゃくと倒幕の計画をおしすすめていきました。







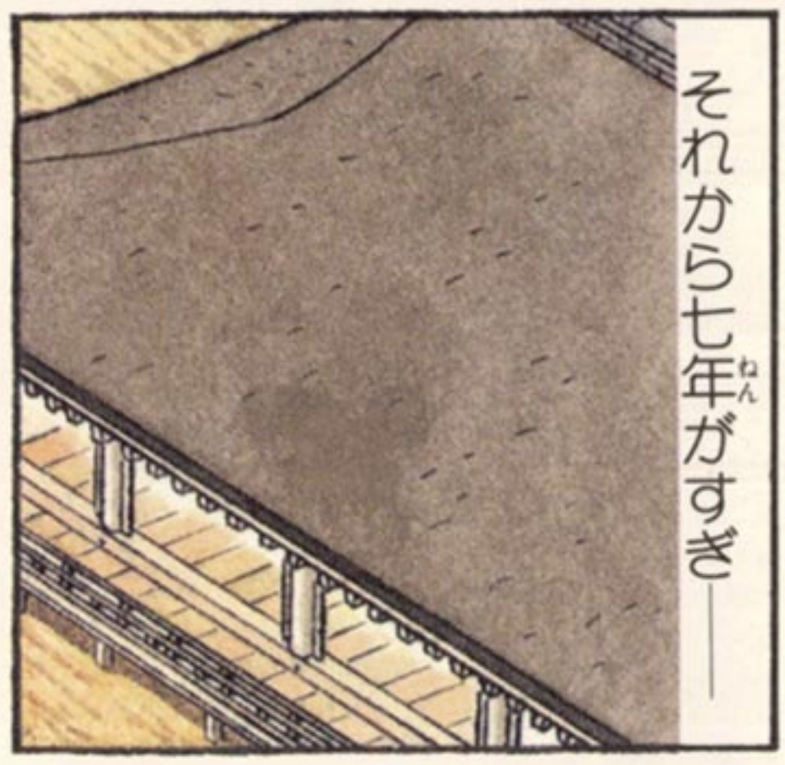
*無礼講…身分や年令の差別なく、礼儀ぬきで行う宴会。

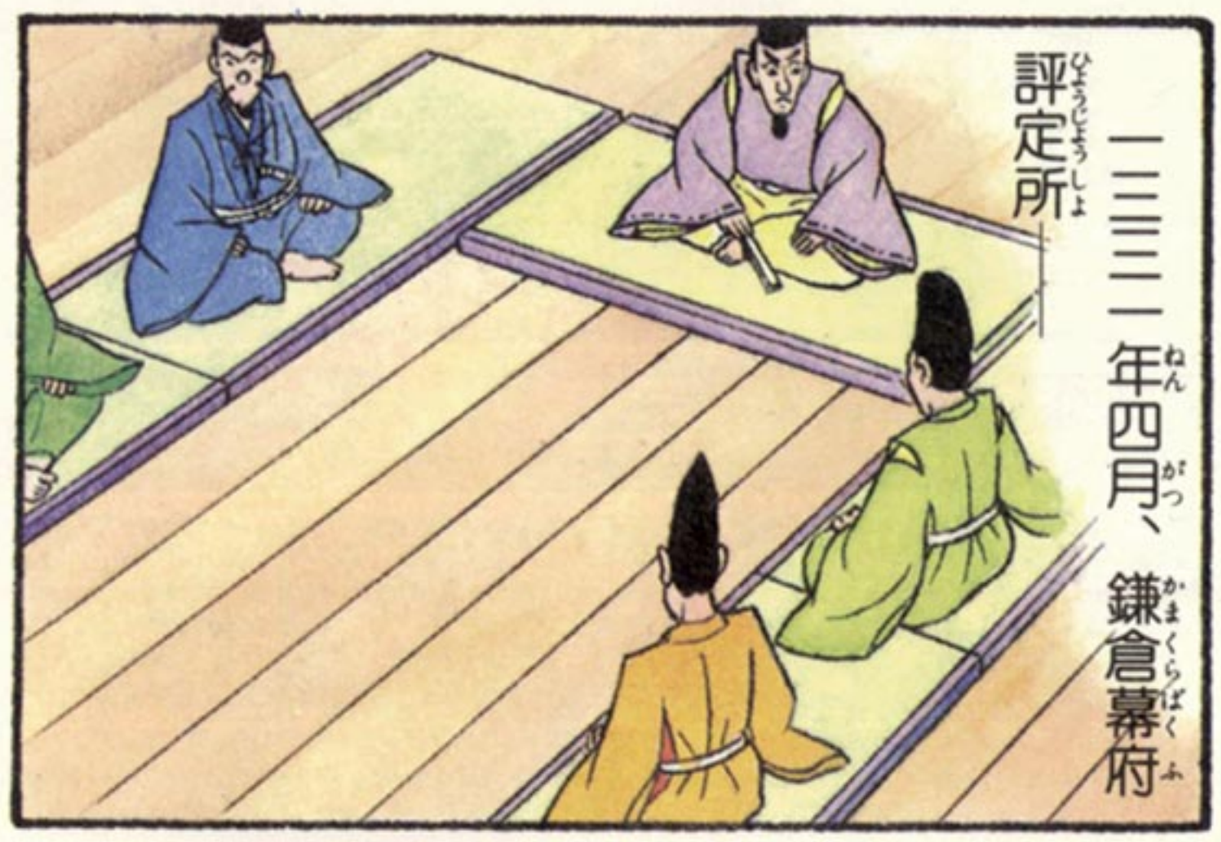
後醍醐天皇の倒幕計画は、失敗しました。

このできごとを、「正中の変」といいます。

天皇側近の日野資朝と俊基は主謀者とされ、資朝は佐渡ケ島*にながされました。

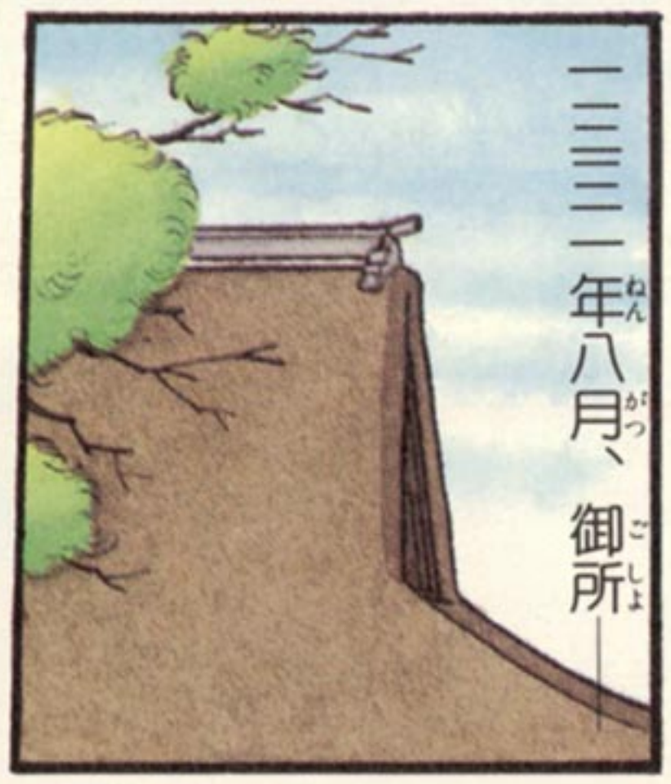
*佐渡ケ島…北陸地方の北、日本海にある島。今の新潟県の一部。

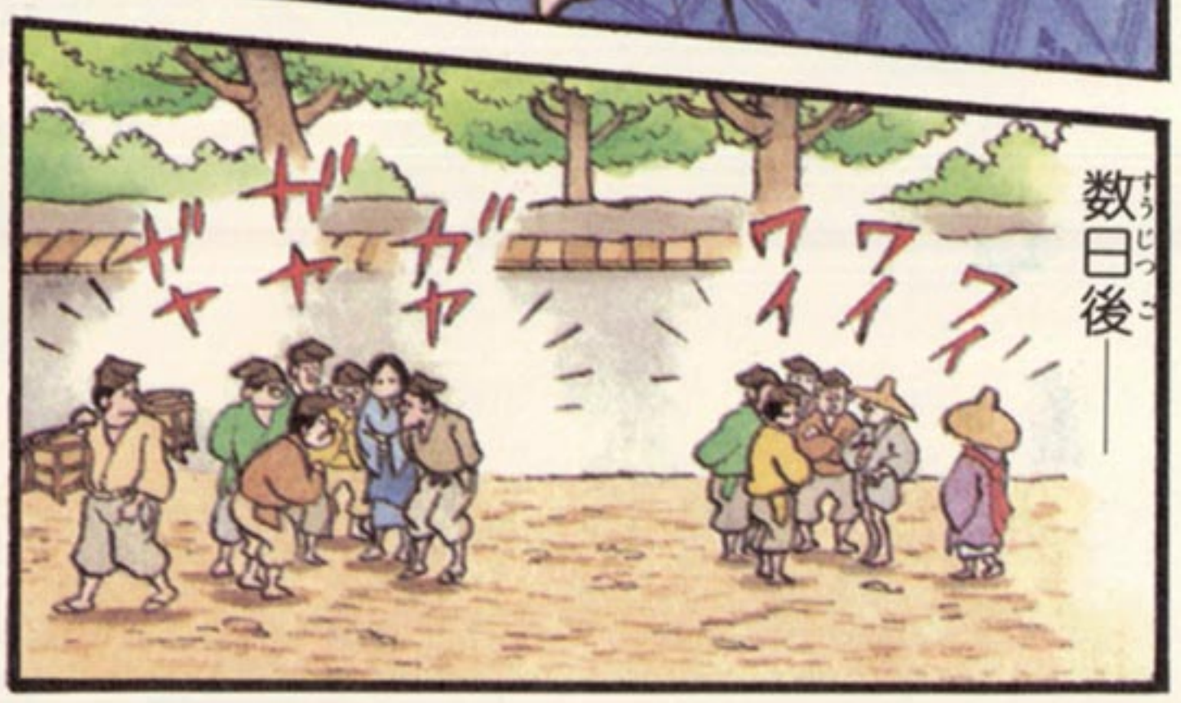




こうして
この年の五月、
倒幕をめざす
一味はつかまり
ました。
その中には、
正中の変の
罪をゆるされて
鎌倉から京に
もどっていた日野
俊基なども入っていました。
このできごとを、「元弘の変」と
いいます。

*得宗…執権北条氏一族の本家（一族の中心となる家）のあとつぎ。





*内管領……鎌倉時代後期、御内人（得宗につかえた武士）の代表者。

*比叡山……滋賀県大津市にある延暦寺のこと。天台宗の総本山。

*六波羅探題…承久の乱（一二二一年）後、鎌倉幕府により京都におかれ、おもに西日本の政治・裁判などをおこなった役職。

*笠置山…京都府相楽郡笠置町にある山。山上には笠置寺がある。

*僧兵…なぎなたや弓で武装した僧。

*木津川…三重県と京都府をながれる川で、下流は淀川になる。

*河内…大阪府の南東部

笠置山では、ちゃくちゃくと守りがかためられ、*大和、河内、*伊賀、*伊勢などの国ぐにから味方がやってきました。

カーンコーン

お味方、ごくろう!!

おう!!

てっ、敵だ!! 幕府の軍勢だ!!

!?

かかれっ!!

それっ!

ワー ワー

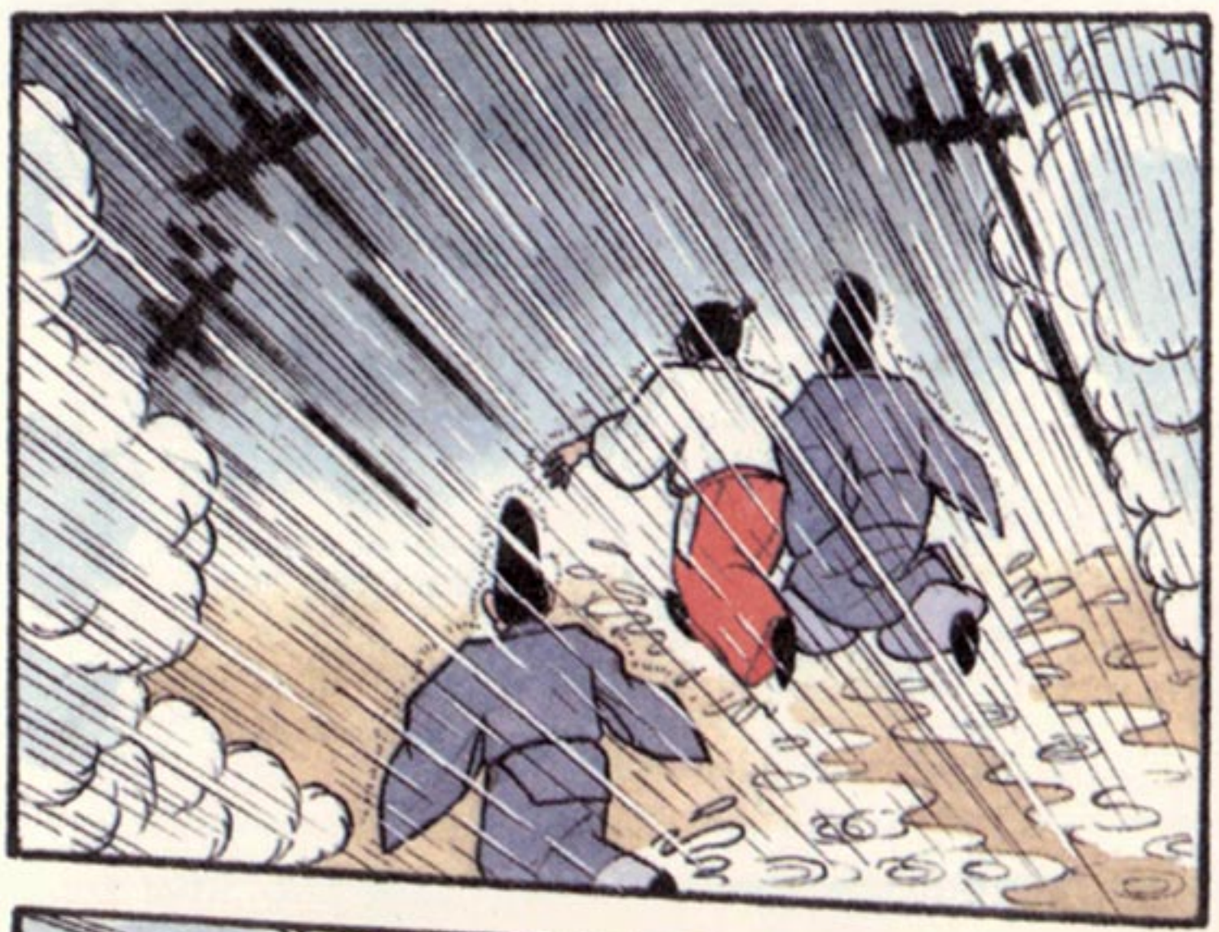
引くな!!

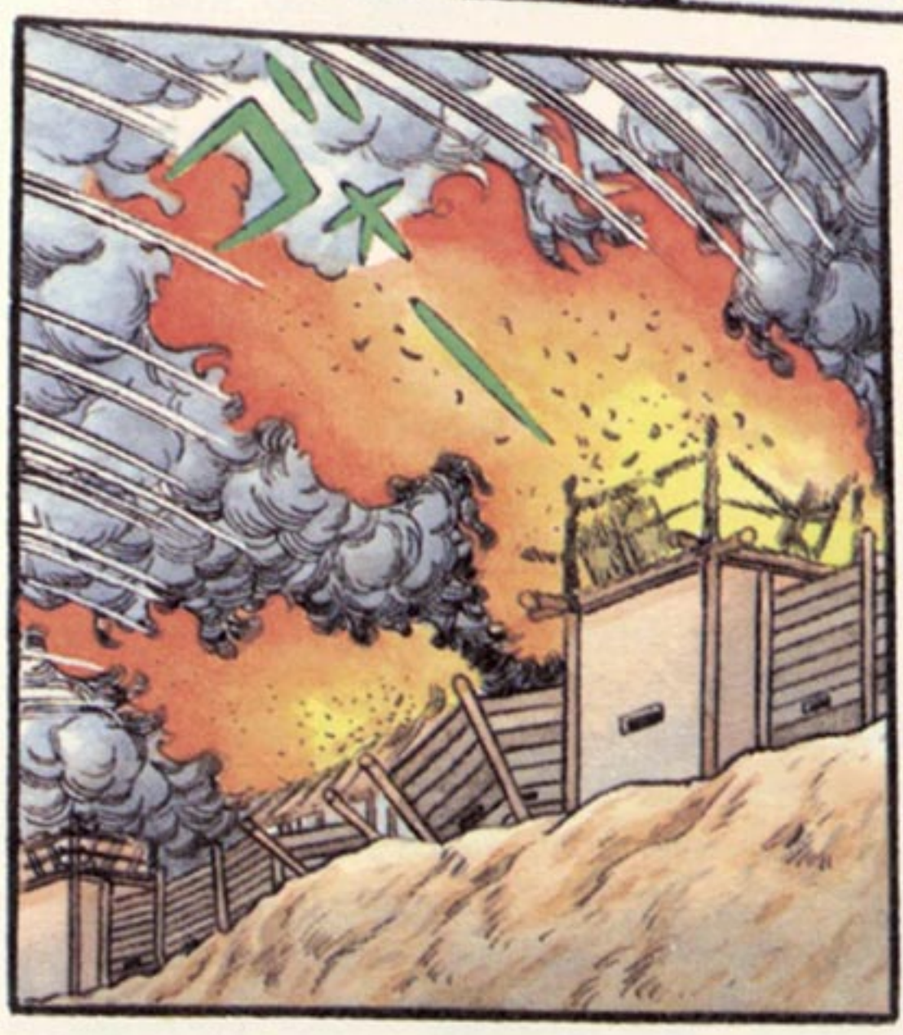
とどまれ!!

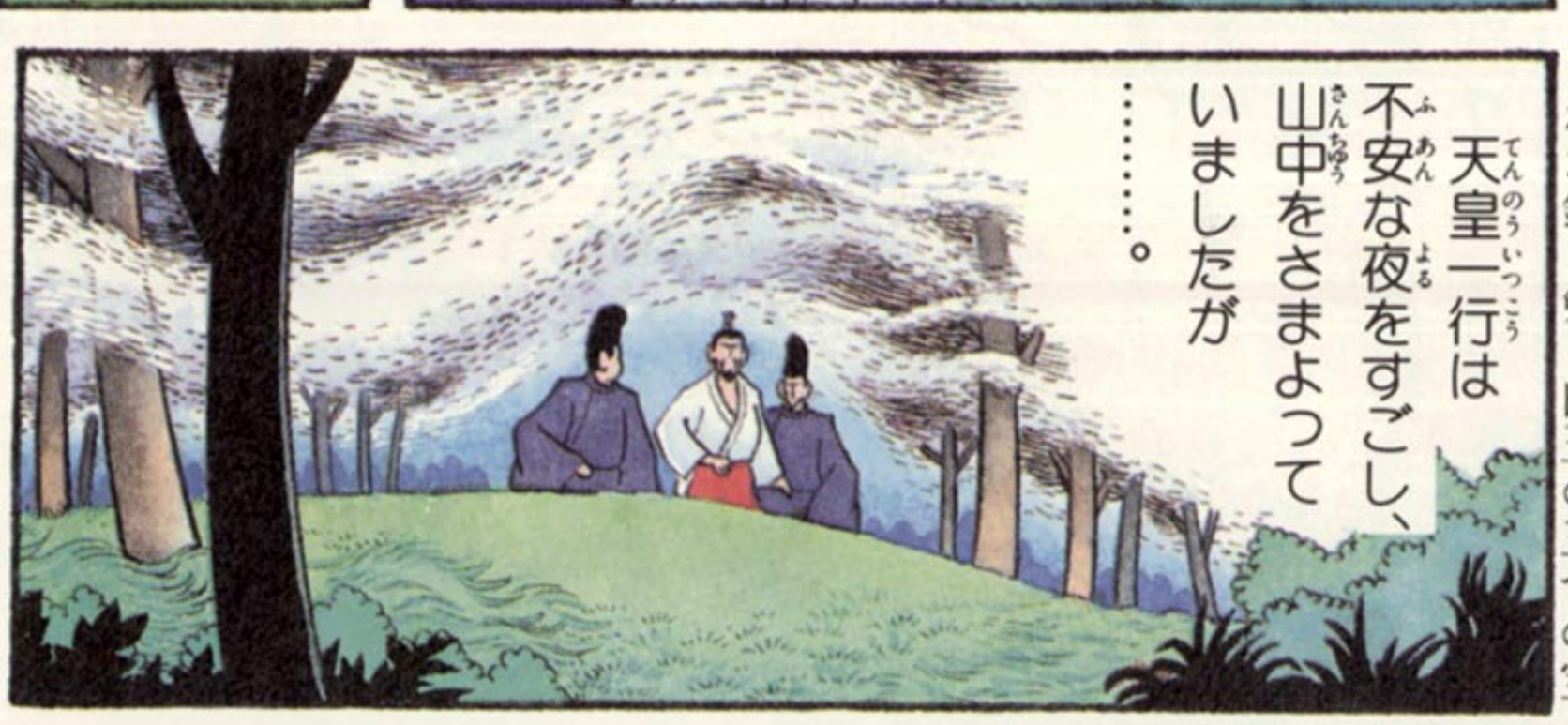
ワーワーワー

戦いは二十日以上つづきましたが、ついに天皇方は……。

*大和…奈良県　*伊賀…三重県の北西部　*伊勢…三重県の大部分







けっきょく、後醍醐天皇らはとらえられました。そして、幕府は天皇からむりやりに*三種の神器をゆずりうけ、持明院統の光厳天皇を即位させました。

＊赤坂…大阪府南河内郡千早赤阪村

＊三種の神器…皇位のしるしとして代だい天皇家につたえられた鏡・剣・曲玉の三つの宝。

一方、河内にもどっていた楠木正成は、*護良親王（後醍醐天皇の皇子）らとともに赤坂城にたてこもりました。やがてここにも幕府の大軍が――。

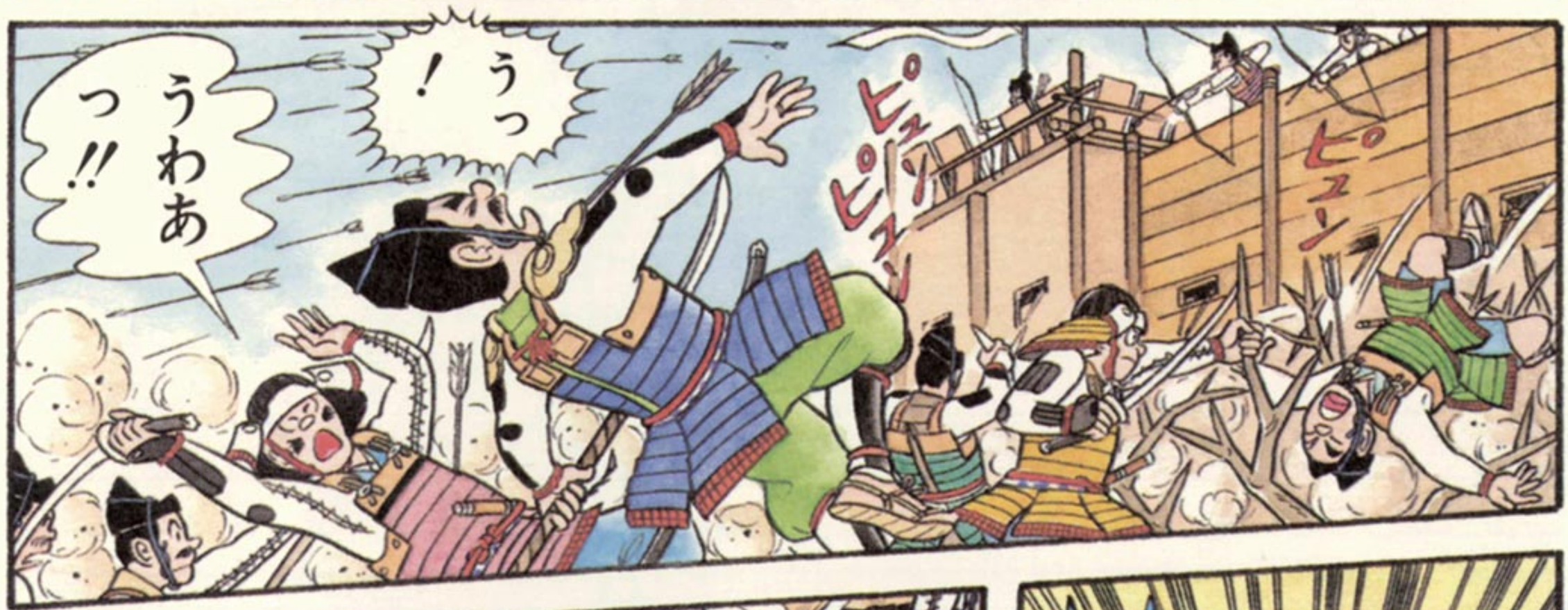
かかれっ！

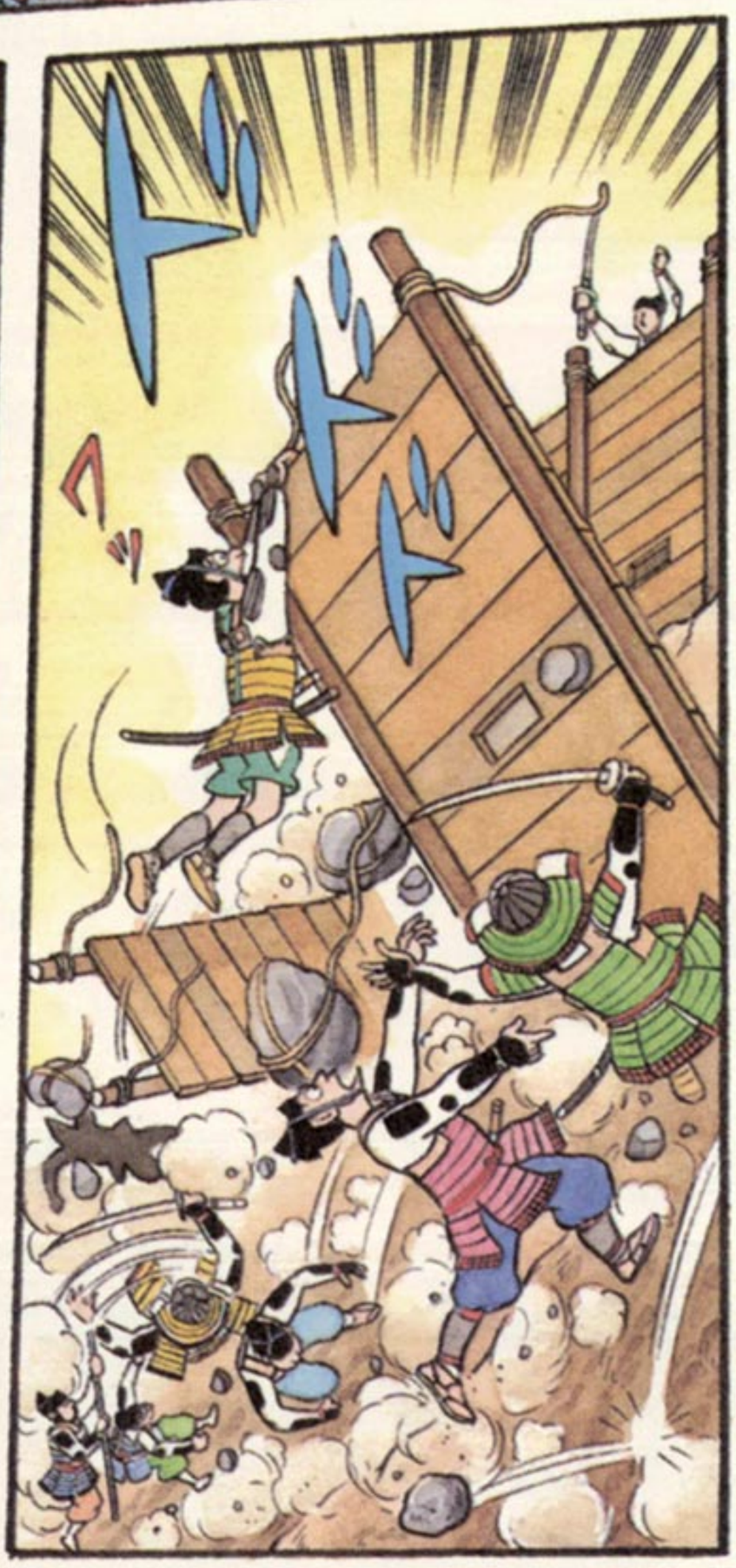
行くぞ！

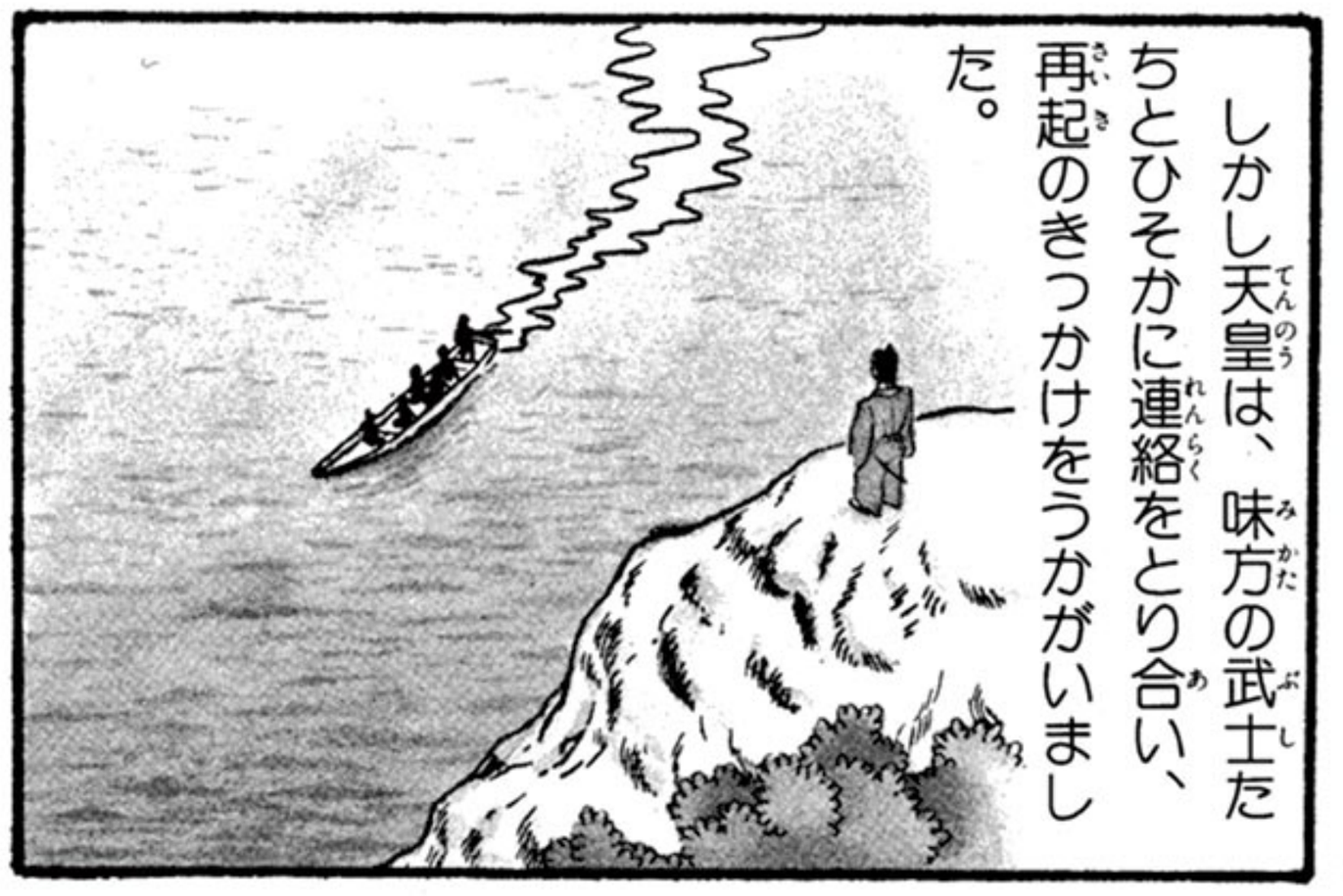
オーッ

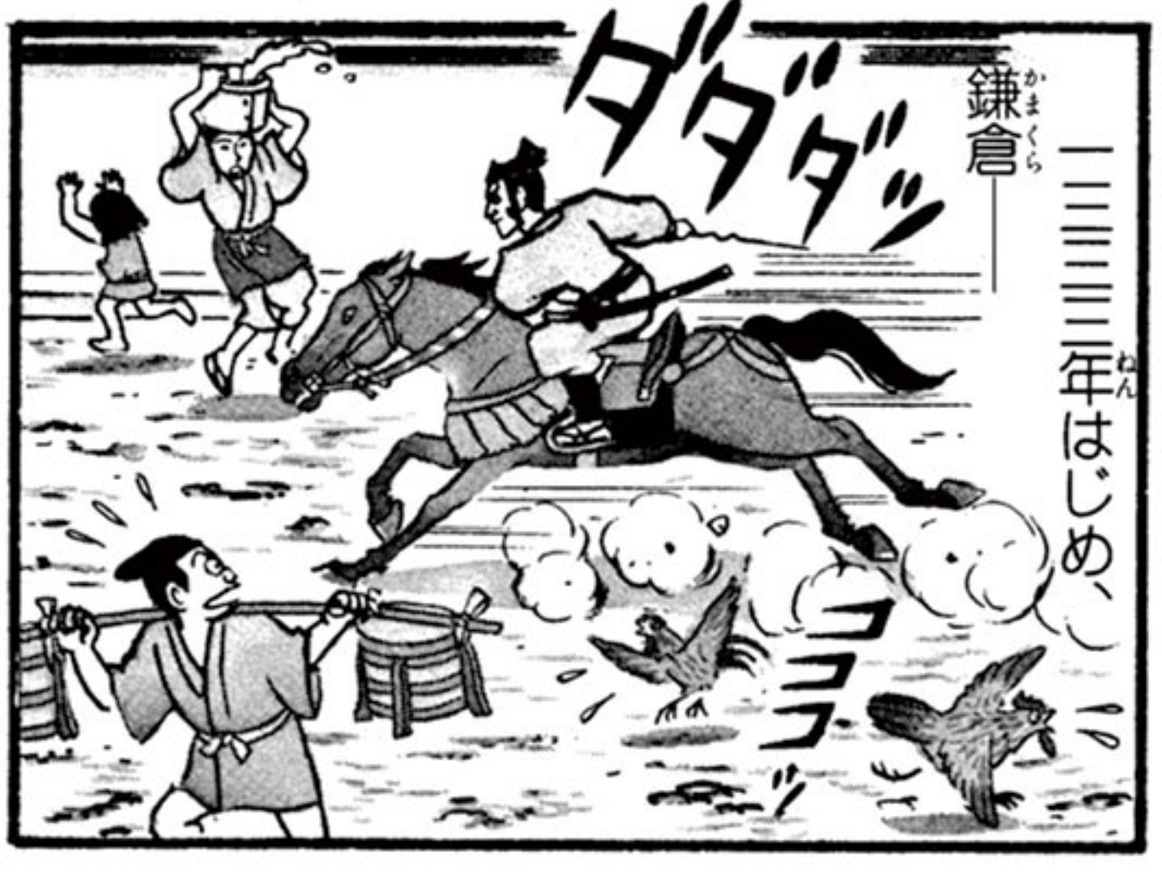
ワーッ

*護良親王…「もりなが」親王ともいう。









*隠岐…島根県北東部、日本海にある島。

*和泉…大阪府の南部

*吉野…奈良県南部の山地。

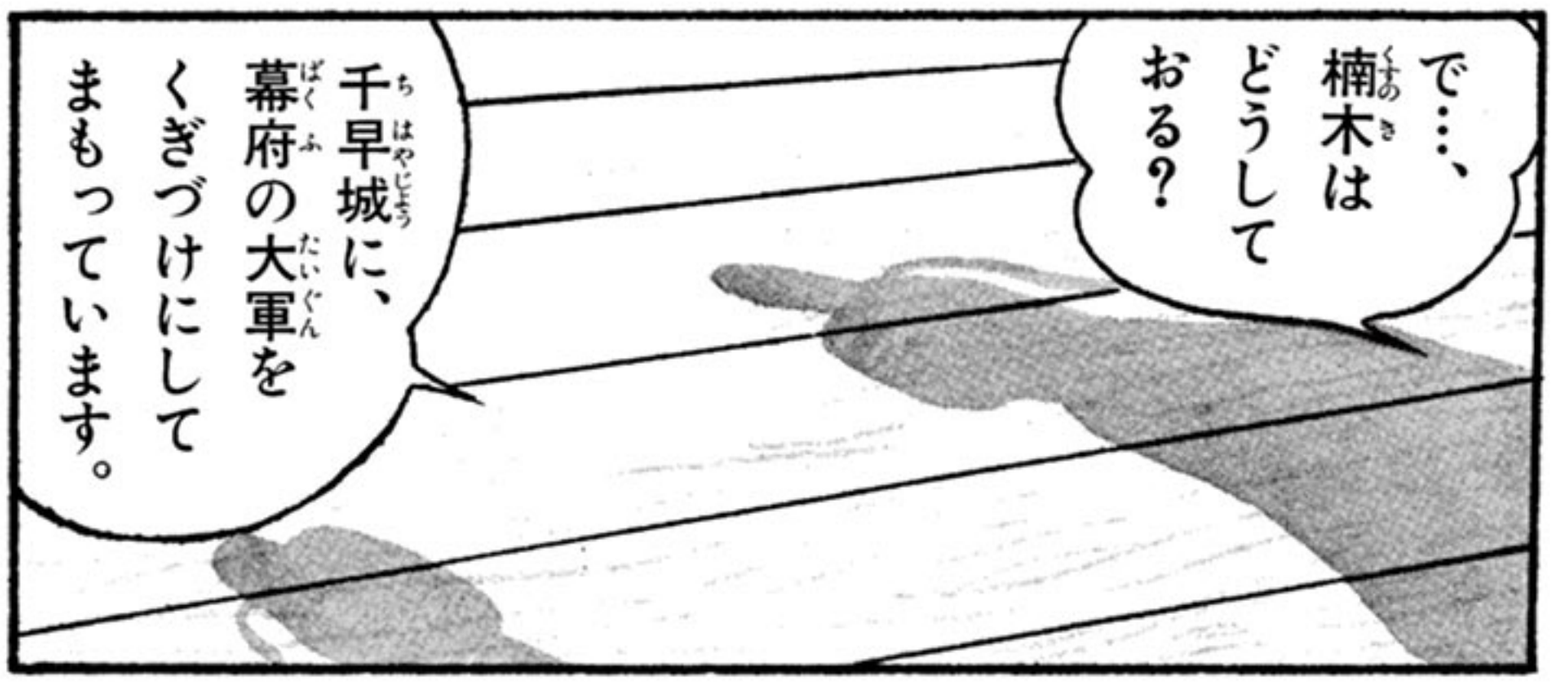
*金剛山…大阪府南東部と奈良県との境にある山。

*千早城…大阪府南河内郡千早赤阪村にあった山城。

ええい！
ワー
ゴロ
ドッ
ギャー
ビュー

金剛山につらなるけわしい山地にきずかれた千早城は、深い谷にかこまれた、守りのかたい山城です。

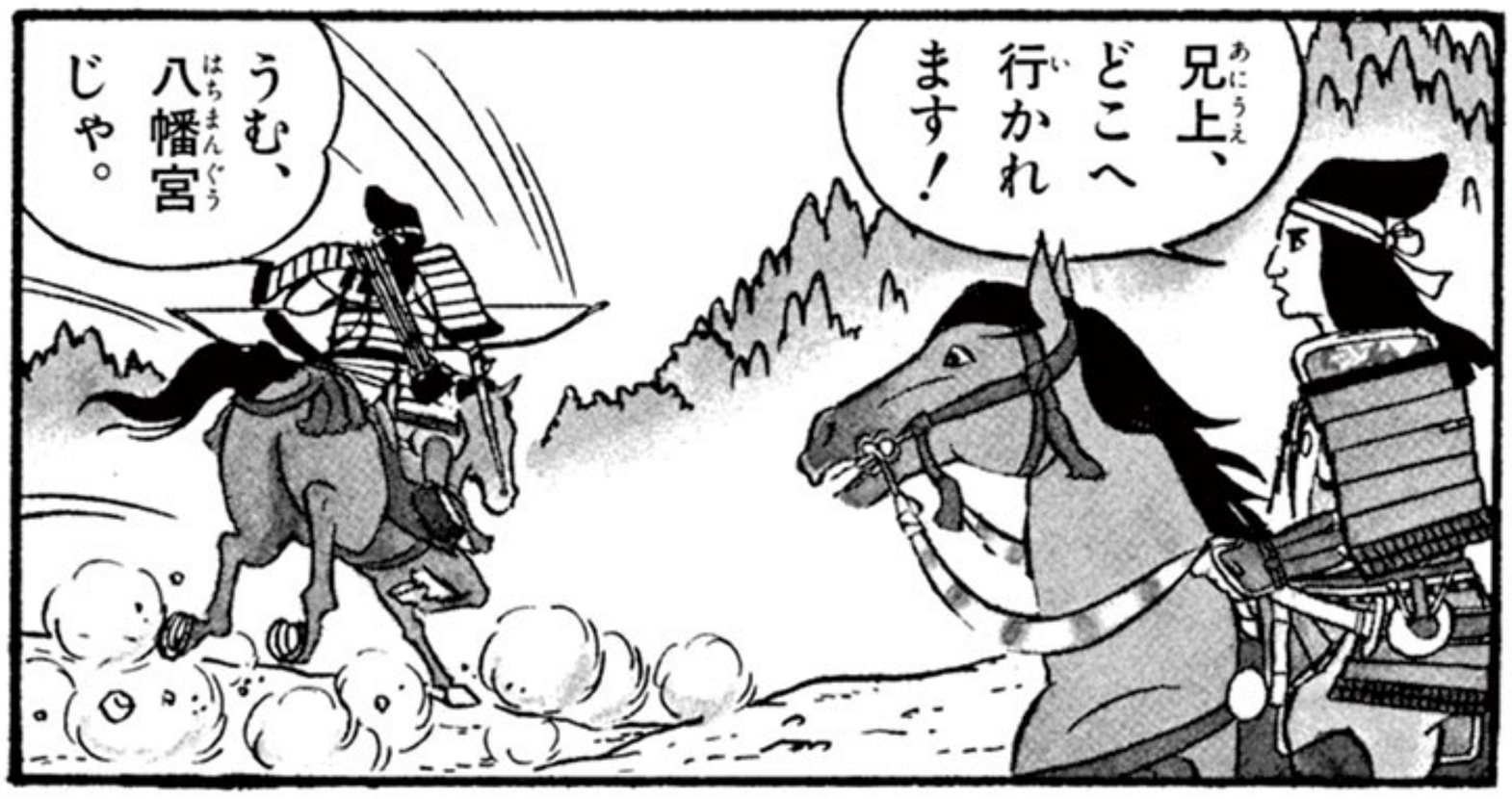
ここにたてこもった正成は、よろいを着せたわら人形で敵をおびきよせて、上から岩をおとすなどの、思いもよらぬ戦術で、幕府軍に大打撃をあたえました。

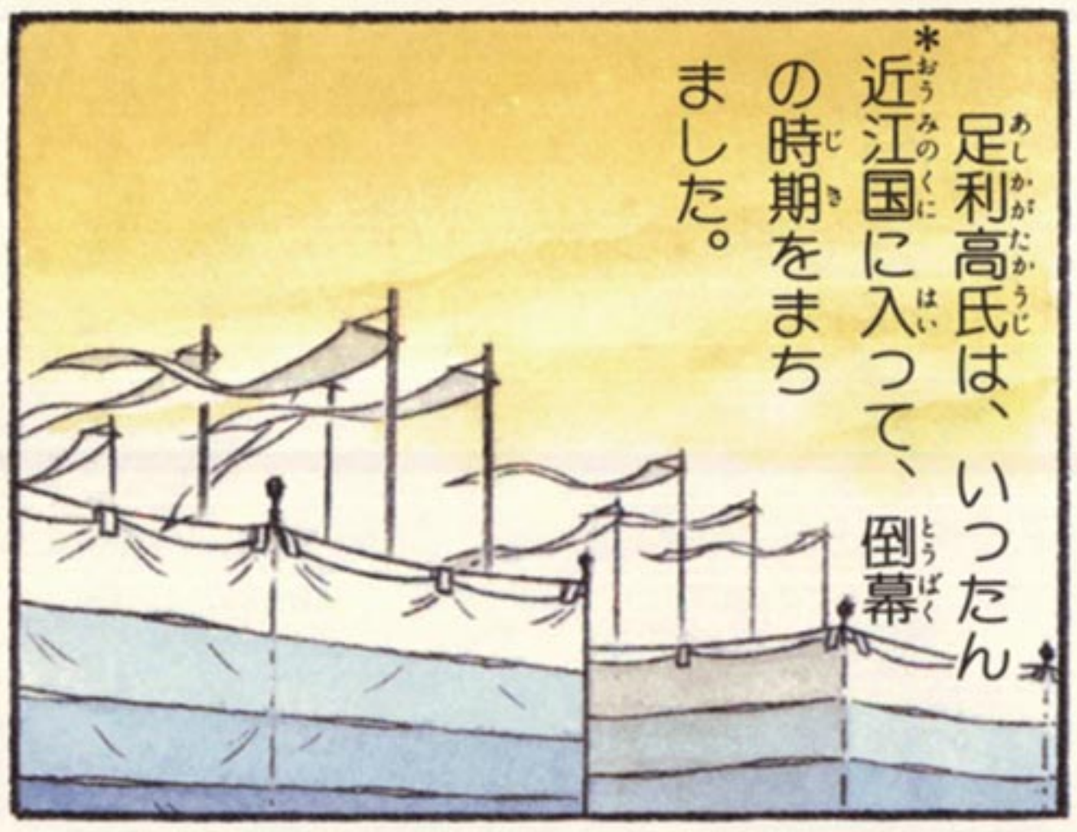


*伯耆…鳥取県の西部

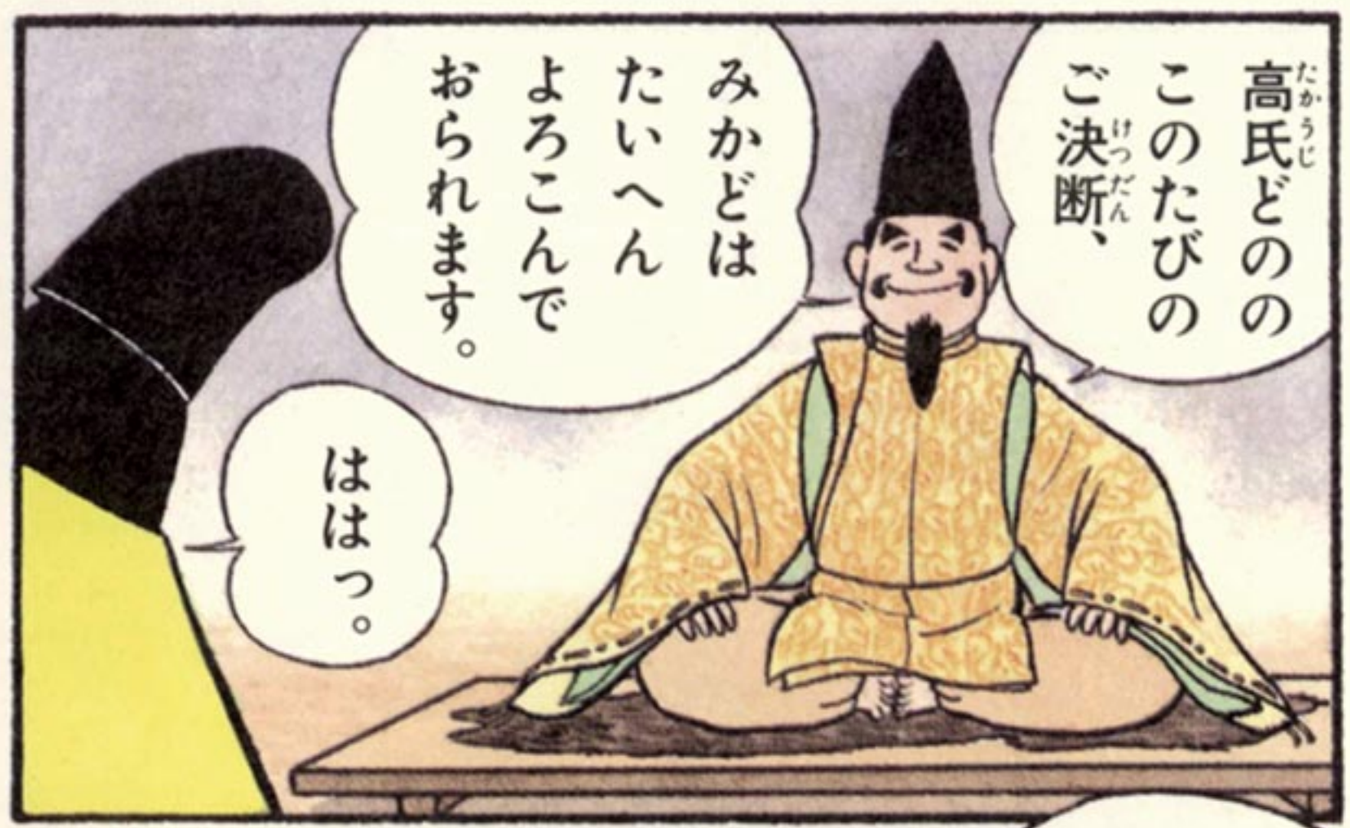
*常陸…茨城県　*下野…栃木県

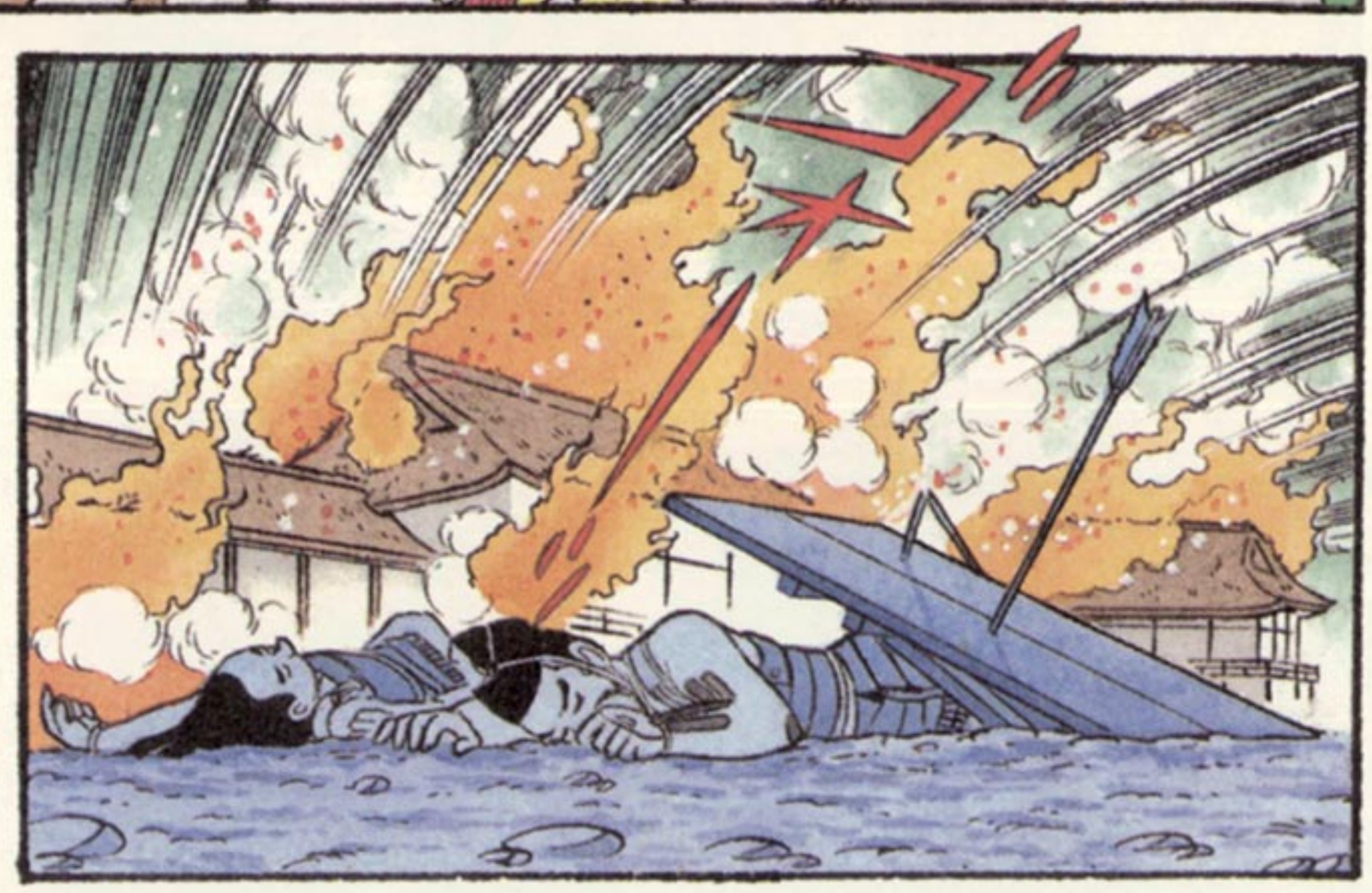
＊丹波…京都府の中部と兵庫県の東部





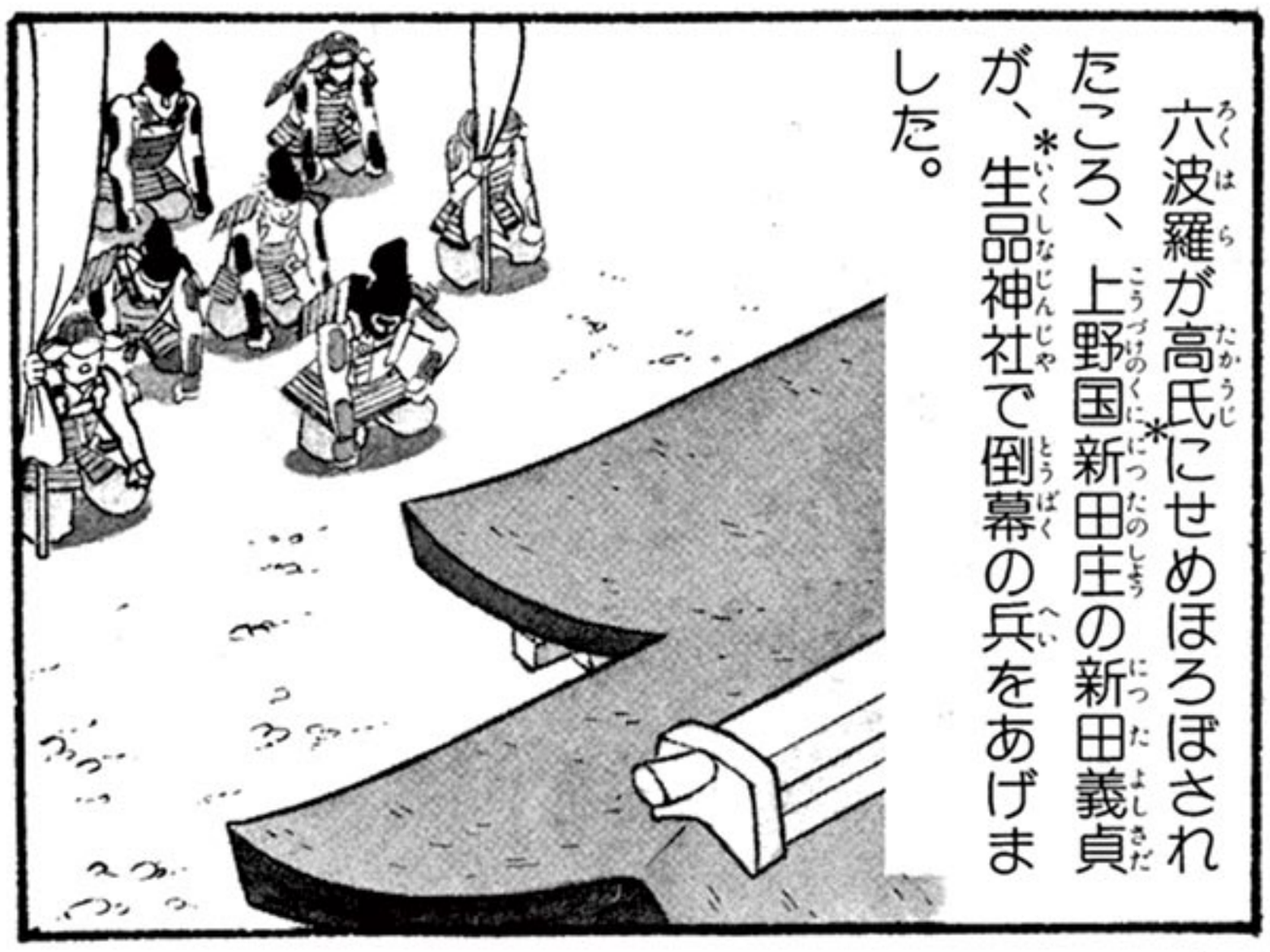
*篠村八幡宮…京都府亀岡市にある神社。
*氏神…一族の守り神。
*近江…滋賀県





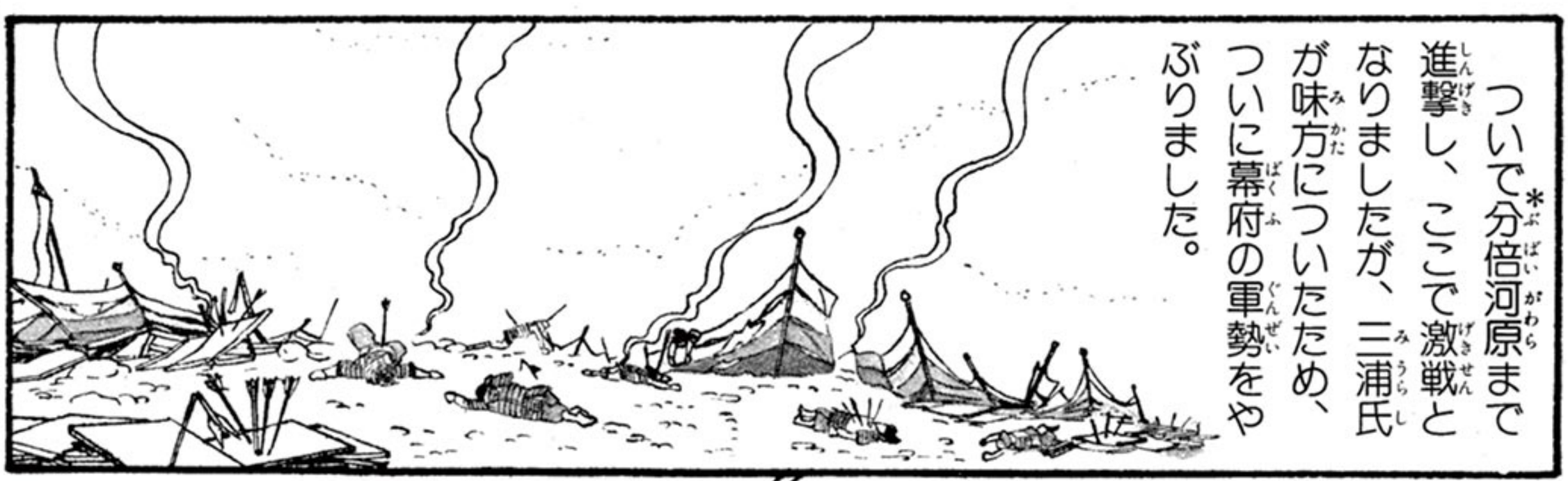
こうして一三三三年五月八日、京に突入した足利高氏の軍勢によって、六波羅探題はせめおとされました。

一方、隠岐を脱出して伯耆で待機していた後醍醐天皇は、このうれしい知らせに、さっそく京にもどる準備をはじめました。



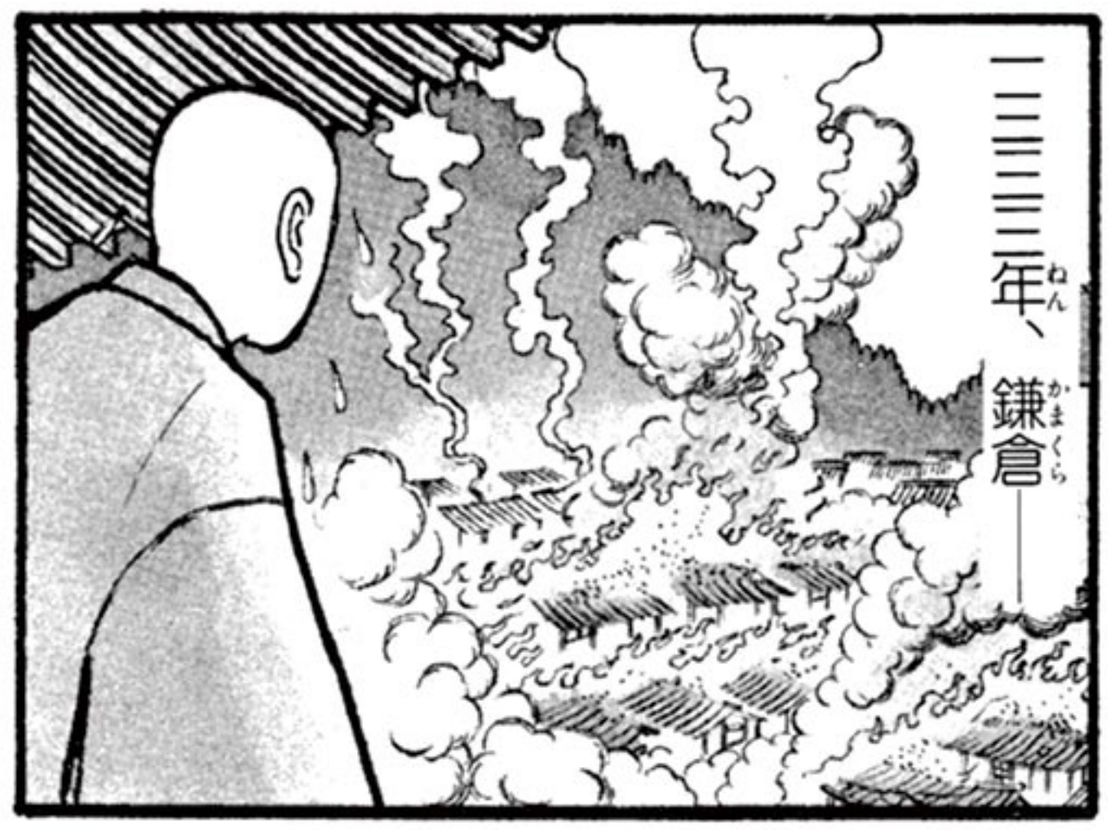
六波羅が高氏にせめほろぼされたころ、上野国新田庄の新田義貞が、生品神社で倒幕の兵をあげました。

新田義貞の軍勢は、小手指原の戦いで幕府軍をやぶり――。



ついで分倍河原まで進撃し、ここで激戦となりましたが、三浦氏が味方についたため、ついに幕府の軍勢をやぶりました。

ワー
ウオー
ウオー
ウオー
ドドド



*信濃…長野県

こうして、源頼朝がきずいた鎌倉幕府は、後醍醐天皇方についた武士たちの活やくによって、ついにほろぼされてしまいました。

鎌倉幕府――北条氏の政治のあり方に不満をもって立ちあがった武士たちは、後醍醐天皇の新しい政治に大きな期待をよせていました。

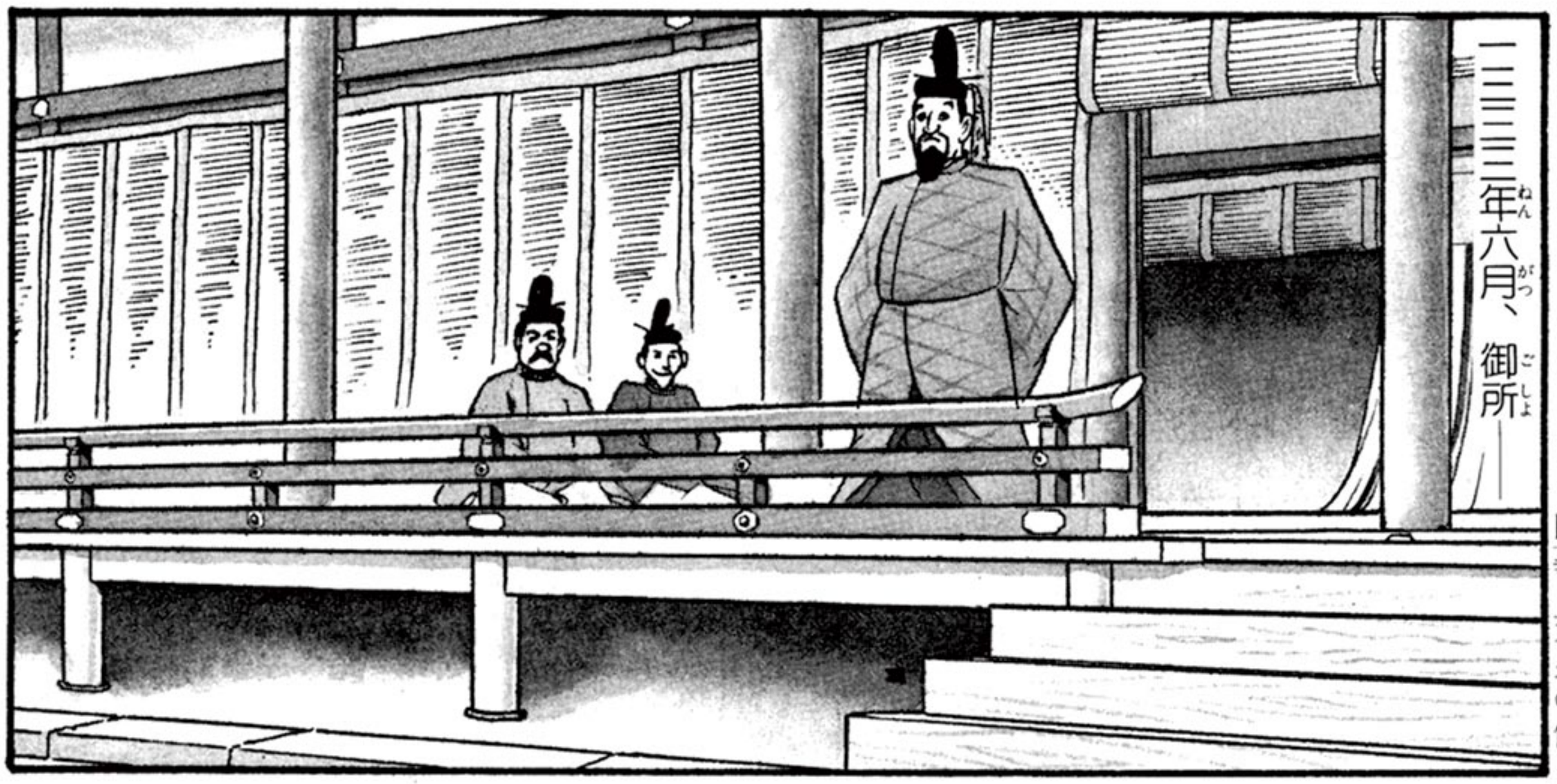
武士だけではありません。農民や商人たちも、いろいろな希望をいだいて、新しい時代をむかえようとしていました。

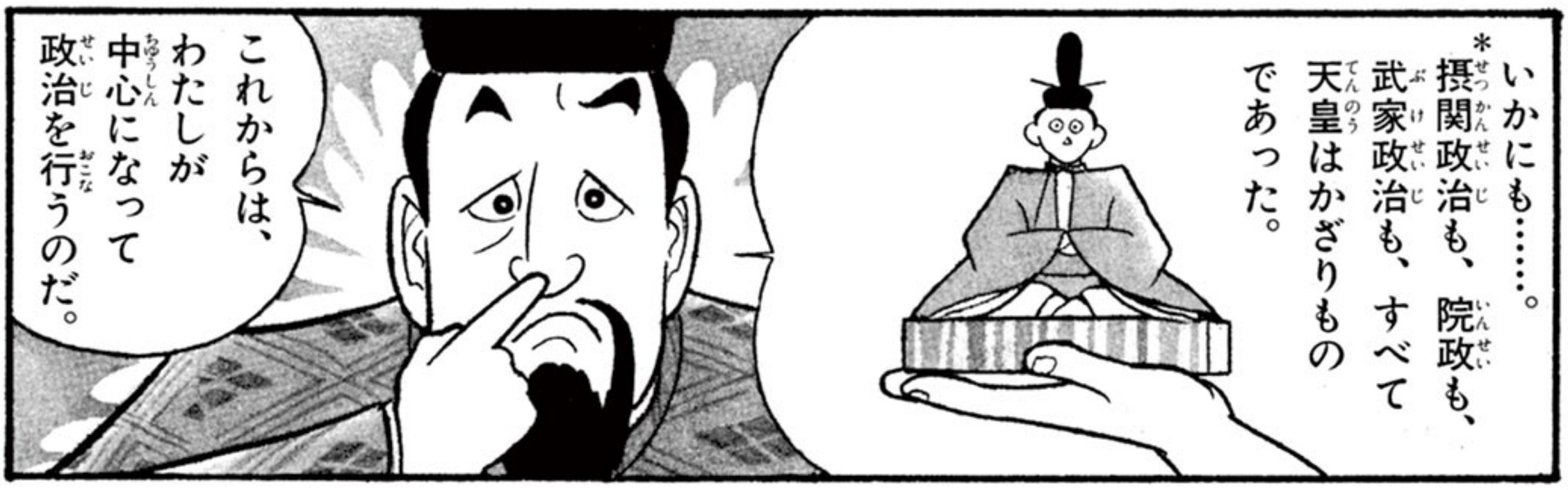
小学館 eBooks

第二章

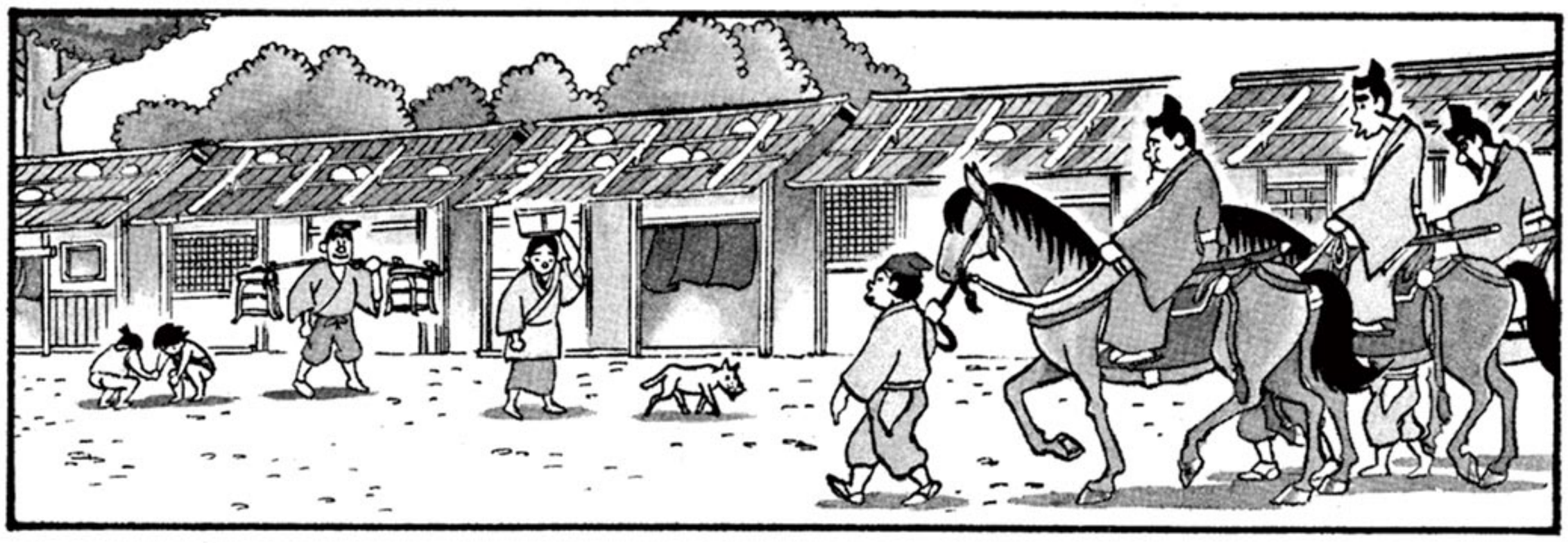
建武の新政

――南北朝時代――





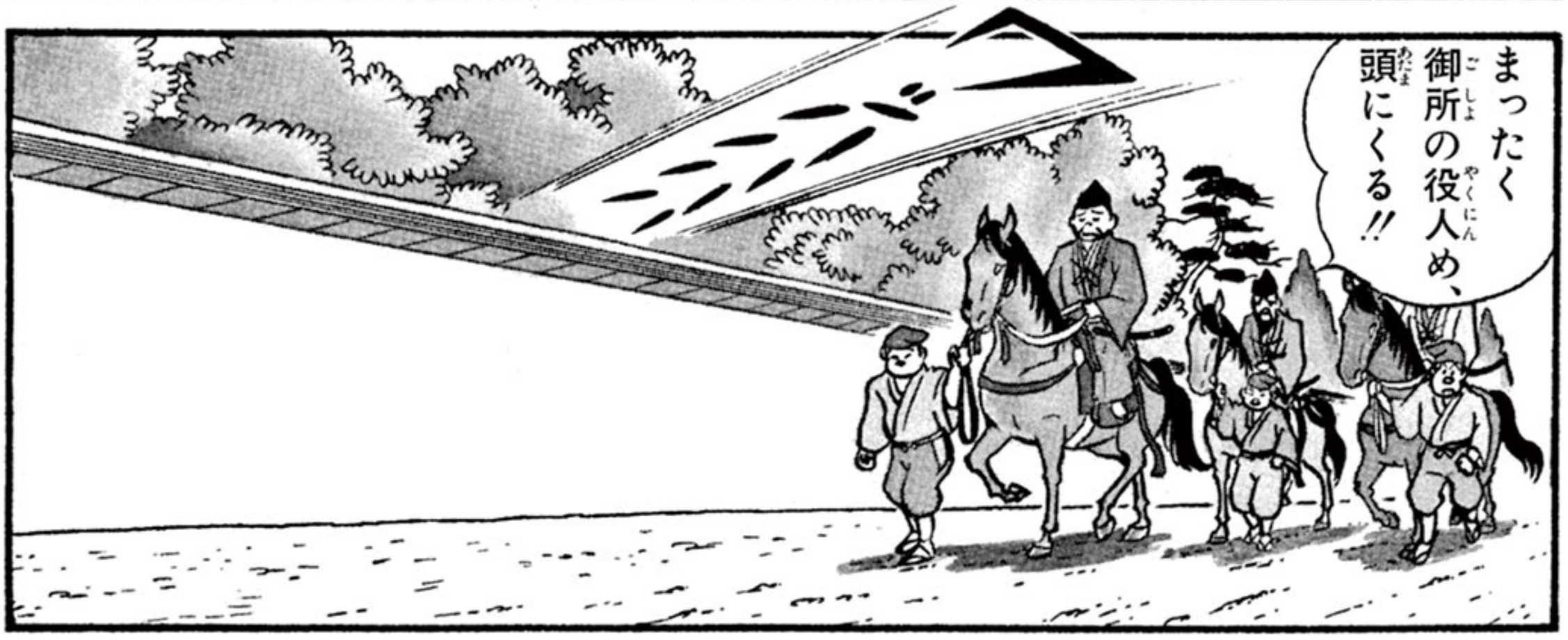
*内裏…天皇の住まい。*摂関政治…摂政や関白が天皇をたすけて行った政治。*親政…天皇みずから政治をとること。



ご親政もいいが、いったいわれわれ武士はどうなるのだ。
まったく、今の世があるのは、われわれが血をながしてたたかったからじゃないか!!

それなのに、公家たちばかりが重んぜられて…。
北条氏の土地は、みかどの側近の公家たちがかってに分け合ってしまったそうだ。

軍功のあったわれらには、何の恩賞もない。
わしなど、恩賞どころか、もともとの自分の土地さえとられそうじゃ。


まったく御所の役人め、頭にくる!!

こうした不公平のなかで、地方武士たちの朝廷にたいする不信感は、日ごとに高まっていきました。

京の足利尊氏（高氏）邸

足利直義
武士たちの不満がいっぱいです。

足利尊氏
ううむ…。わたしも、てっきり*征夷大将軍に任命されると思っていたのだが…。
ところが、*武蔵、*下総、常陸の三か国をあたえられただけでした。

しかし、楠木正成にあたえられた*摂津、河内、和泉の三か国よりはるかに広い土地だぞ。

わっはっは！
それに、みかどは、*御名の「尊」の字をくだされた。
何をいわれます。兄上は本気でそう思っているのですか！
京の都近くの三か国と東国の三か国では、重要度がちがいます。

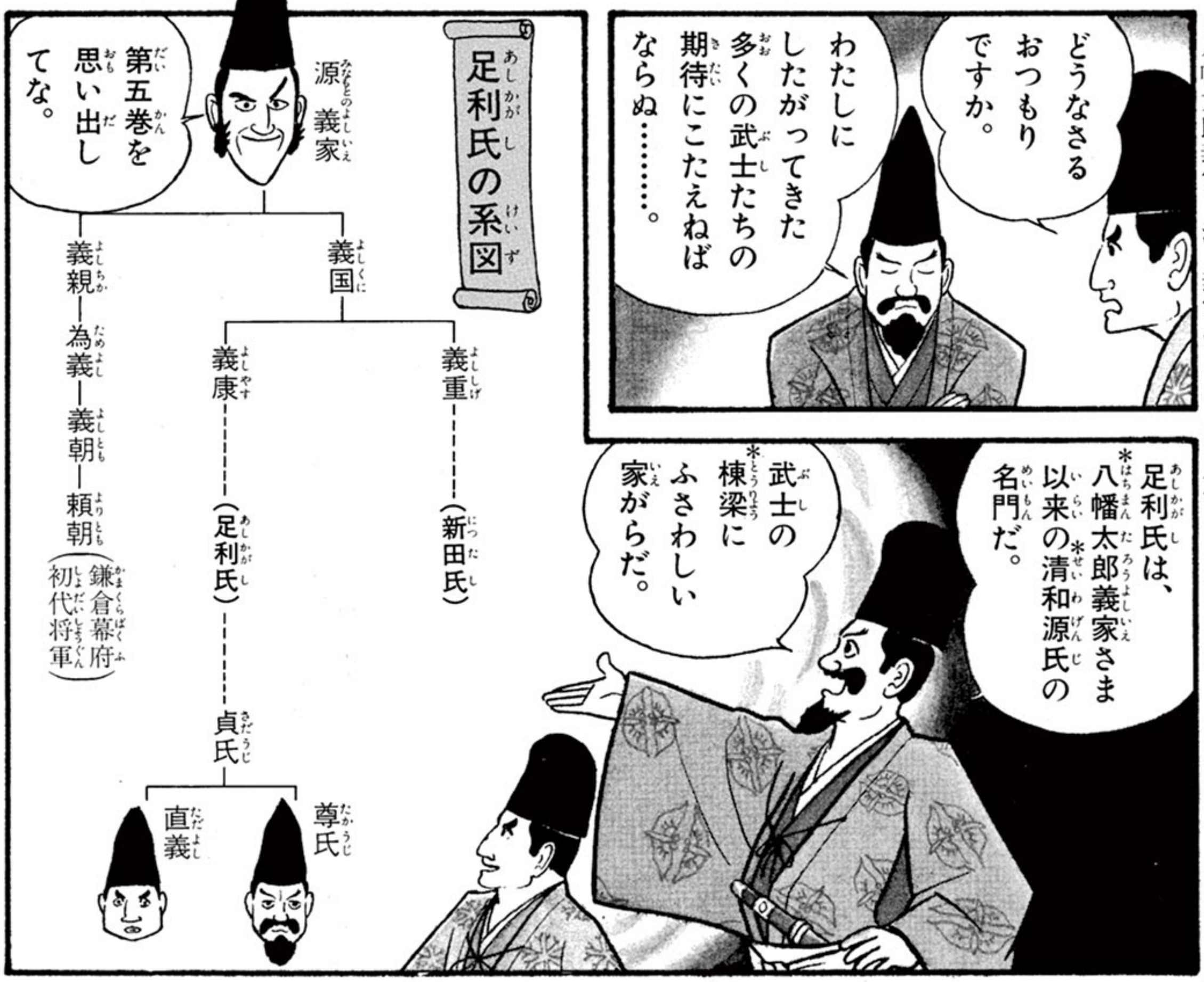
みかどは、兄上を遠ざけようと…。
わかっておる…。

みかどは、わたしが新しい幕府をひらくことを、警戒しておられるのじゃ。

*武蔵…埼玉県と東京都の全部と神奈川県の東部　*下総…千葉県の北部と茨城県の一部　*摂津…大阪府の北西部と兵庫県の南東部

*征夷大将軍…全国の武士をひきいる最高の地位。

*御名…後醍醐天皇の名「尊治」。



＊八幡太郎義家…源義家のこと。第五巻第四章を参照。

＊清和源氏…清和天皇の血すじをうけた源氏。

＊棟梁…多くの武士団をひきいる者。

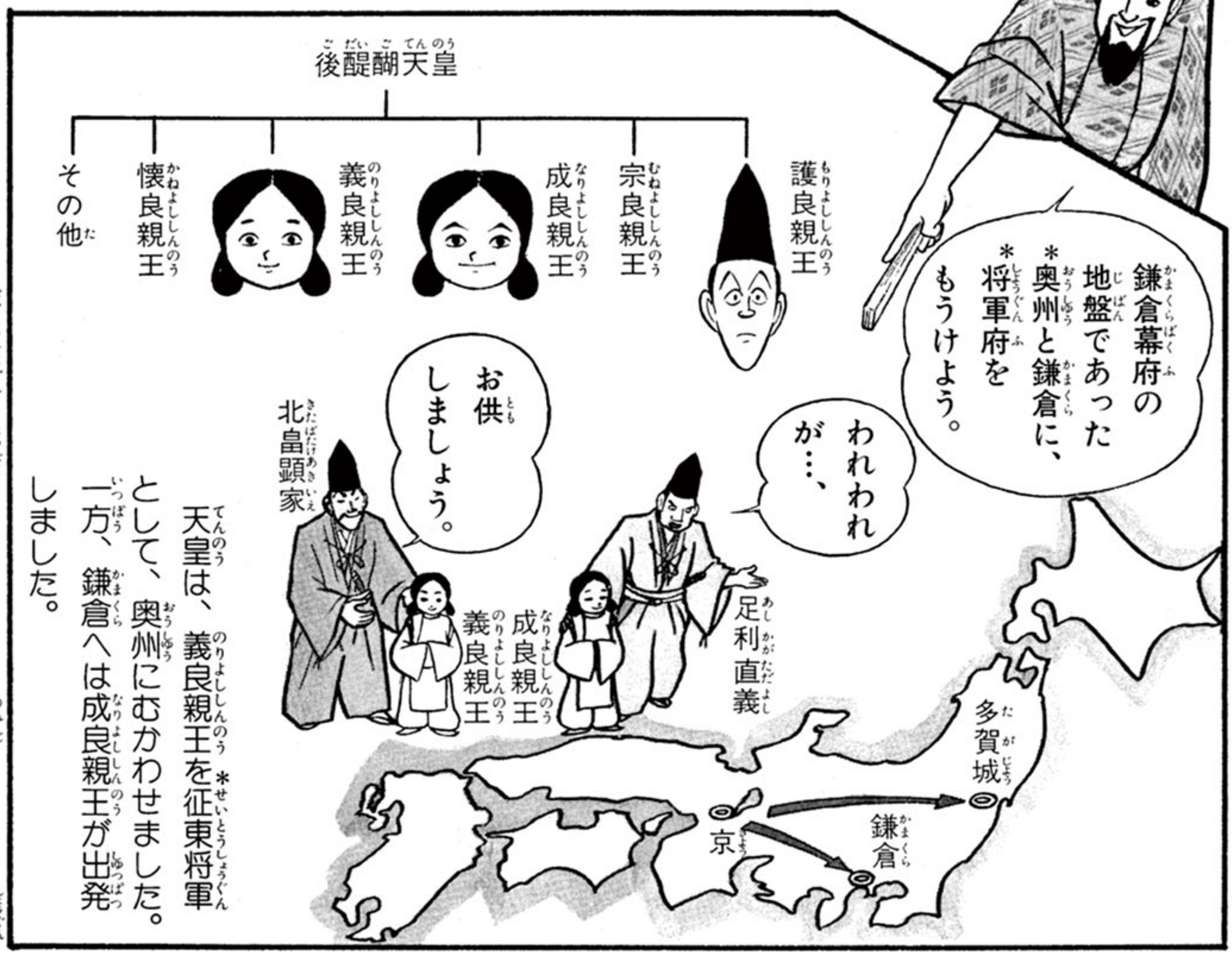
こうした間にも、後醍醐天皇はつぎつぎと新しい政治をおしすすめていきました。

＊醍醐天皇…第四巻第四章を参照。

まず、朝廷内のだいじなことを裁決する記録所を復活させました。

また、一般のうったえをとりあつかう雑訴決断所を新設したり…。

京都を警備するための武者所をもうけて、新田義貞一族をその任につかせました。



天皇は、義良親王を征東将軍*を征東将軍として、奥州にむかわせました。一方、鎌倉へは成良親王が出発しました。

*奥州…福島県、宮城県、岩手県、青森県

*将軍府…中央政府が関東・東北地方をおさめるためにおいた役所。

*征東将軍…東国をおさめるために臨時におかれた将軍。

その年の暮れ、京の町はずれ

近ごろ、見なれぬ武士が多いのう。

きのうなど、雑訴決断所の前を通ったら、たくさんの人だかり…。

なんでも、土地の権利のうったえで、地方からおおぜいやってきているらしい。

ところが、うったえが殺到しているので、その処理がさっぱりはかどらないという。

わいろを出せば、早く、有利にすませるとか…。

そいつはひどい。

いずれにしても、わたしたちのくらしはちっとも良くならない。

ハ、ハ、ハ、

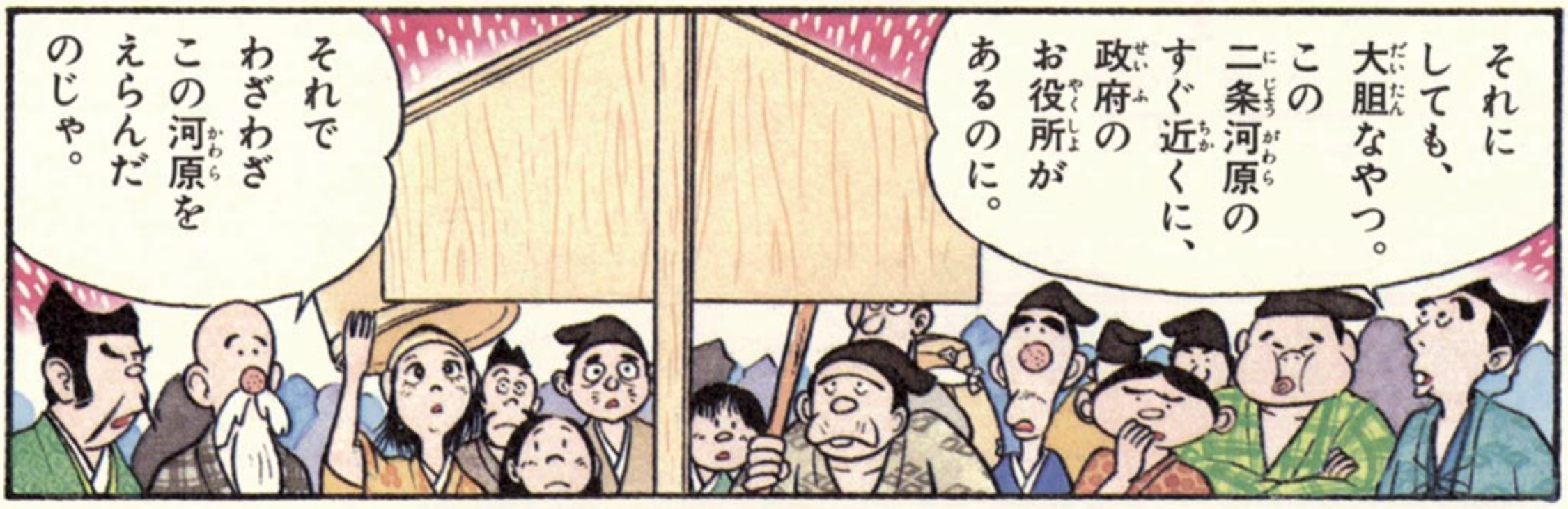
年が明けて一三三四年一月、年号が建武とあらためられました。このため、後醍醐天皇が行なった新しい政治は、後に「建武の新政」とよばれることになります。

天皇が発行しようとした日本ではじめての紙幣は、人びとにうけ入れられず、けっきょくは失敗しました。

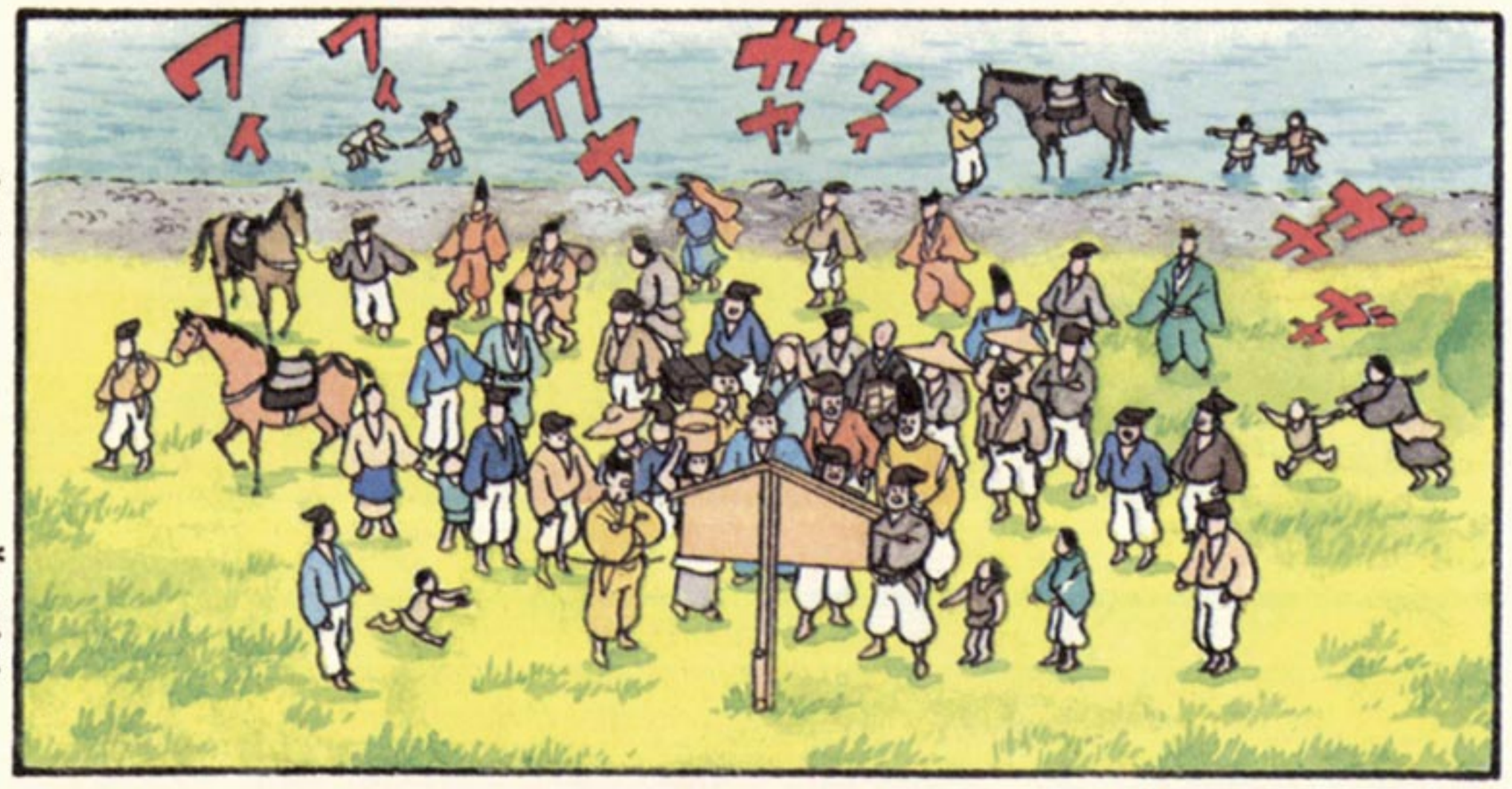
*二条河原…京をながれる鴨川の河原で、今の二条大橋がかかっている付近。

二条河原――
ええと、このごろ都にはやるもの、夜討ち、強盗、にせ綸旨……か。まだまだつづきがあるぞ。
どういうことだ!?

みかどの政治が思ったほど良くないので、それをひにくっているのさ。
これじゃ、天下統一といったって、なかなかたいへんだ。
いったい、世の中どうなるの？

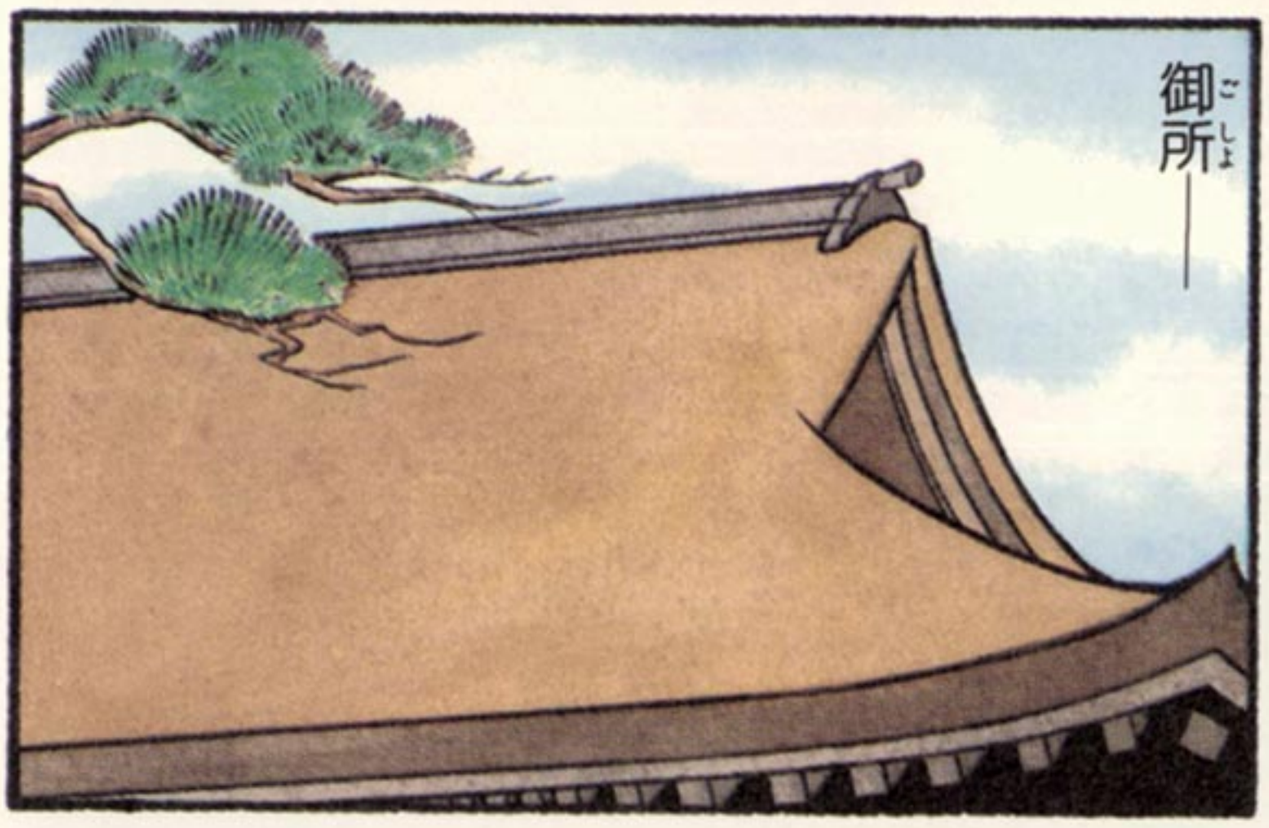


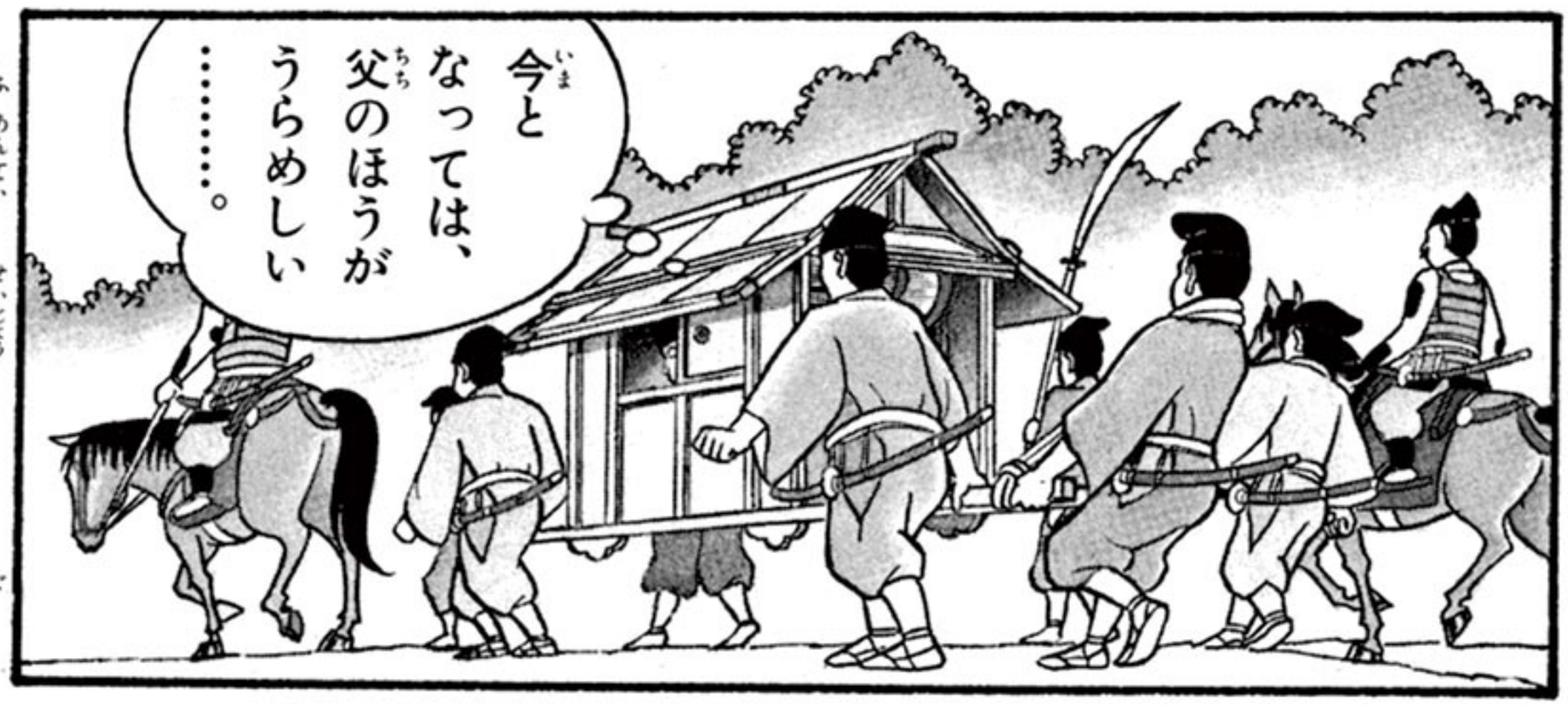
*京童…京の町なかの若者。



この落書のおわりに、「*京童がふだんうわさしている話を十分の一だけここにしるす。」とありました。落書のほんとうの作者がだれであったかは、約六百七十年たった今日でもわかっていません。

そのころ護良親王は、武士たちの信らいが尊氏にばかりあつまることをおそれて、ひそかに尊氏をたおそうと計画していました。





不安定な政情は、その後もつづきました。一三三五年六月には、北条氏の残党による後醍醐天皇暗殺未すい事件が都でおこりました。そして…。

この年七月、北条時行（高時の子）のひきいる軍勢が、信濃国の*守護小笠原氏の軍をやぶりました。一国を手中におさめたあと、一路鎌倉へ進撃してきました。

*守護…諸国におかれ、刑罰や軍事をうけもった役職。

かかれっ!!

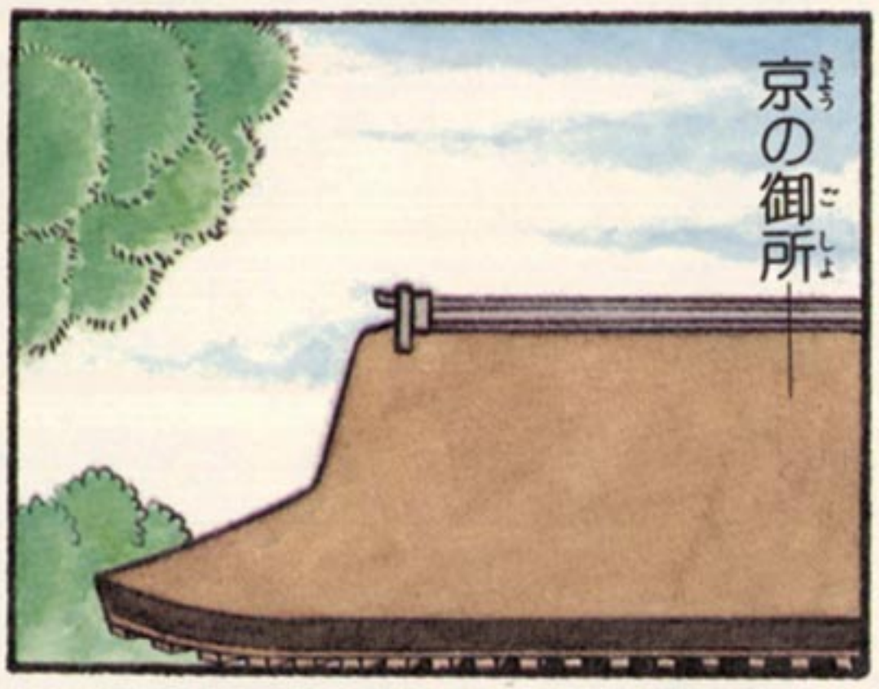
ウワー

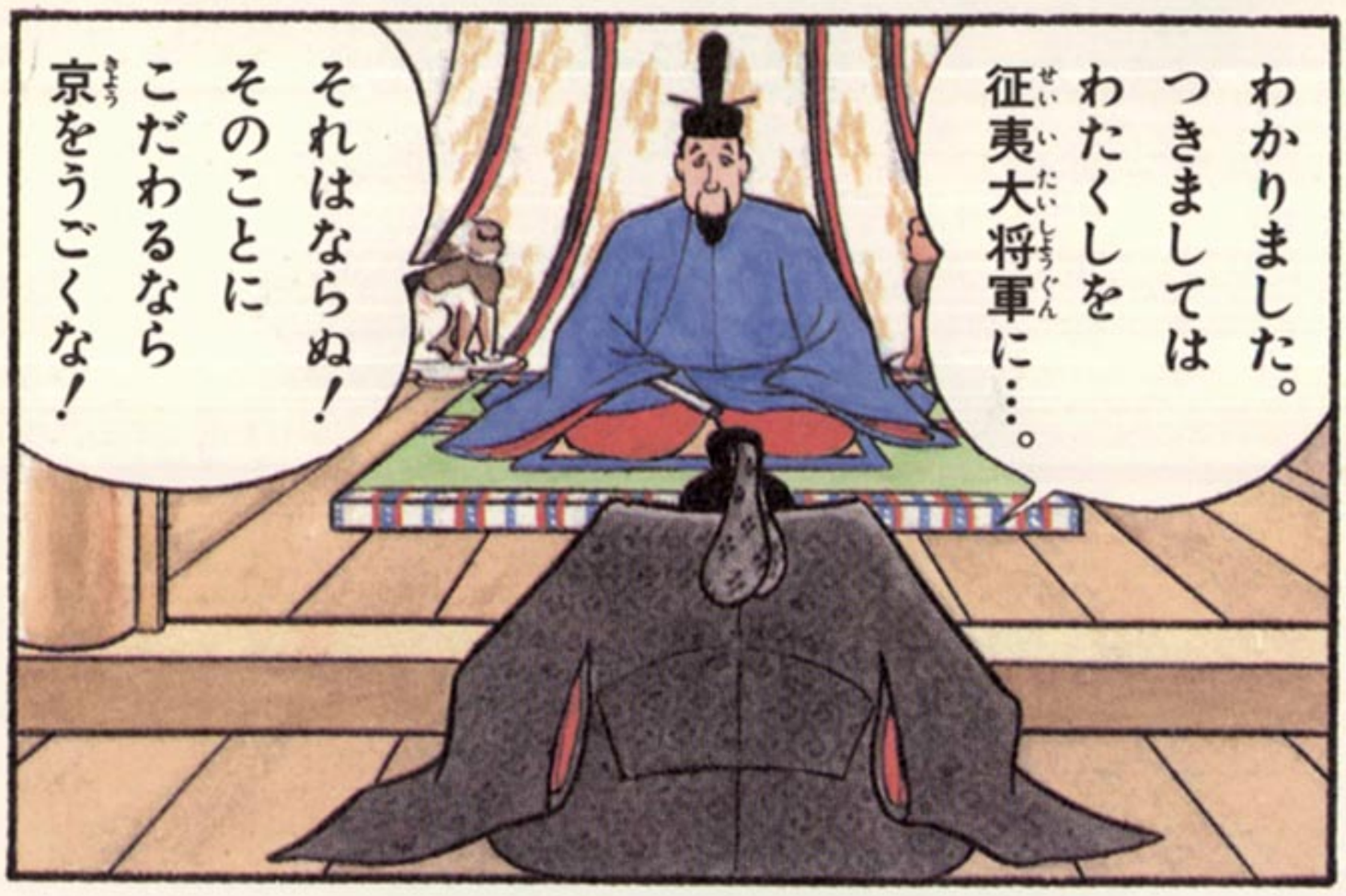
ドドドド

ゴオー

こうして、鎌倉は北条時行によって一時占領されてしまいました。

このできごとを「中先代の乱」といいます。





尊氏邸

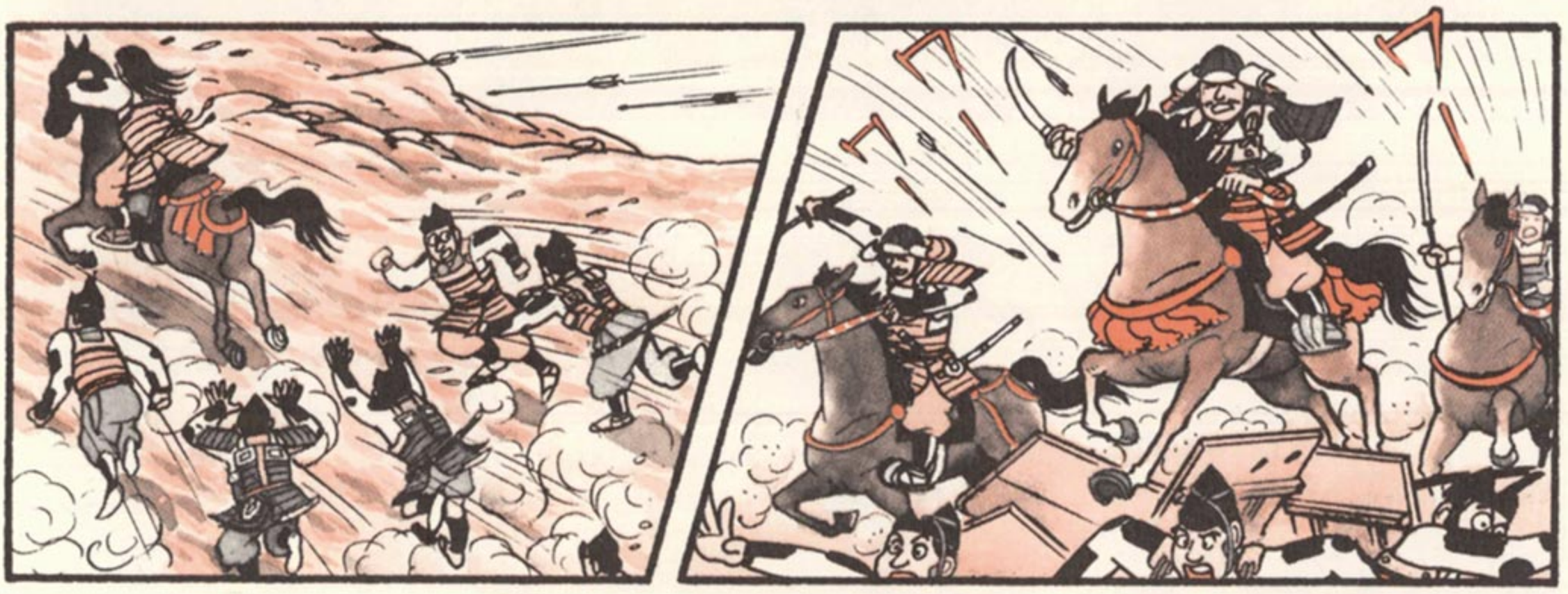
みかどの
ご命令が
あろうと
なかろうと、
時行をうちに
行くのだ。

わたしは、
今から
自分を
征夷大将軍と
思って
行動する！

オー
オー
オー
オー

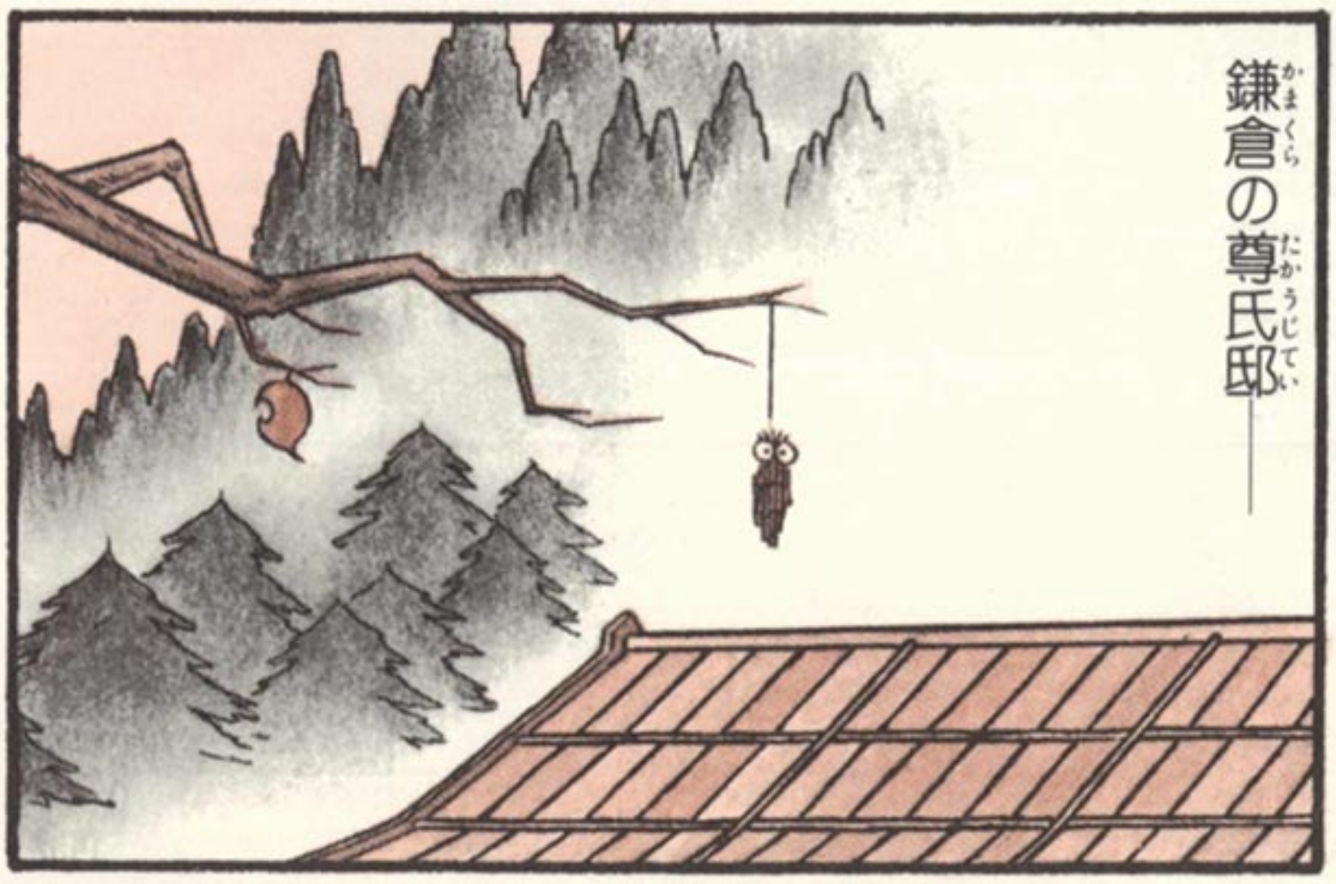
ドドド

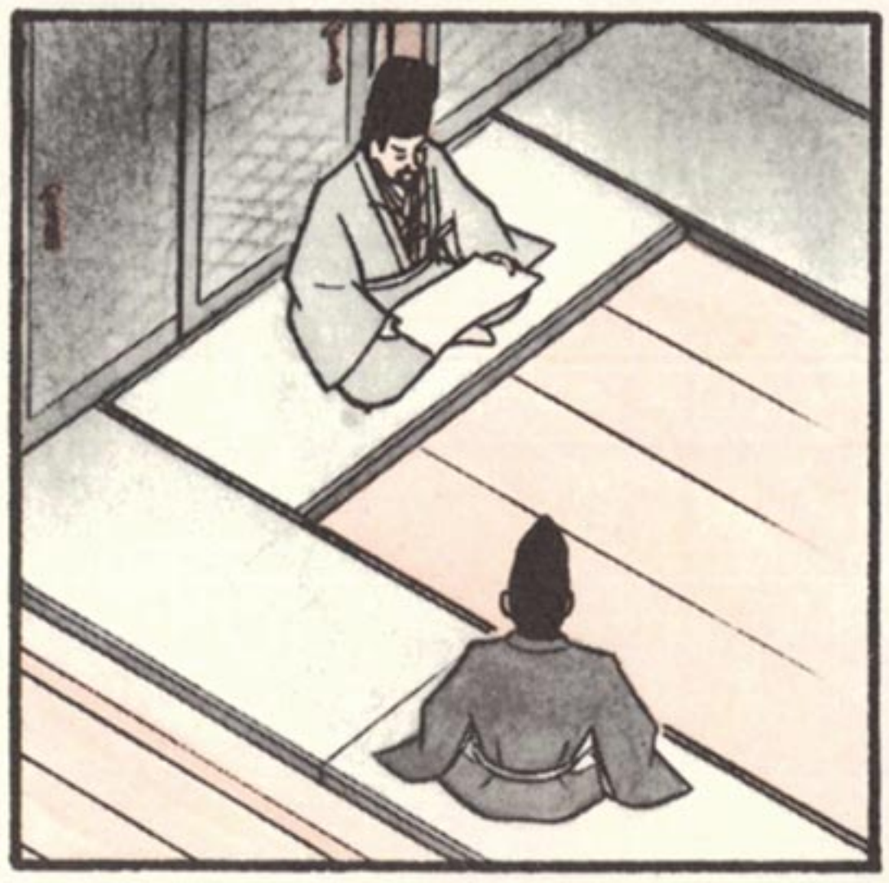
時行側の軍勢をつぎつぎにやぶった足利軍は、八月十九日、鎌倉へ突入——



戦いは、足利軍の勝利におわりました。諏訪頼重は自殺し、北条時行はどこかへ逃亡しました。

鎌倉をうばいかえした尊氏は、すぐに、旧幕府跡に館をきずきました。





*勅命…天皇の命令。　*勅許…天皇の許可。

鎌倉の*浄光明寺――

新田義貞軍が目前にせまったころ、尊氏は寺にこもったまま、出陣すべきかどうか、思いなやんでいましたが……。

みかどにそむく気はなかった。

*もとどりを切って、この世をすてようと思っていたのに……。

すぐさま、新田の軍をむかえうつ準備をせよ！

オー

オー

ウオー

オー

オー

新田軍をやぶったら、都にせめのぼるのだ！

*浄光明寺…神奈川県鎌倉市にある寺。*もとどり…かみの毛をたばねて、頭のてっぺんでむすんだところ。

*頭人…一つの集団をひきいる者。

こうした情勢のなかで、後醍醐天皇は一月十日、比叡山へ避難しました。

*兵庫…兵庫県神戸市。神戸港の西側にあった港。

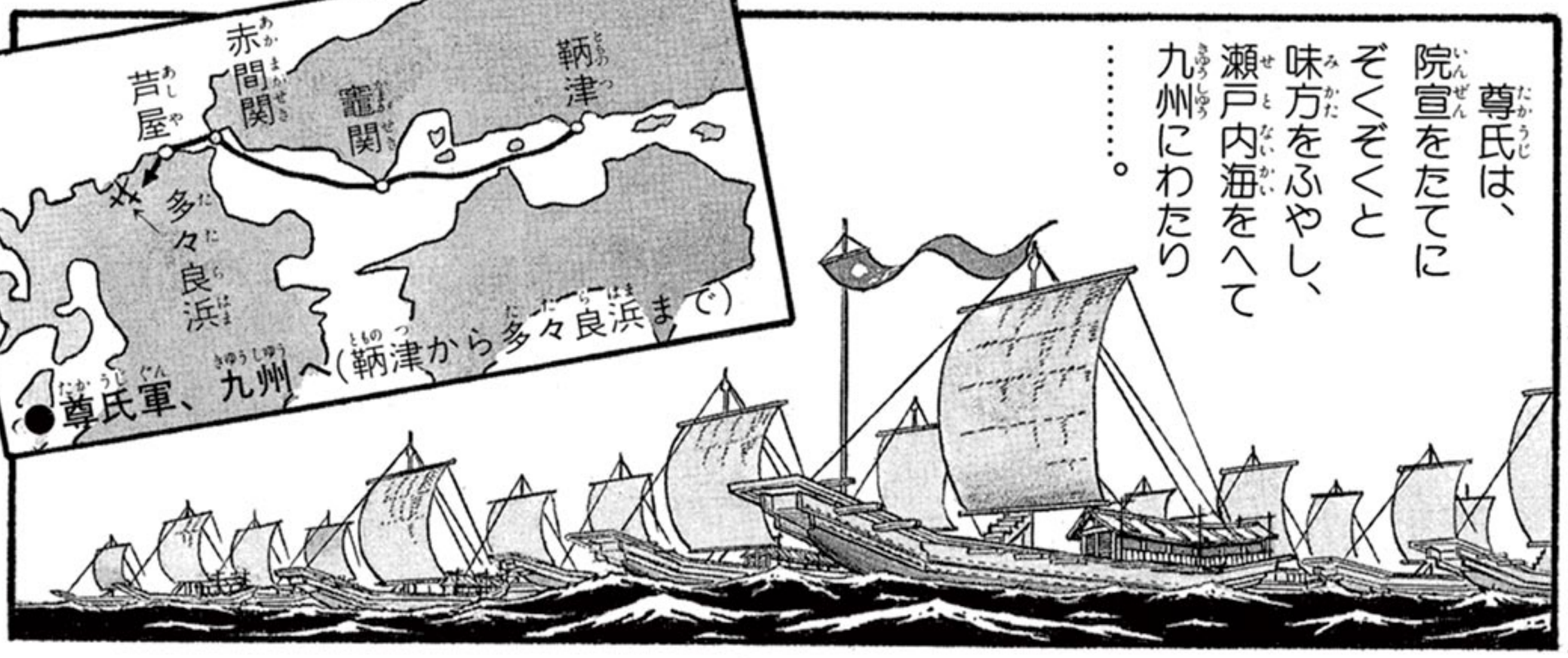
*備後…広島県東部

*鞆津…広島県福山市。

*朝敵…朝廷の敵、天皇の敵。

*譲位…天皇が位をゆずること。

*院宣…上皇や法皇の命令を書いた文。



*筑前…福岡県の北部　*多々良浜…福岡県福岡市の東北部の海岸。

二か月後、京の御所では――

足利尊氏が、九州より大軍をもって、京へせめのぼってくるようです。

……。

義貞はどうしておる？

播磨の*白旗城で、尊氏に味方する赤松軍を相手に、苦戦しております。

正成よ、そなたの考えは？

……。

敵は意気さかんな大軍です。今の味方の勢力では、新田軍をたすけられません。

……。

みかどは、いったん比叡山に避難され、義貞を京へよび、比叡山をまもらせましょう。

わたくしは、河内に行き、軍隊をととのえてまいります。

そして、尊氏が入京したところを、比叡山より義貞が、河内よりわたくしが、はさみうちに……。

うむ。

しかし……。

坊門清忠

*白旗城…兵庫県赤穂郡上郡町にあった赤松氏の城。

正成どのの意見には反対じゃ。

みかどがたびたび京からにげだされては、体面が悪い。
なるほど、もっともじゃ。

……。

正成は、すぐに摂津にむかい、義貞と協力して尊氏の軍をむかえうて！
わたしは京にとどまることにする。

みかどのおおせとあれば、やむをえません……。
ああ、だめだ。こんなことでは負けてしまうぞ……。

名誉や体面よりも、だいじなことは勝つことなのに…。

これでは、わたしに死ねというのも同然……。

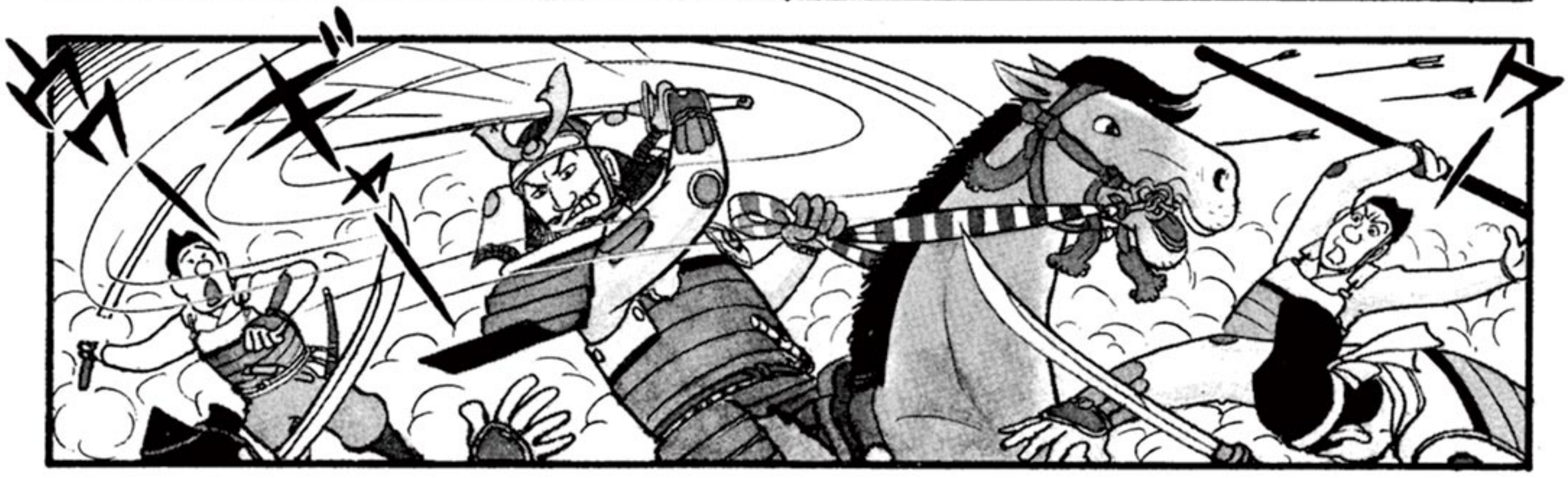
かくて、後醍醐天皇方の新田義貞一万騎、楠木正成七百騎は、摂津の*湊川付近で、足利尊氏、直義の大軍と決戦をすることになりました。

ワーワー

オーオーオー

かかれっ！

ドドド



赤坂城、千早城などで、めざましい活やくをした楠木正成も、足利の大軍の前で、ついに力つきました。一三三六年五月二十五日のことです。

楠木正成の死は、後醍醐天皇方にとって、たいへんな損失でした。逆に足利尊氏にとっては、これからの戦いのうえで有利なこととなりました。新田義貞や北畠親房・顕家親子がまだ健在で、油断はできないものの、人望もあり、いくさじょうずの正成がいなくなったことは、尊氏方を大いにはげました。次に来る時代が後醍醐天皇のものでなく、尊氏の時代になることが、しだいに明らかになってきたからです。

湊川の戦いのあと、尊氏は、持明院統の光厳上皇をおしたてて上京し、豊仁親王を天皇の位につけます(光明天皇)。皇位の象徴である三種の神器も、後醍醐天皇からゆずりわたされました。そして光明天皇のもとで、尊氏はいよいよ室町幕府をひらくことになります。

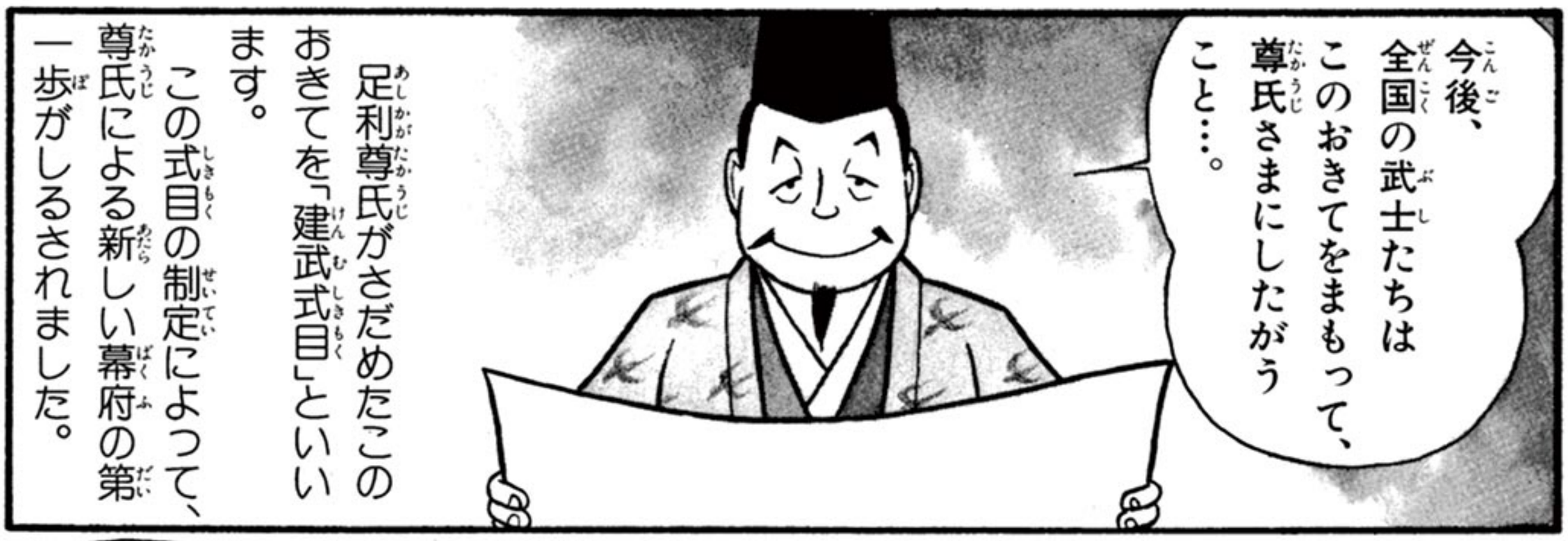
小学館 eBooks

第三章

南北朝のあらそい

――南北朝時代――

一三三六年十一月七日、
京の足利尊氏邸――



＊太上天皇…位をゆずったあとの天皇。太上皇・上皇ともいう。

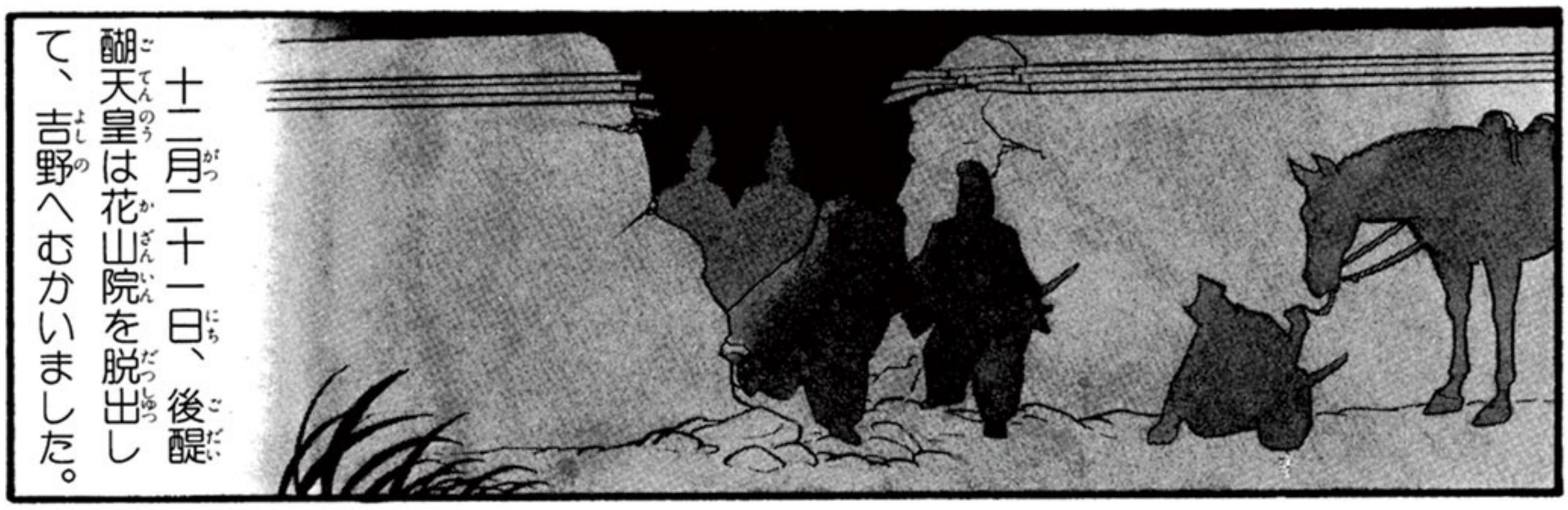
＊花山院…京都府京都市上京区にあった貴族の屋敷。何度か御所として用いられた。

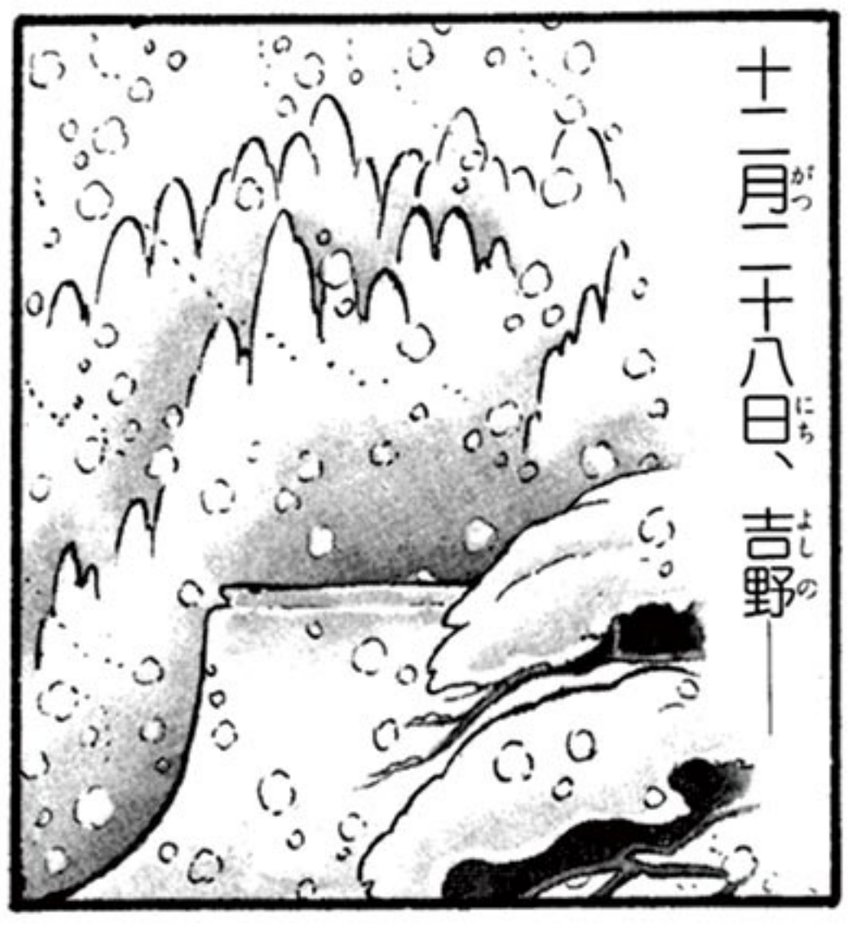
しいっ！
声が高い。

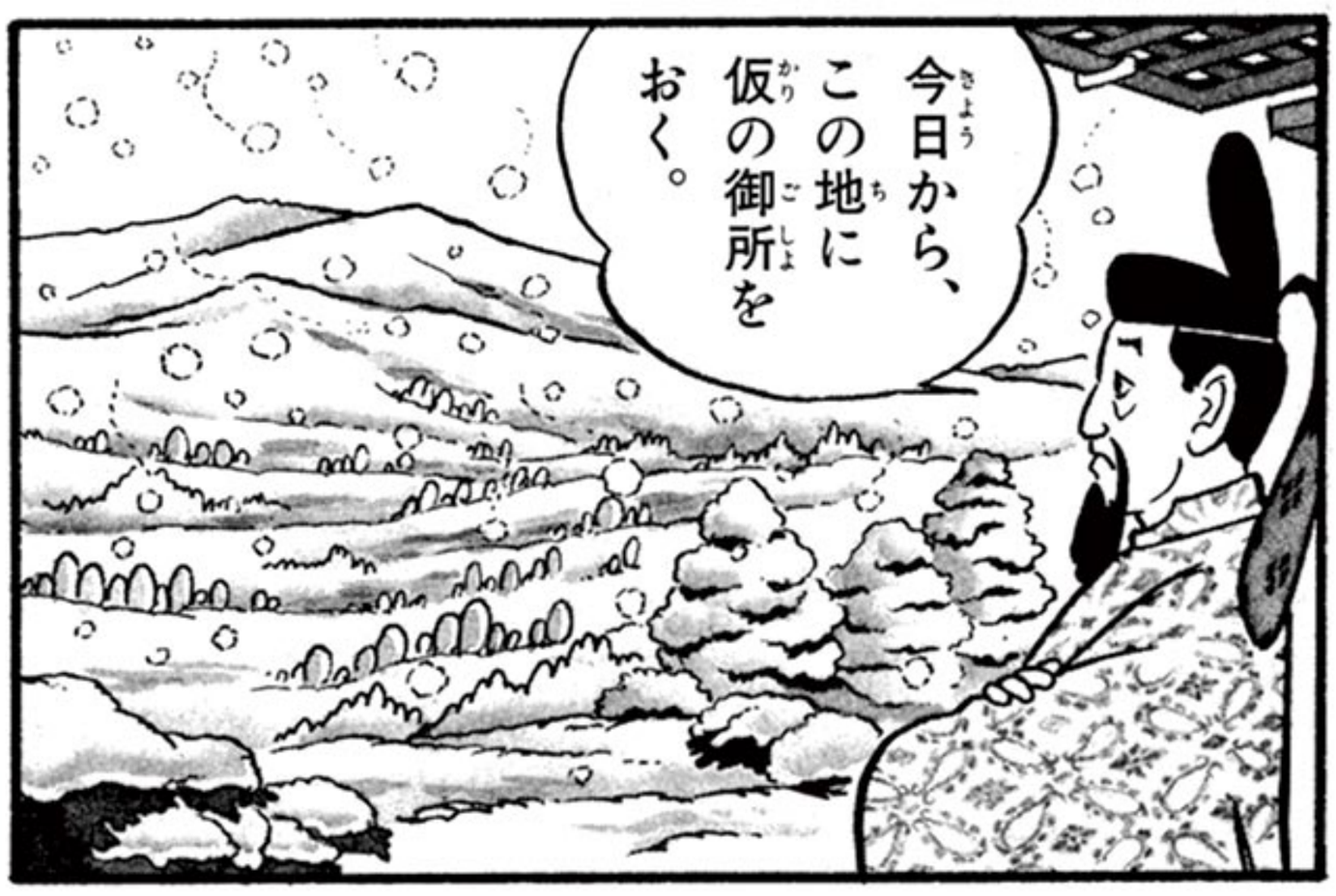
……だから、
今のあの天皇は、
正式のみかどとは
いえないのじゃ。
すると
……。

さよう。
今もわたしが、
正式な天皇
なのじゃ。

なんとしても、
この花山院を
脱出する
のじゃ。


十二月二十一日、後醍醐天皇は花山院を脱出して、吉野へむかいました。


十二月二十八日、吉野――


今日から、
この地に
仮の御所を
おく。

こうして一三三六年の暮れ、後醍醐天皇による新しい朝廷がはじまりました。この朝廷を「南朝」とよびます。一方、足利尊氏によって京の都にたてられた光明天皇の朝廷を「北朝」とよびます。

この二つの朝廷の対立――じっさいは後醍醐天皇による公家中心の政権と、尊氏が実権をにぎる武家中心の政権の争い――にはじまる混乱は、この後五十年以上もつづきます。つまり、この間、二人の天皇、二つの朝廷があったわけです。この時代が「南北朝時代」とよばれるのは、そのためです。

*越前…福井県北部

しかし、後醍醐天皇の思いどおりにはいかず、その後各地の武士たちは、それぞれのおもわくにより、南朝方と北朝方に分かれて、はてしない戦いをくりひろげていきます。

一年後の一三三七年
十二月――
ドドドドドド

尊氏さま！たいへんです。か、か、鎌倉が！

義良親王をたてる北畠顕家の軍にせめおとされました。

なにっ！
スッゲ

来年そうそうにも、京をめざしてせめのぼってくるものと思われます。

前から顕家の動きが気になっていたが…。

ついに来たか！

すぐに戦いの準備をせよ。むかえうつのだ！

ははっ！

一三三八年一月

なんでも鎌倉が、南朝方の兵に占領されたらしい。

いや、それどころではない。南朝の兵が、もう奈良までせまっているというぞ。

幕府の兵はどうした？
それが、各地でやぶれたらしい。

へえっ！吉野のみかどの勢いもたいしたもんじゃ。
いくさにまきこまれたらたいへんだ…。

あいや、しばらく。

今の話をくわしく聞かせてもらえまいか。
聞いてどうなさる？

南北朝時代のことをくわしく書きしるした軍記物*「太平記」の作者は、だれだかわかっていません。小島法師ら何人かの人びとによって書かれたのだろうと考えられています。その中には、旅の物語僧*もいたようです。

*堺浦…大阪府堺市付近の海岸。*軍記物…合戦の様子を書いた物語。

*物語僧…合戦の様子などを、人びとに聞かせて生活していた人。

*美濃茜部荘…岐阜県岐阜市の一部

*一騎打ち…武将どうしが名のり合ったあと、太刀でたたかう合戦のやり方。

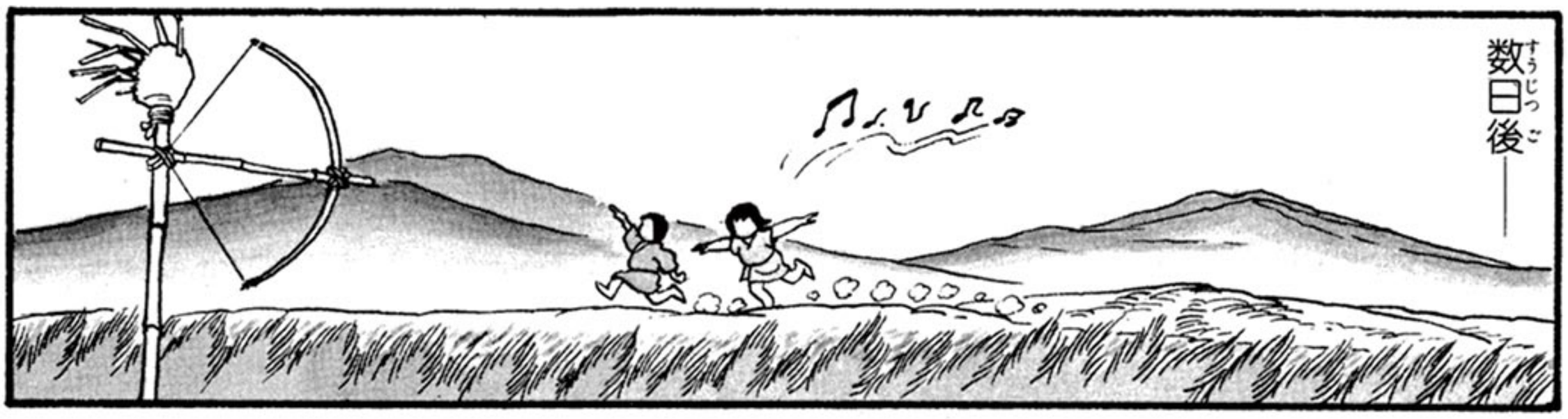
*返り忠…味方をうらぎって、敵のためにつくすこと。

*山城…京都府の南東部　*年貢…荘園の持ち主におさめる租税。　*寄合…おおぜいの人があつまり相談すること。

*書き判…名前をあらわす自分だけのしるし。*鎮守の神…その土地をしずめ、まもる神。

*ご神水…神にそなえる水。

このような一味神水は、団結の誓いをしめすため、広く行われました。当時の農村の組織は、このようにしてつくられていきました。こうした組織は「惣」または「惣村」とよばれました。


数日後——

わしらのうったえは、みとめられなかった。

もうすぐ、麦のかり入れだというにいうに……。
かりとったって、どうせ全部年貢でもっていかれてしまう。

いっそのこと、からないほうがましだ。
そうだ。
そうだ。

こうなりゃ逃散しかねえ！全員で村をにげだすんだよ。

ほんとうに、村をすててしまうんかね。
わしらのうったえがきき入れられるまでじゃ。

しかたあるまい……。

わしは山林へかくれるぞ！
おれも！
おれはしばらく、遠くの親せきへ行ってこよう。

つな引きは、このころから子どもたちの遊びとして広まりました。このような遊びも、団結心をやしなうのに役だったといえます。

暑いのに、精が出ますなあ。
おまえさんこそ、商売熱心なこと。

いやいや…。つい先日、和泉国の堺浦へ商売に行ったのじゃが、もう、さんざんじゃった。

また、いくさか…。

民家までやきつくされて、それはおそろしかったわ。

吉野方と幕府方の戦いじゃな……。

義良親王をおしたてた北畠顕家さまが、連戦連勝で、伊勢、伊賀をへて、大和へ入ったそうだが…。
ところがこの二月、顕家さまの軍は、奈良で、幕府の高師直さまの軍とたたかうことになった。

戦いは師直さまが勝ち、顕家軍は敗走…。義良親王は吉野へ、顕家さまは河内へとのがれられたんじゃ。
へえっ。

しかし三月に入って、顕家さまは軍勢をたてなおし……。

＊天王寺…大阪府大阪市天王寺区付近

＊石津…大阪府堺市石津町付近

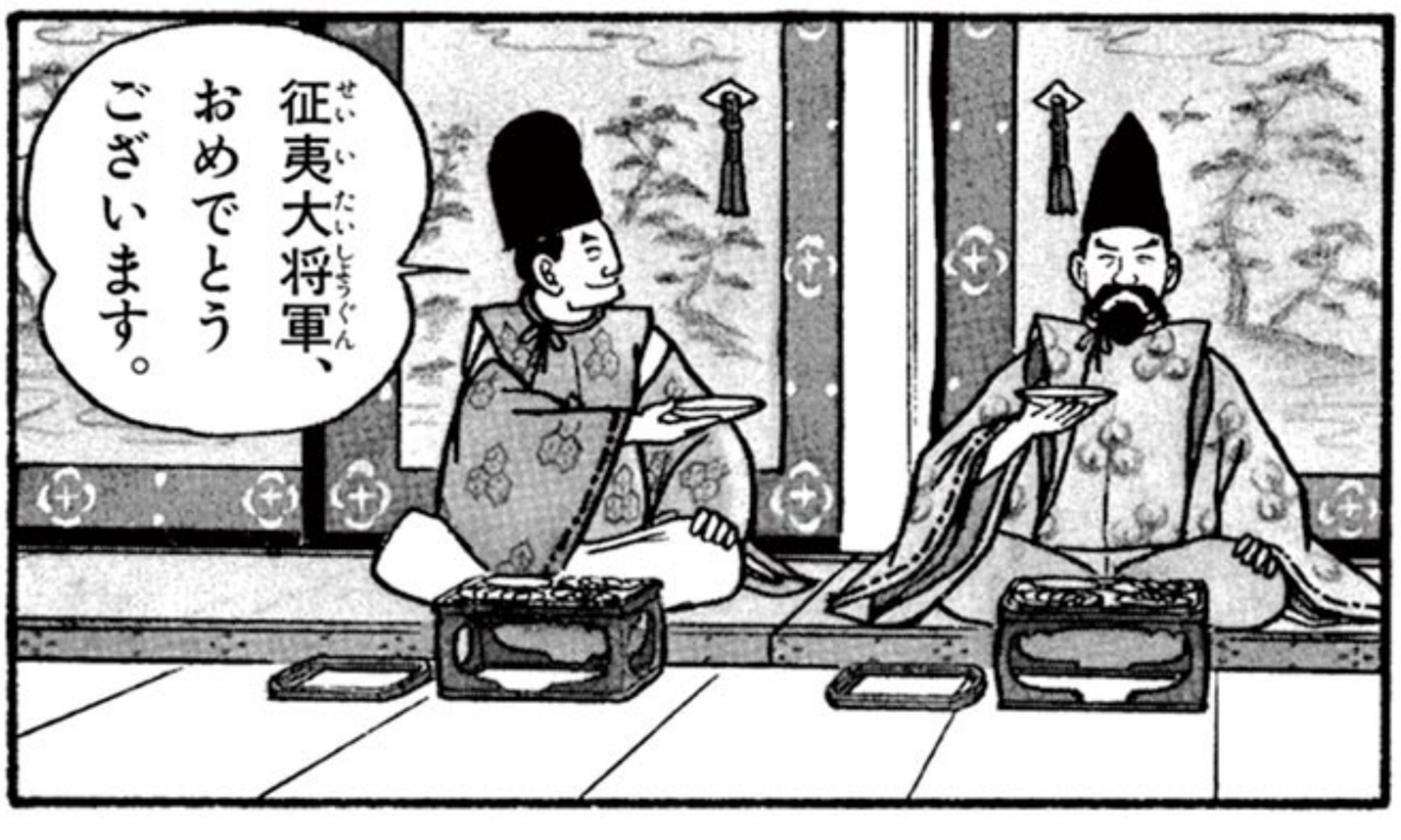
＊府中…国府の所在地。福井県越前市。

＊藤島…福井県福井市藤島町

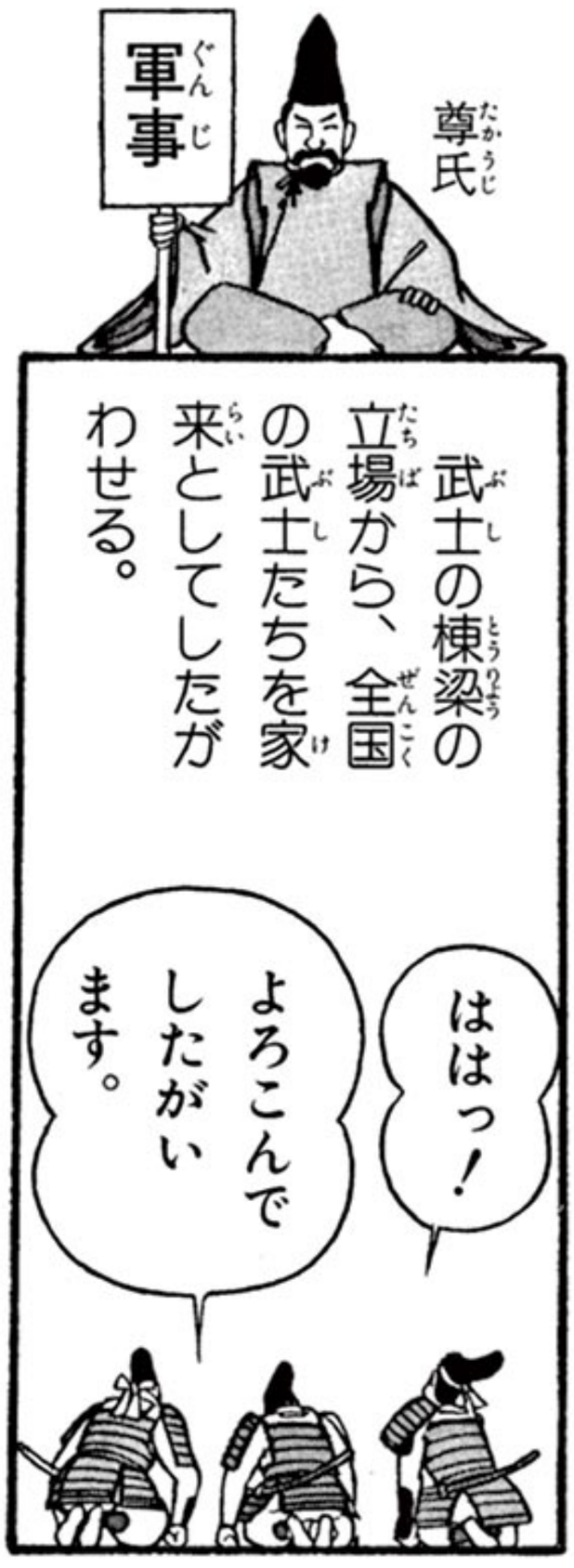
＊燈明寺畷…福井県福井市灯明寺町。「畷」はあぜ道のこと。

殿っ！
これからというときに、こ、こんな所で……。無念だ！
足利尊氏と武家の棟梁をあらそった新田義貞は、こうしてあっけなく戦死してしまいました。これを「藤島の戦い」とよんでいます。
大軍をひきいて、京にせめのぼろうとしていたやさきのできごとでした。

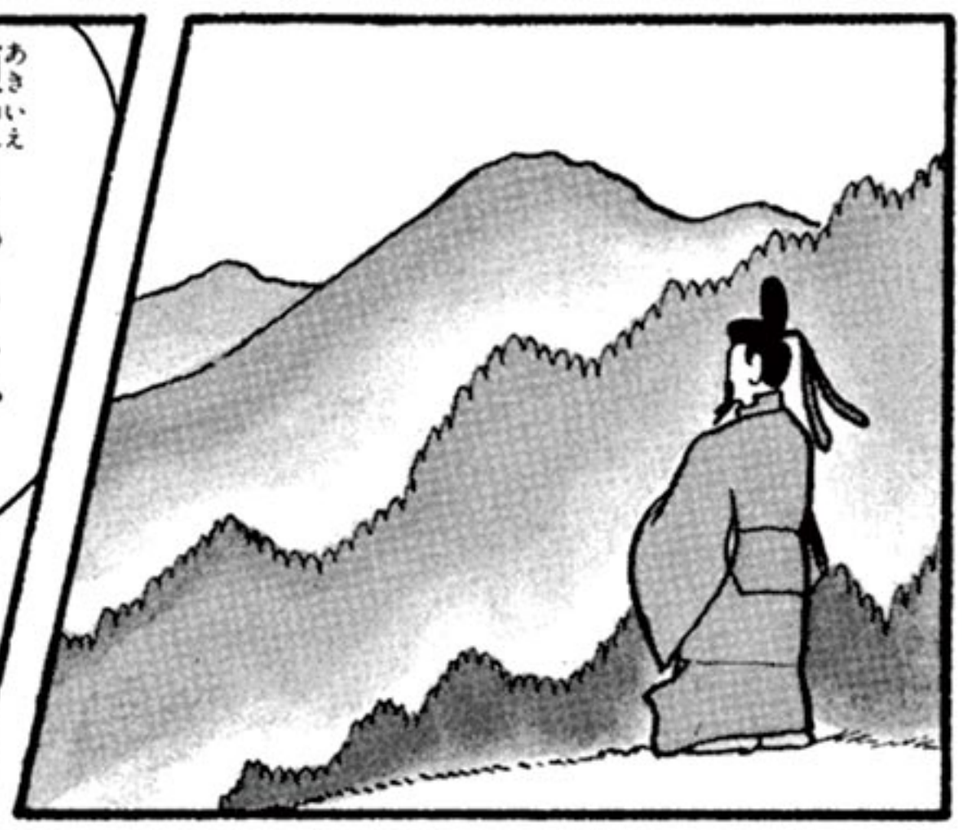
一方、顕家につづいて、義貞をほろぼして意気さかんな足利尊氏は、一三三八年八月、ついに征夷大将軍に就任しました。

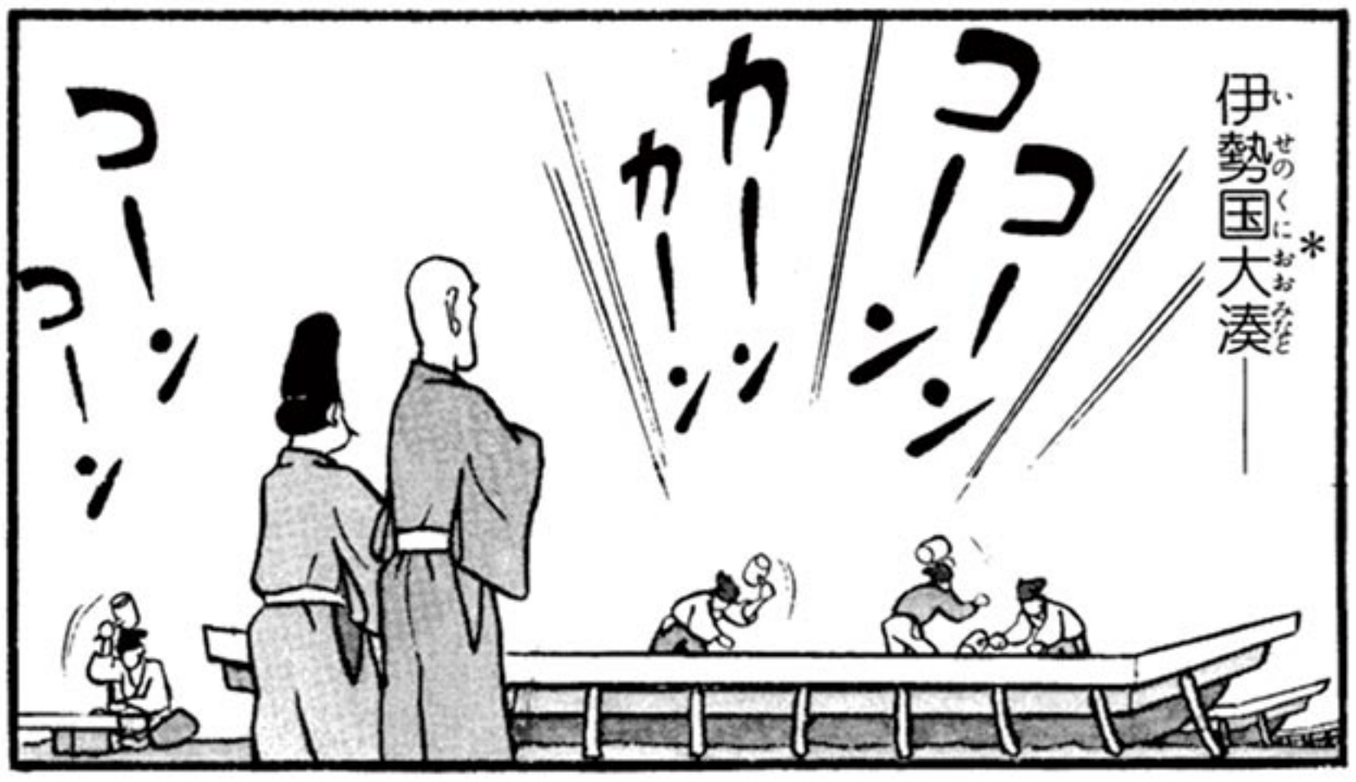

征夷大将軍、おめでとうございます。

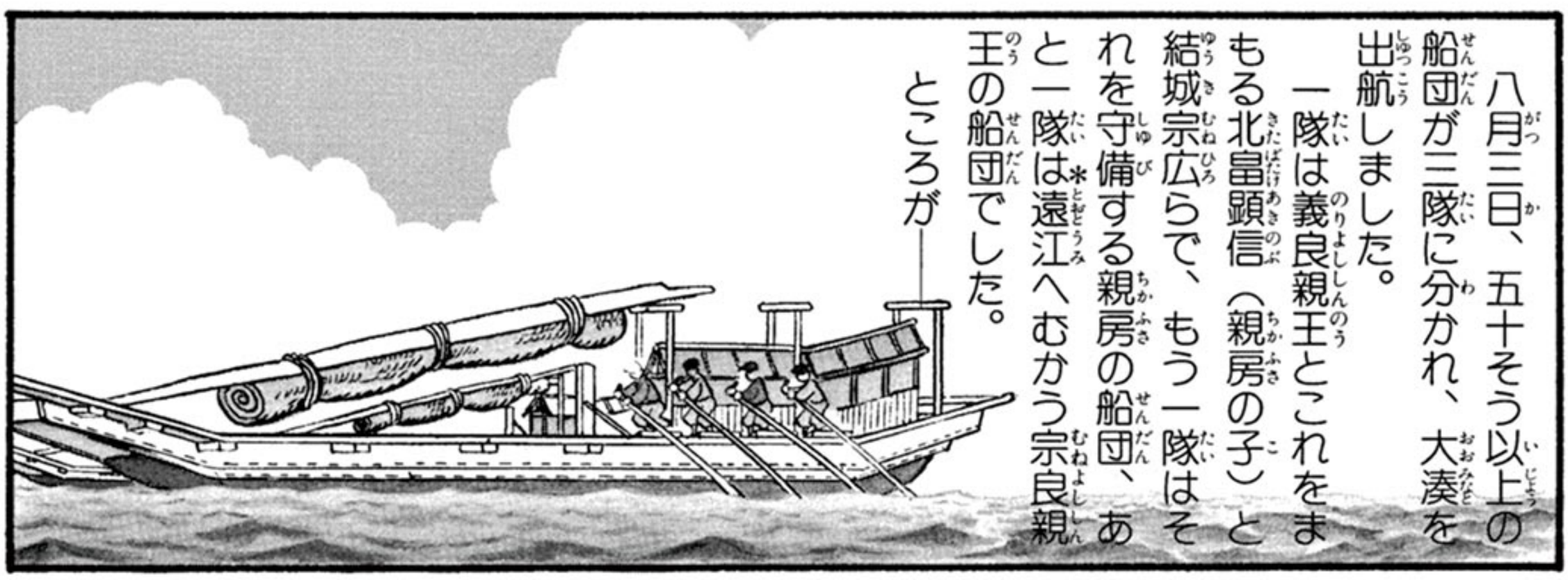
とうとう望みをとげたぞ…。だが、万事はこれからじゃ。
おまえのはたらきのおかげじゃ！
将軍の権限の半分をあたえよう。


軍事
尊氏
武士の棟梁の立場から、全国の武士たちを家来としてしたがわせる。
ははっ！
よろこんでしたがいます。

行政
直義
公家や寺社のもつ荘園でおこる問題や、土地をめぐる武士の争いを解決する。
年貢が入ってこない！
おれの土地だ！





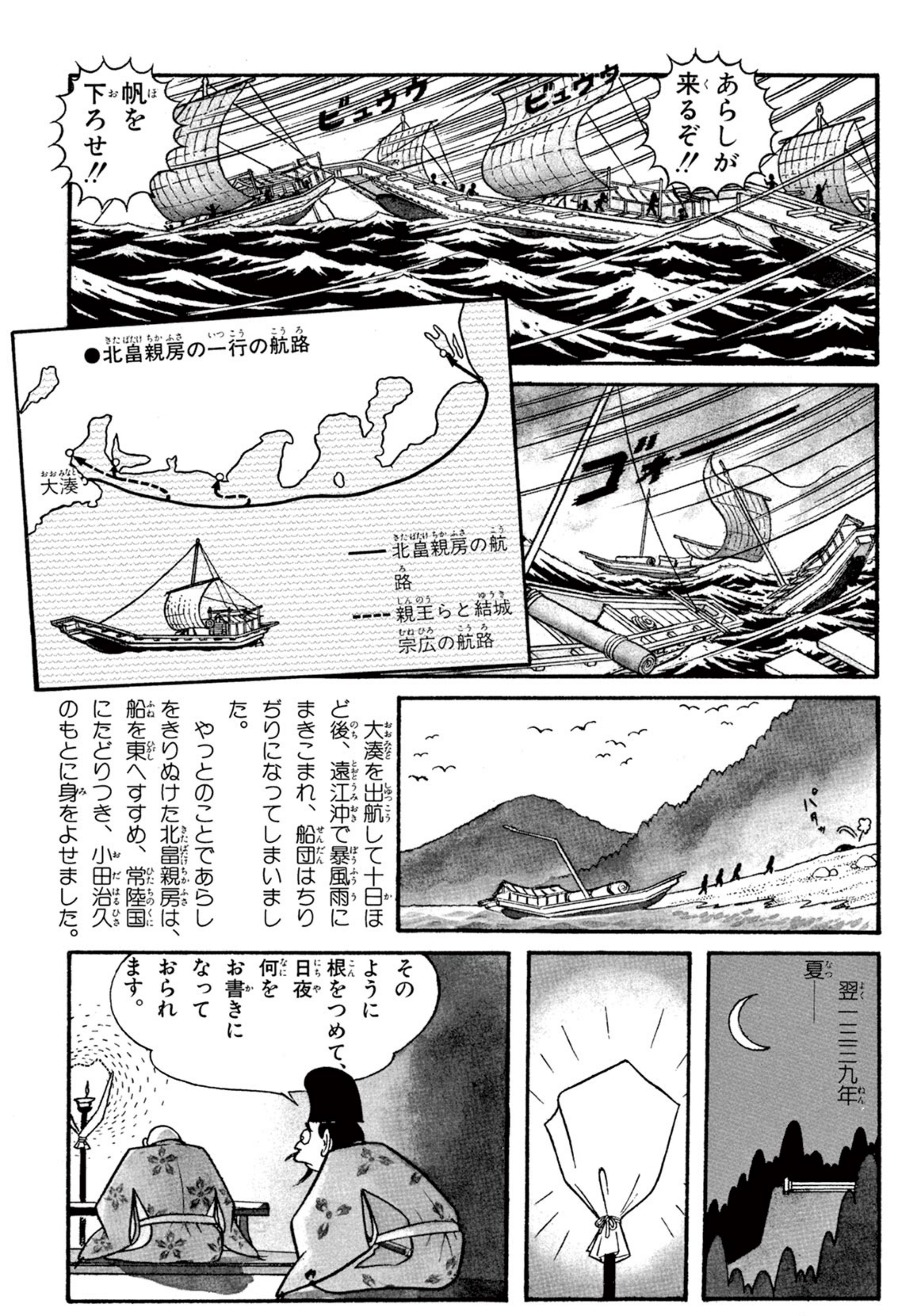


八月三日、五十そう以上の船団が三隊に分かれ、大湊を出航しました。

一隊は義良親王とこれをまもる北畠顕信（親房の子）と結城宗広らで、もう一隊はそれを守備する親房の船団、あと一隊は*遠江へむかう宗良親王の船団でした。

ところが――

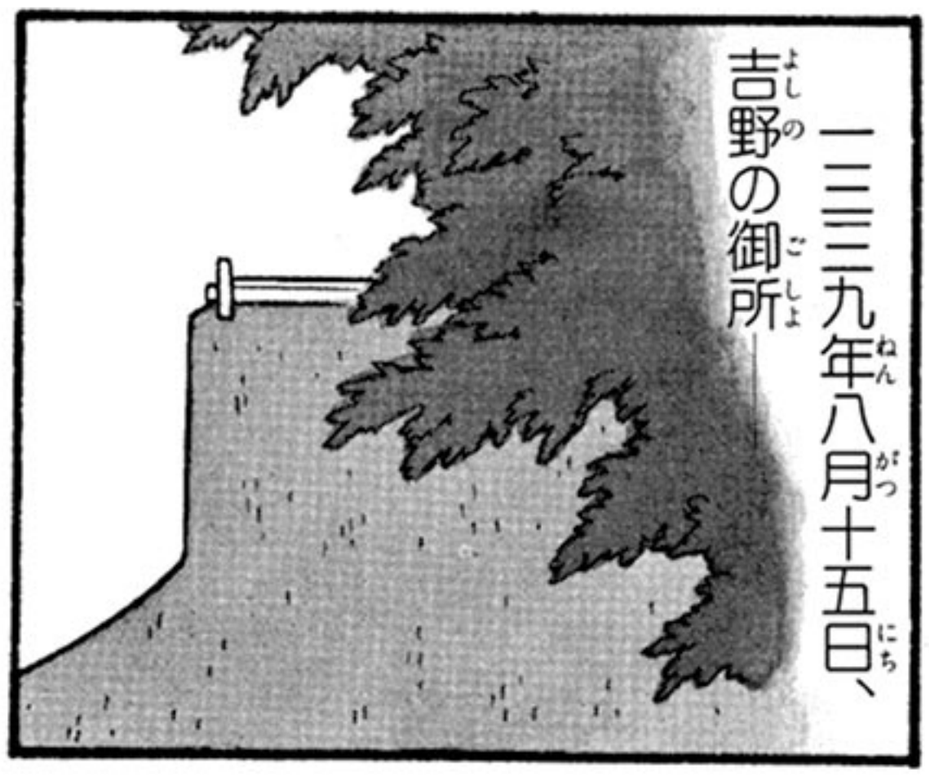
*大湊…三重県伊勢市大湊町　*遠江…静岡県の西半分

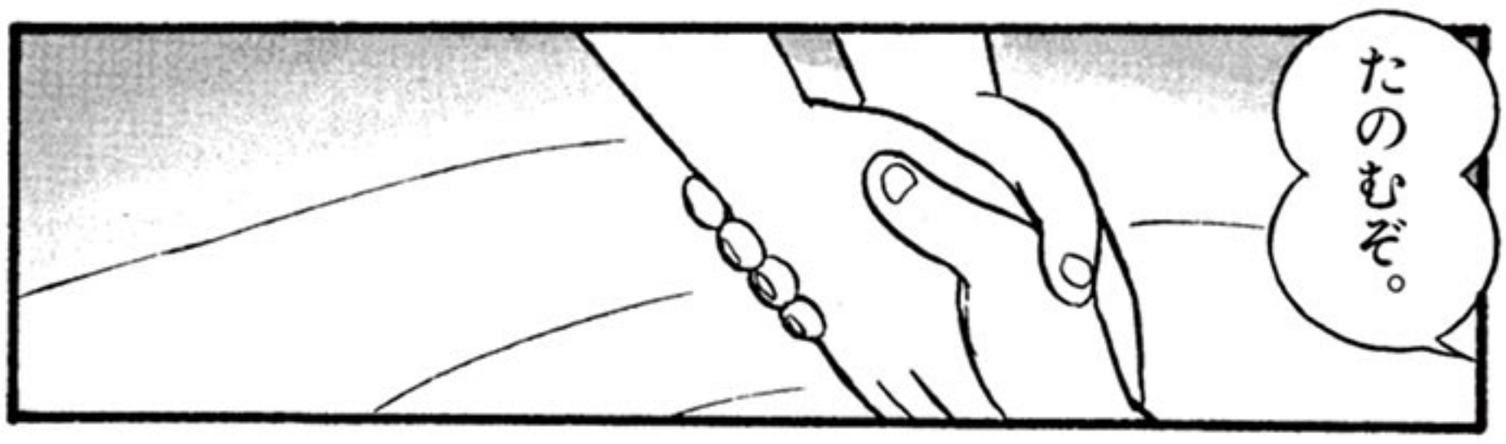


大湊を出航して十日ほど後、遠江沖で暴風雨にまきこまれ、船団はちりぢりになってしまいました。

やっとのことであらしをきりぬけた北畠親房は、船を東へすすめ、常陸国にたどりつき、小田治久のもとに身をよせました。

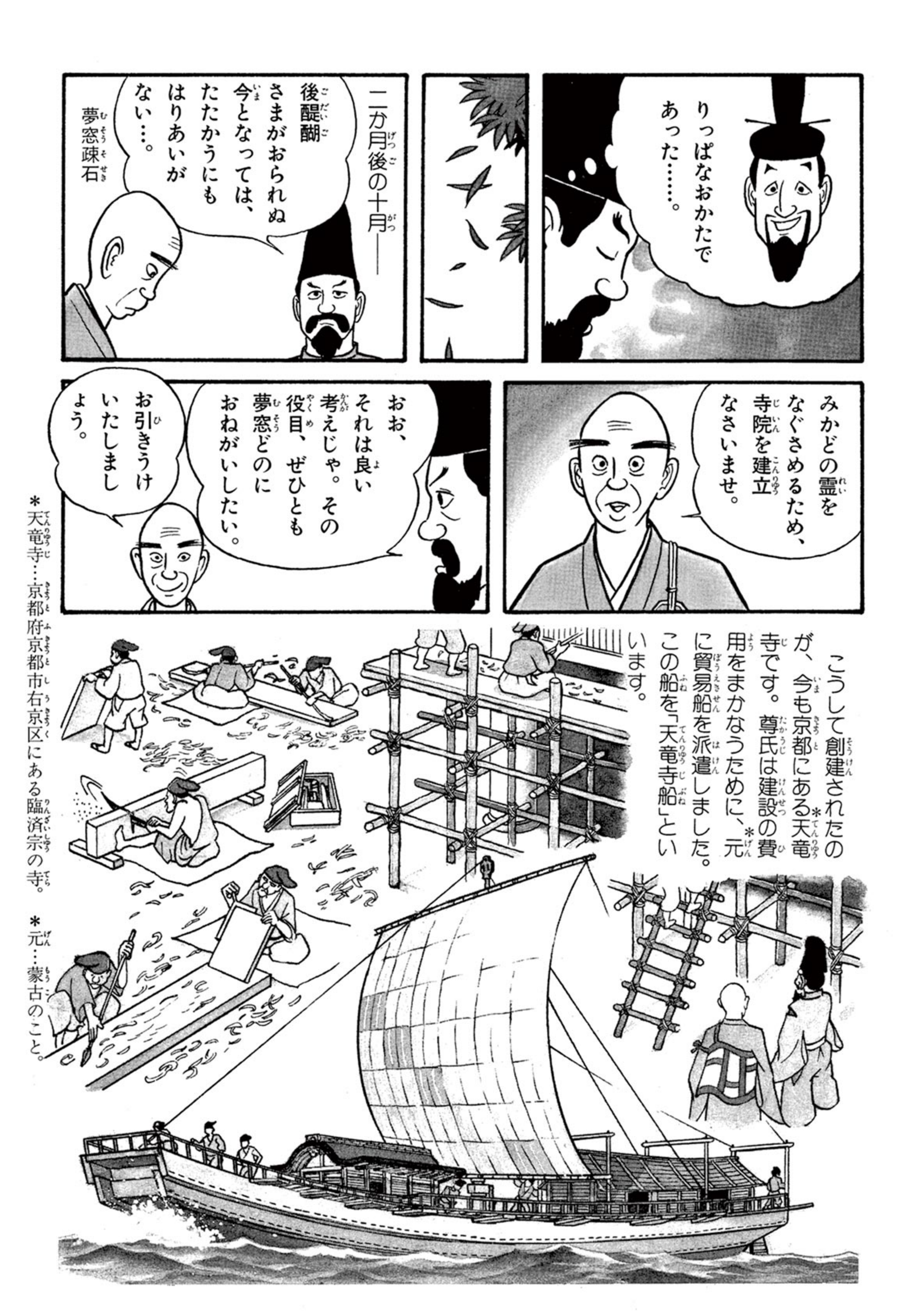
この年の九月ごろに完成することになるこの書物は「神皇正統記」とよばれ、日本の代表的歴史書の一つとなり、後世の歴史の見方に大きなえいきょうをあたえました。





この日義良は即位して、後村上天皇となりました。

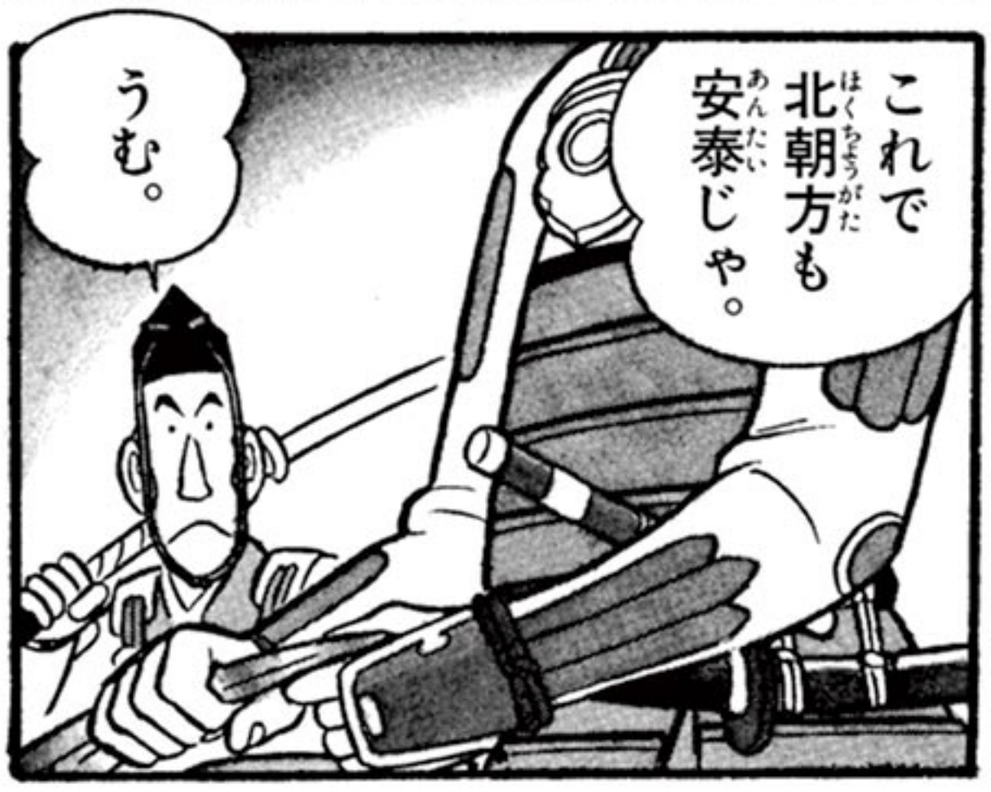
翌日、後醍醐天皇はついに吉野でなくなりました。



＊天竜寺…京都府京都市右京区にある臨済宗の寺。

＊元…蒙古のこと。

この後何年もの間、全国各地で、あいかわらず南朝方と北朝方の戦いがつづきました。そうしたなかで、幕府内では高師直がしだいにのし上がっていきました。



*一条今出川…京都府京都市上京区

*院…上皇や法皇のこと。*執事…将軍をたすけるもっとも重要な役職。*出家…僧になること。

しかしこの年八月、計画を知った高師直によって、直義は幕府の政治から遠ざけられてしまいました。

その後、直義は*出家し、むすこの直冬は西国へのがれました。

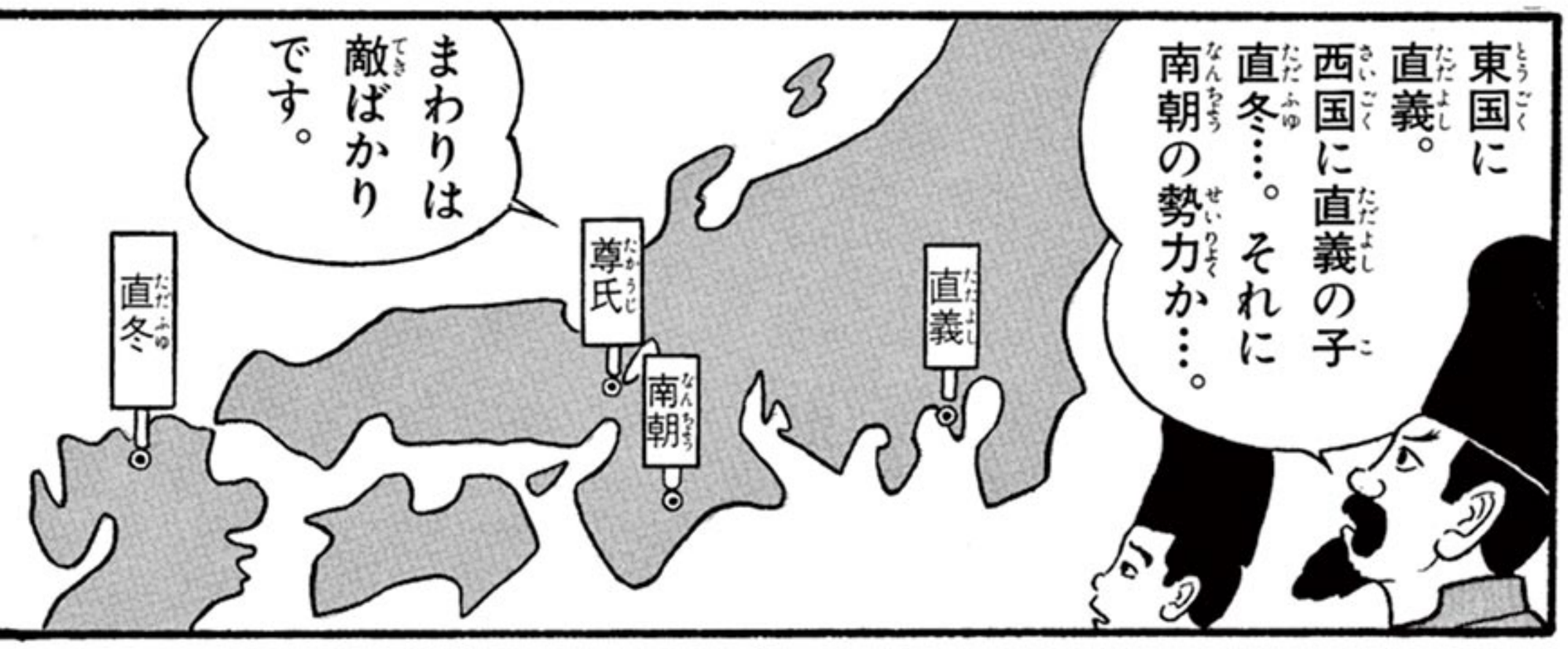
直冬は九州で軍勢をたてなおし、以後十数年間、幕府軍とたたかうことになります。

*鎌倉公方…室町幕府のもとで、関東をおさめる鎌倉府の長官。*和睦…仲なおりすること。

そのためか、直義さまと尊氏さまの間がらは気まずくなり…。

直義さまは、尊氏さまにせめられるのをおそれて、鎌倉へくだられた。

おまえたちもけんかはほどほどにしなさい。



*綸旨…天皇の命令を書いた文書。

その後各地の南朝方は、尊氏降伏で急速にいきおいづき、大軍をもって京へせめのぼりました。いったん京をのがれた義詮は、一か月後にふたたび京をうばいかえし、またもや乱世となりました。

いつはてるとも知れぬ合戦をくりかえしていて、ほんとうに勝利をえることがあるのでしょうか――。めまぐるしくうごく情勢のなかで、尊氏が敵方の南朝と和睦したのも、なんとかこの難局を打開したいというねがいのあらわれでした。

えんえんとつづく争乱の間、一三五四年には、南朝方の中心人物の北畠親房が世をさり、四年後の一三五八年には足利尊氏が五十四年間の波乱の生涯をとじました。

尊氏のあとは義詮が将軍職をつぎ、なんとか幕府をささえました。そして、室町幕府の最盛期をきずく三代将軍義満の登場をまつことになります。

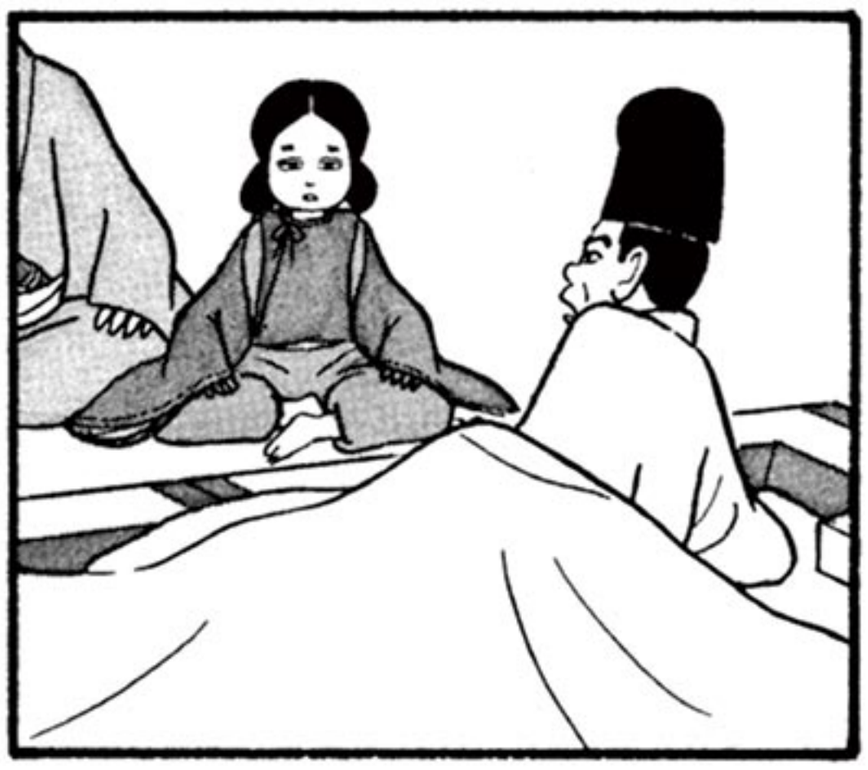
小学館 eBooks

第四章

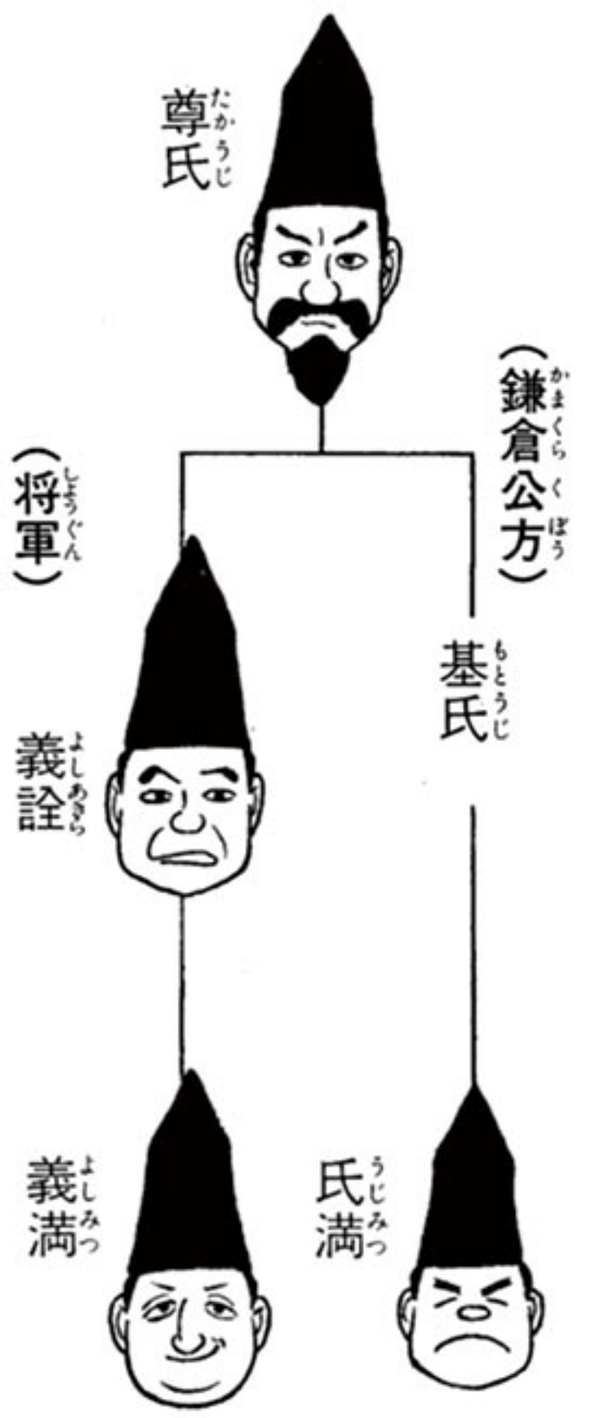
花の御所

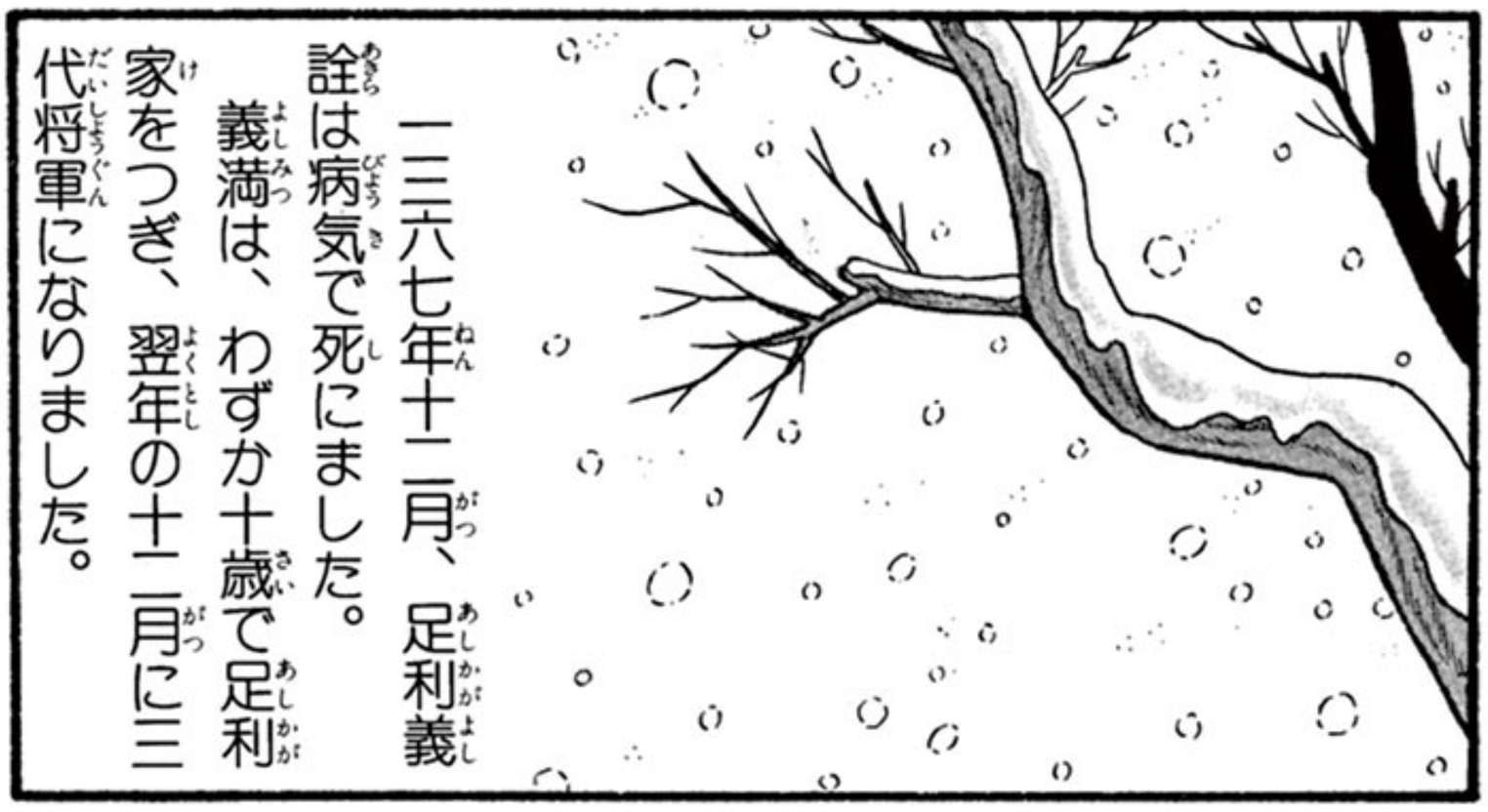
――室町時代前期――

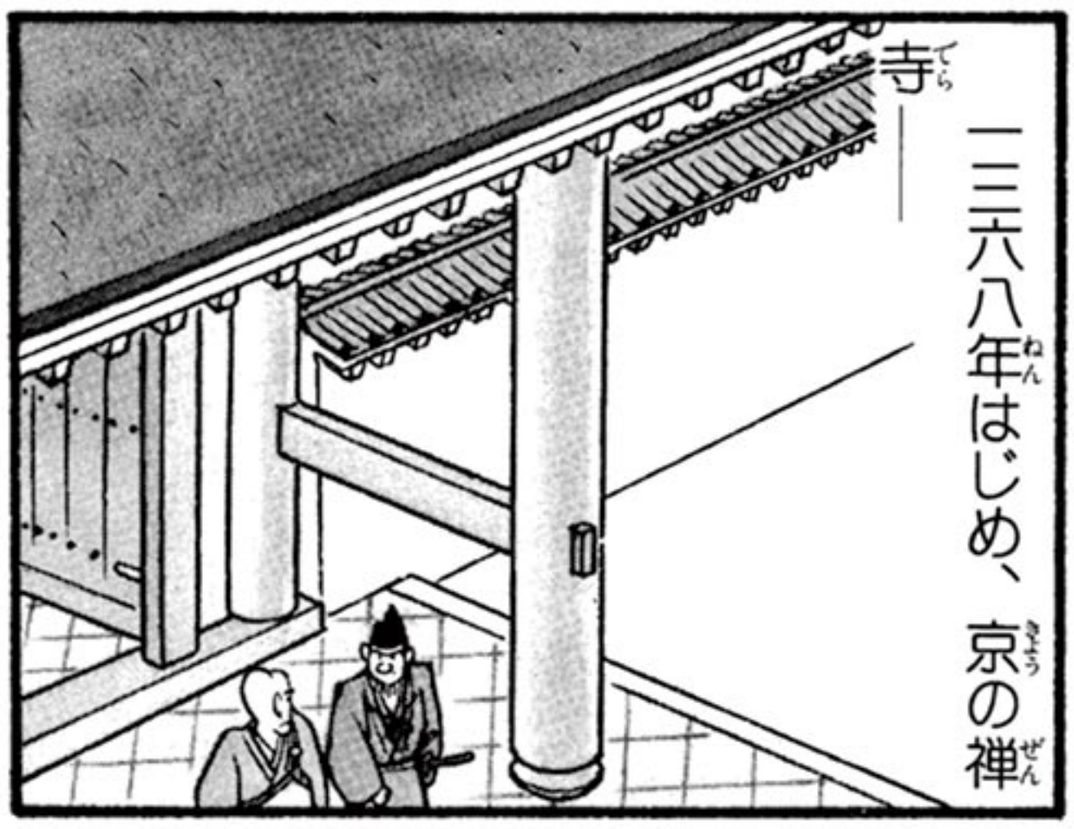
一三六七年十一月、足利義詮邸



足利氏の系図





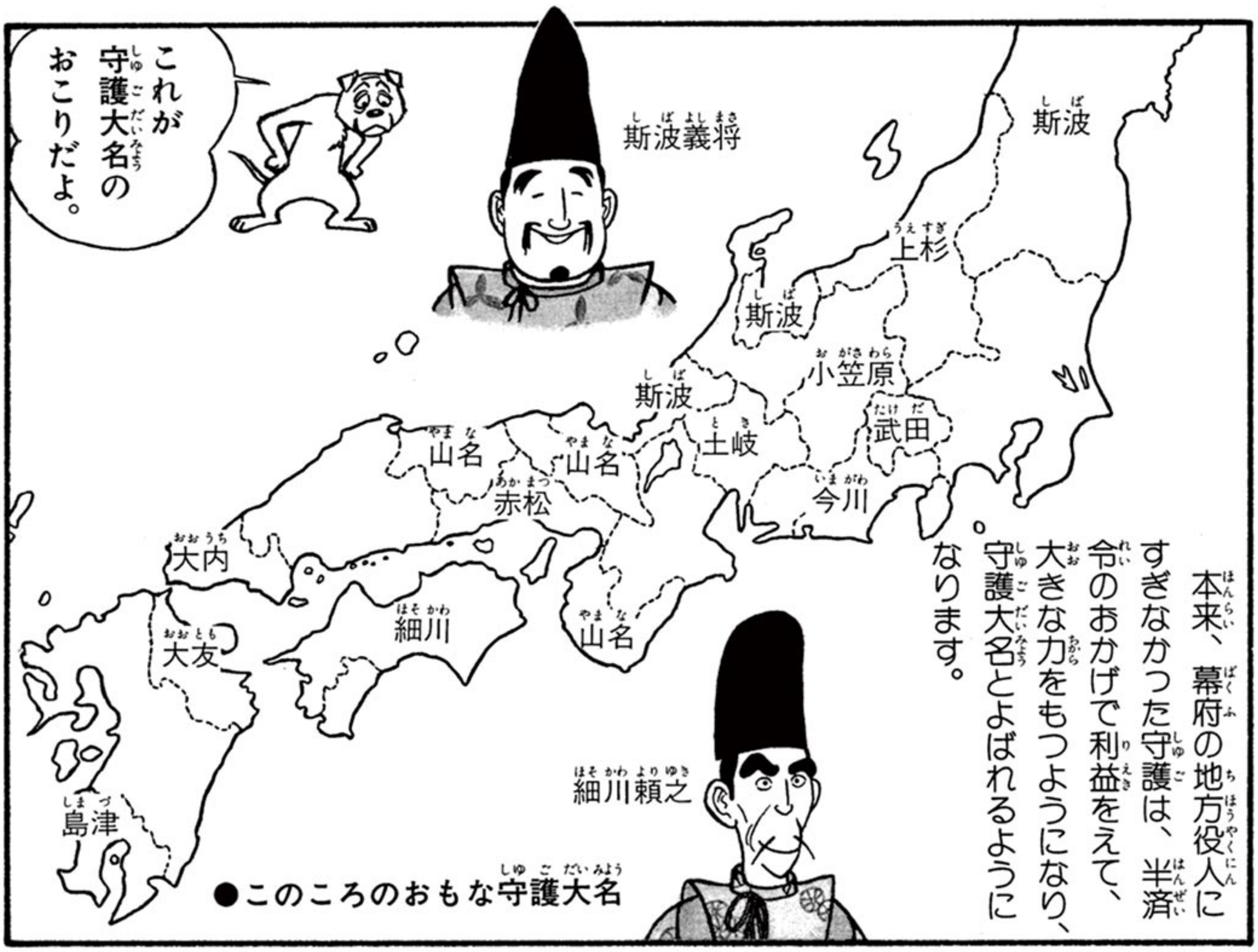


＊管領…室町幕府の職名。将軍をたすけて政治を行った。

＊倹約令…むだづかいをいましめる命令。

＊五山…禅宗の五大寺で、京都五山と鎌倉五山があった。

*兵糧米…軍隊の食糧。　*公領…朝廷・幕府・大名などがおさめるおおやけの土地。



本来、幕府の地方役人にすぎなかった守護は、半済令のおかげで利益をえて、大きな力をもつようになり、守護大名とよばれるようになります。

＊摂関家…天皇をたすけて政治を行う役職を代だいうけついでいる貴族の家。

＊地頭…荘園におかれ、年貢のとりたてや警察、裁判などをうけもつ役職。

各地の守護大名たちは、さらに力をたくわえて荘園制を切りくずしていき、その中にはしきたりにしたがわない者も出てきました。

それからおよそ十年がすぎ―

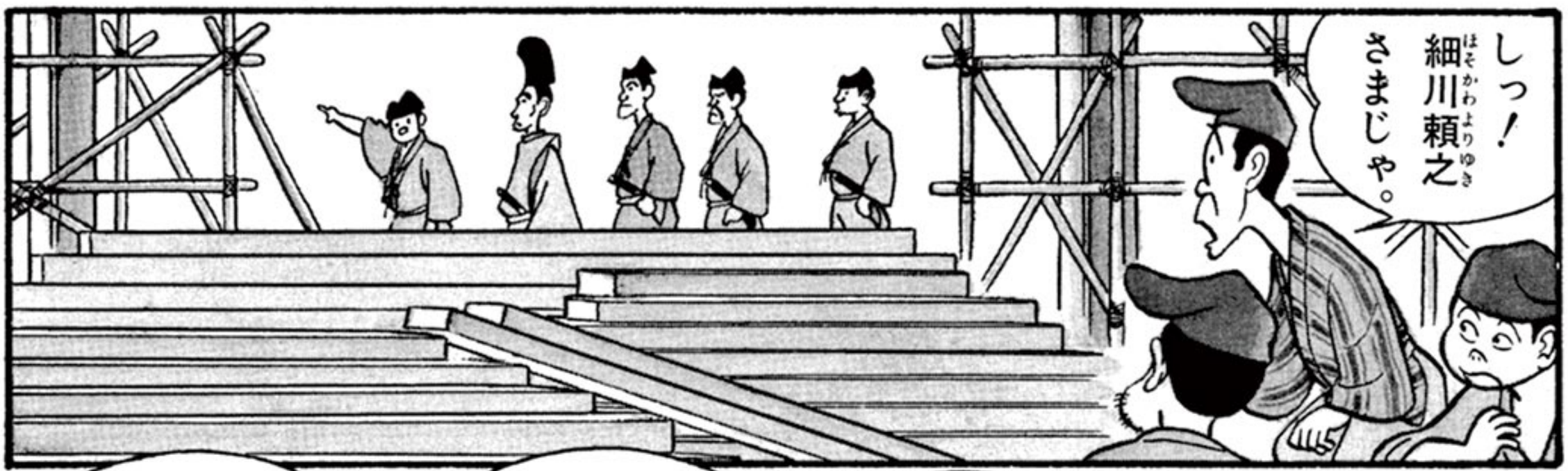
ガラガラ…

コーン

カーン

わしらの仕事もおわりに近づいた。

やっと国へ帰れる。



なかでも山名氏清さまは、頼之さまと仲が悪く、何かと対立しておられるとか…。

お大名さまがたも細川派と山名派に分かれているらしい。

コン

幕府の中も、たいへんじゃなあ。

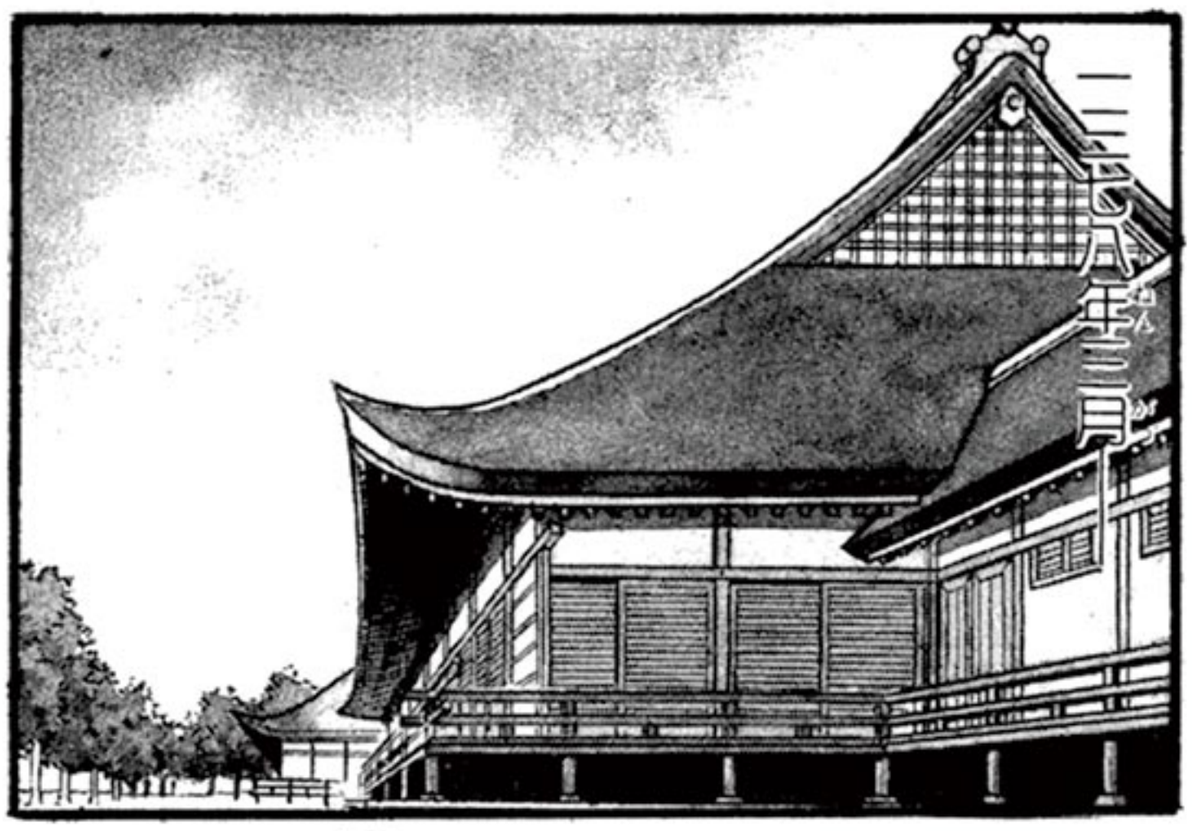
シュッ

シュッ

おい、役人だぞ。

さあ、仕事仕事。

ジロ



すばらしい！

あとで、邸内をごゆっくりごらんください。

一部工事中の所もございますが、おすみになるにはさしつかえございません。

うむ。

これで、将軍のご威光はますます高まるでしょう。

義満は、ほぼ完成した新しい御所にうつりました。

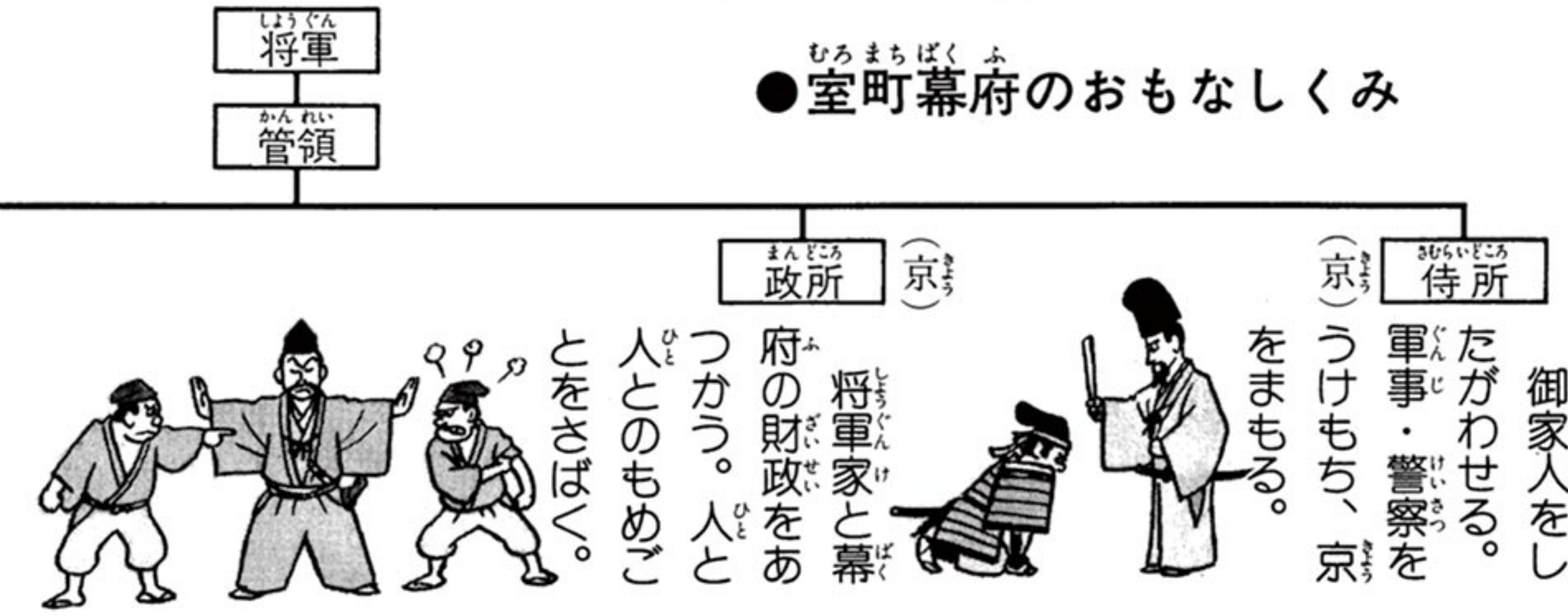
この新邸は、室町殿とよばれ、以後、代だいの足利将軍の邸宅となりました。

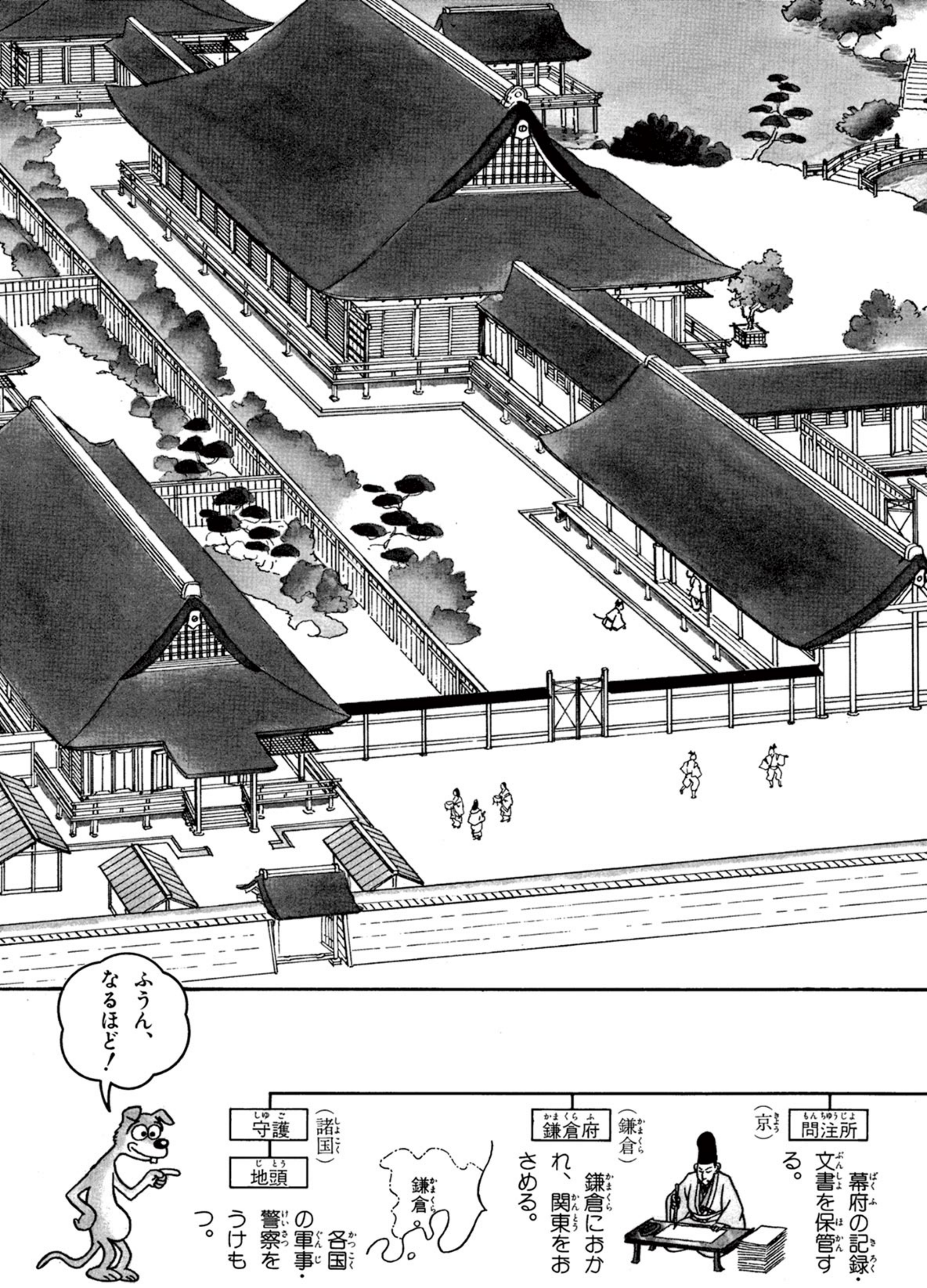
また邸内には、季節の花がたくさんさきみだれていたので「花の御所」ともよばれました。

これからは、ここが政治の中心じゃ。

●室町幕府のおもなしくみ

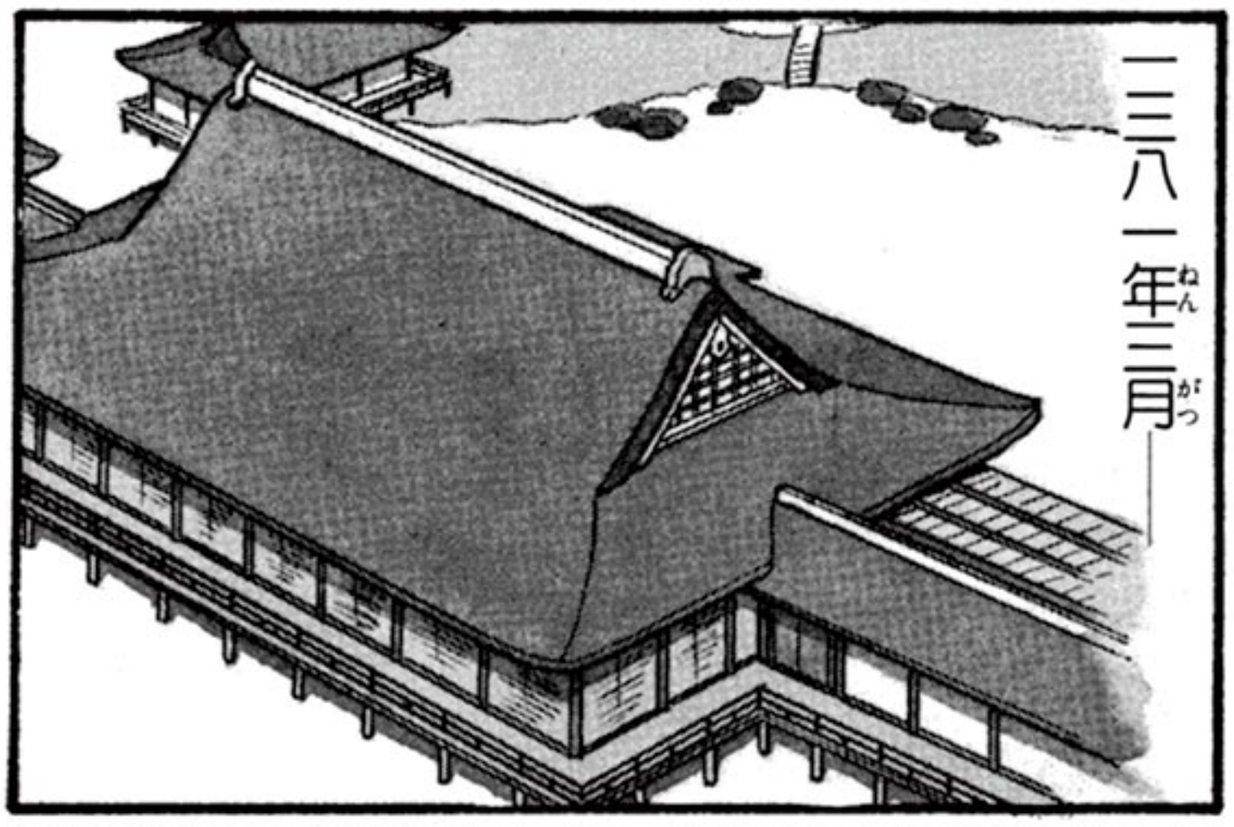
室町幕府の政治のしくみがととのったのは、将軍義満の時代のことでした。




ふうん、なるほど！
問注所
（京）
幕府の記録・文書を保管する。
鎌倉府
（鎌倉）
鎌倉におかれ、関東をおさめる。
鎌倉
守護
地頭
（諸国）
各国の軍事・警察をうけもつ。

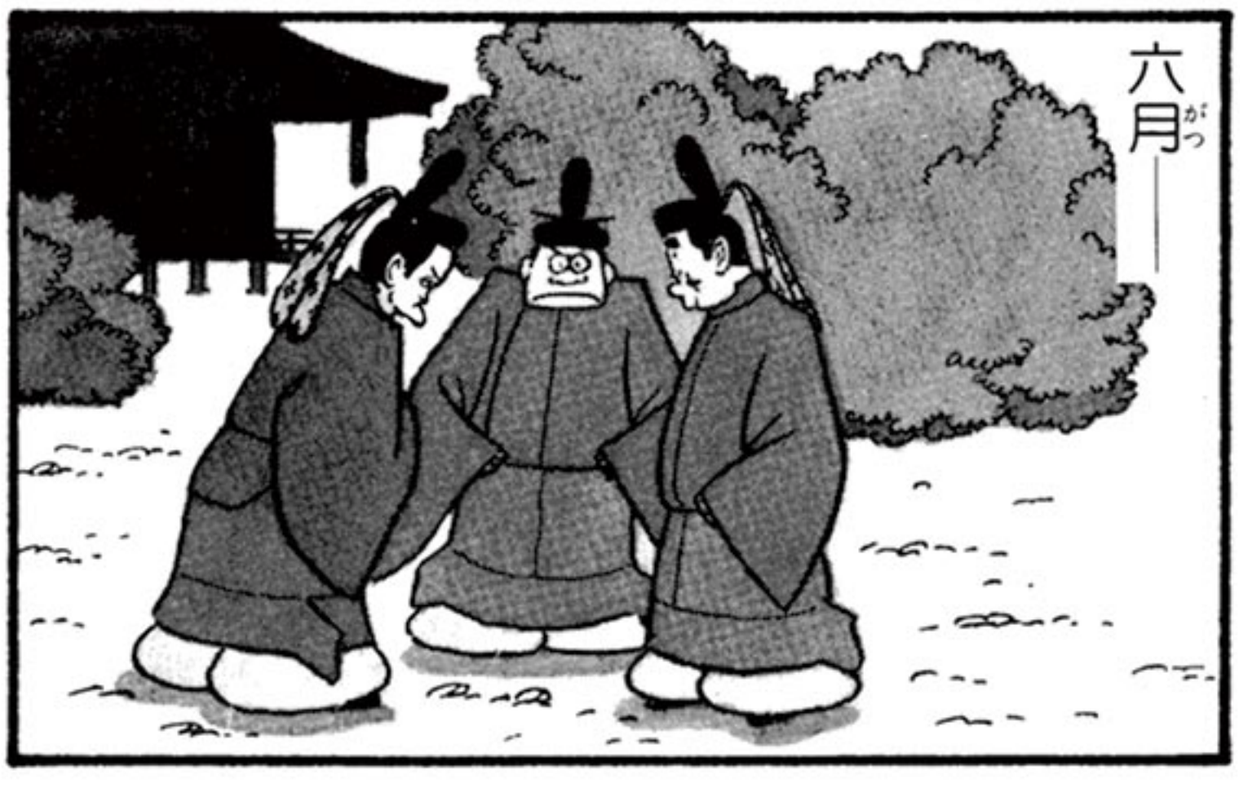
この事件は、「康暦の政変」とよばれます。

頼之がさって十数日後、諸大名におされた斯波義将が管領になりました。義将は守護大名の統制をおしすすめ、これから後、まさに義満の時代となっていきます。



*落慶供養…神社や寺などの完成をいわう儀式。*けまり…まりを地面におとさないようにして、数人でけりつづける貴族の遊び。*管弦…楽器で音楽をかなでること。*内大臣…どちらも左大臣、右大臣につぐ官職。

三月十一日――。義満は、花の御所に後円融天皇をまねいて、大がかりなうたげをもよおしました。天皇は、七日間ほど滞在して、舞や*けまり、舟遊び、和歌会、詩や*管弦などを楽しみました。



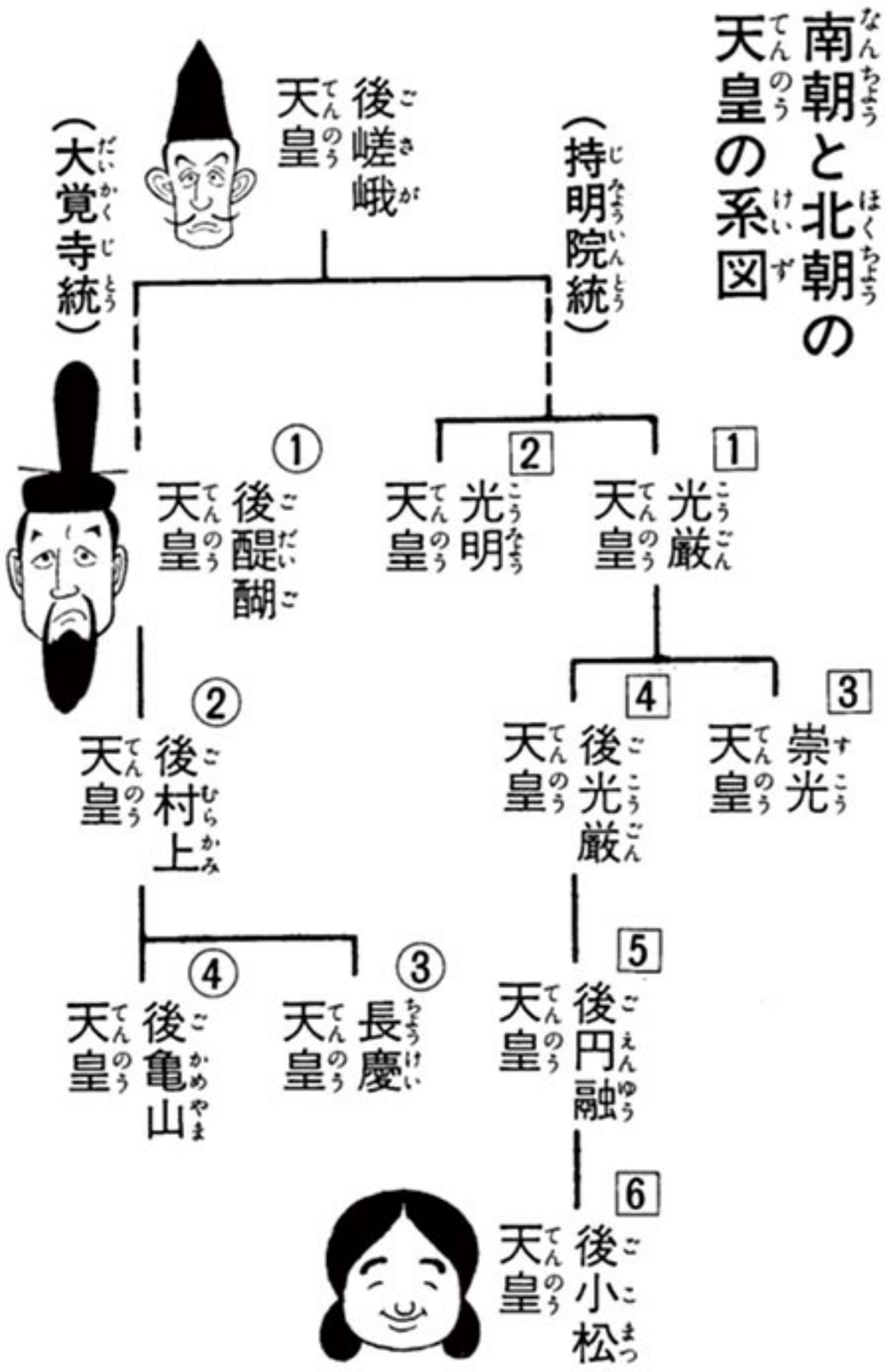
*花押…名前をあらわす、自分だけのしるし。書き判ともいう。*左大臣…太政大臣（最高の官職）につぐ官職。

*院の別当…院政を行う役所の長官。

四月には、北朝の後円融天皇が位をしりぞき、幹仁親王が即位しました（後小松天皇）。

後円融上皇は院政をはじめましたが、このとき義満は院の別当となり、宮廷内の実権をもにぎっていきました。

南朝と北朝の天皇の系図



数字は即位した順序。
①②…南朝　1 2…北朝

さて、このころの各地の様子を見てみよう！

鎌倉公方足利氏満

足利義満

九州探題今川貞世（了俊）

山名氏清

一三四二年、後醍醐天皇の皇子懐良親王が九州にわたってから、ここに南朝方は一つの勢力をつくっていました。一三七一年、幕府は今川貞世（出家して了俊）を九州探題*としておくり、同地方を制圧しました。懐良親王は筑紫*の山おくにしりぞいた後、一三八三年三月になくなりました。

*九州探題…九州をまもる目的でおかれた役職。

一三四九年におかれた鎌倉府は、しだいに力をのばし、幕府から独立し対立する勢力になっていました。二代目鎌倉公方の足利氏満は、義満にそむいて兵をおこそうとしましたが、合戦にはいたりませんでした。吉野の南朝の勢力も、山名氏清の活やくで、しだいにおとろえていきました。

*准三宮…皇后・皇太后（先代の皇后）・太皇太后（さらに一代前の皇后）と同様の待遇をうける位。

みかどからも、左大臣の官職では異例の*准三宮をいただき……。

公家たちも、天下のことは将軍義満さましだいだともうしておりまする。

うむ……。

こうして、南北朝の対立はまだつづいていましたが、幕府の基礎はゆるぎないものとなっていきました。

*筑紫…筑前と筑後。今の福岡県。

そうしたなかで義満は、一三八五年から一三九〇年ごろにかけて、さかんに地方を遊覧しました。これは、幕府の力を各地にしめすとともに、義満みずから全国の様子を見ようという目的で行われたものです。

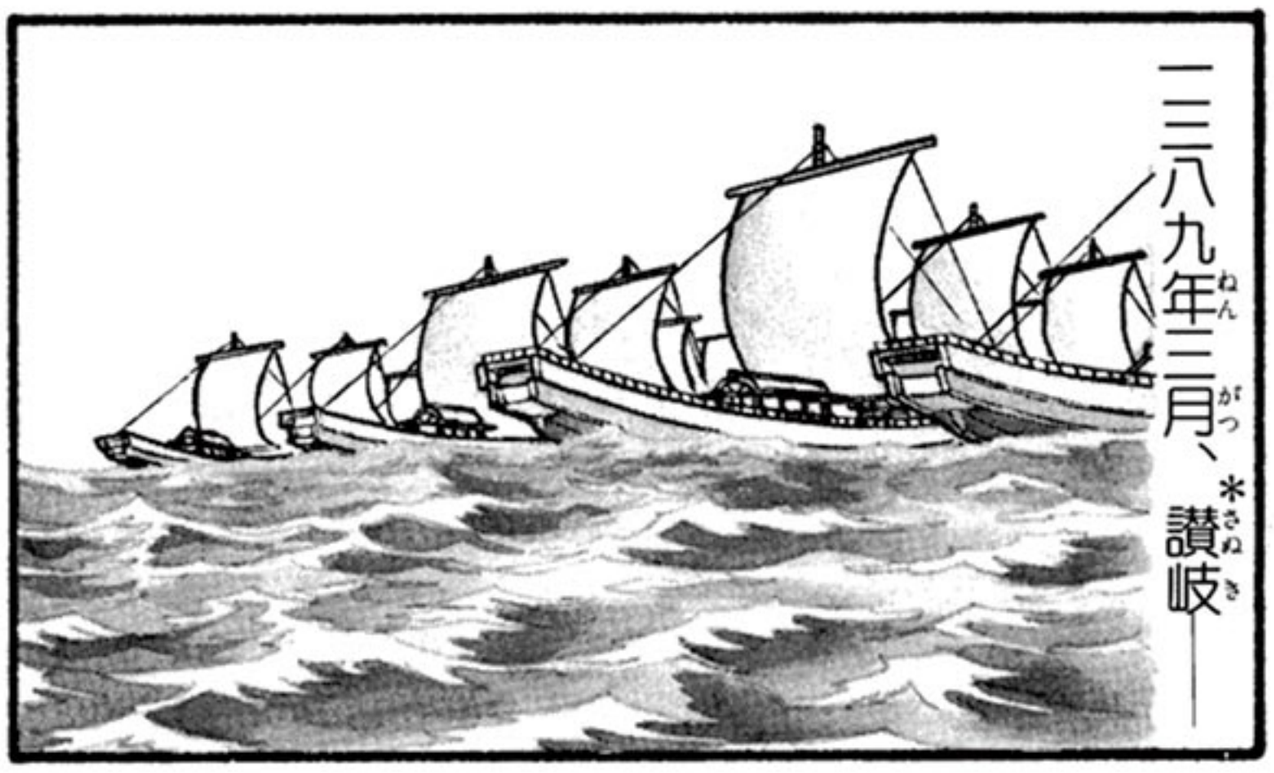
一三八五年八月、奈良の*春日大社に参拝——

一三八八年九月、*駿河で富士山をながめ——

一三八六年十月、*天橋立へ——

*春日大社…奈良県奈良市にある神社。

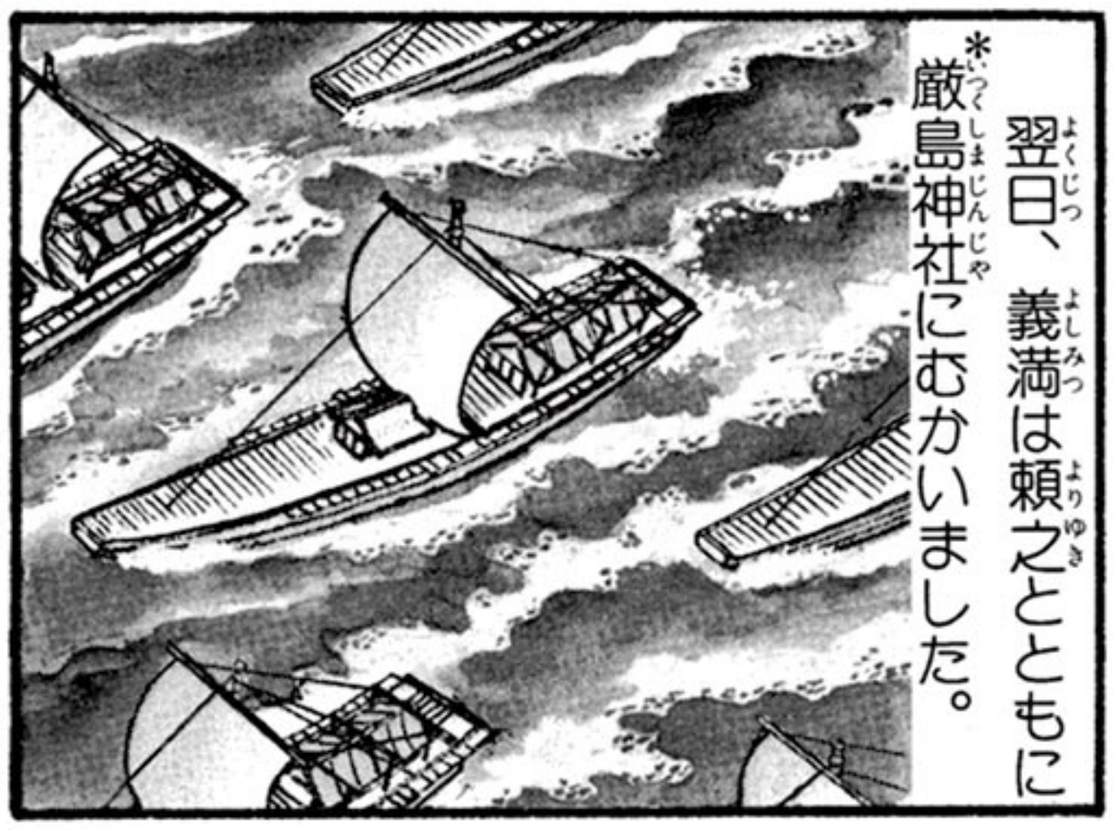
*天橋立…京都府宮津市にある名所。



*駿河…静岡県中央部。

*讃岐…香川県

翌日、義満は頼之とともに*厳島神社にむかいました。



*厳島神社…広島県佐伯郡宮島町にある神社。

じつは、相談があって、来たのじゃ。

は？何でございましょう。

土岐や山名をどう思う。

ともに力をつけすぎ、幕府にとって危険な存在だと、つねづね思っております。

うむ。そちもそう思うか…。

よし、かれらをうとう。

……ついては……。

わたくしも、あとで京へまいります。

一三九一年四月、頼之は京へのぼりました。

おお、よくもどってきてくれた。

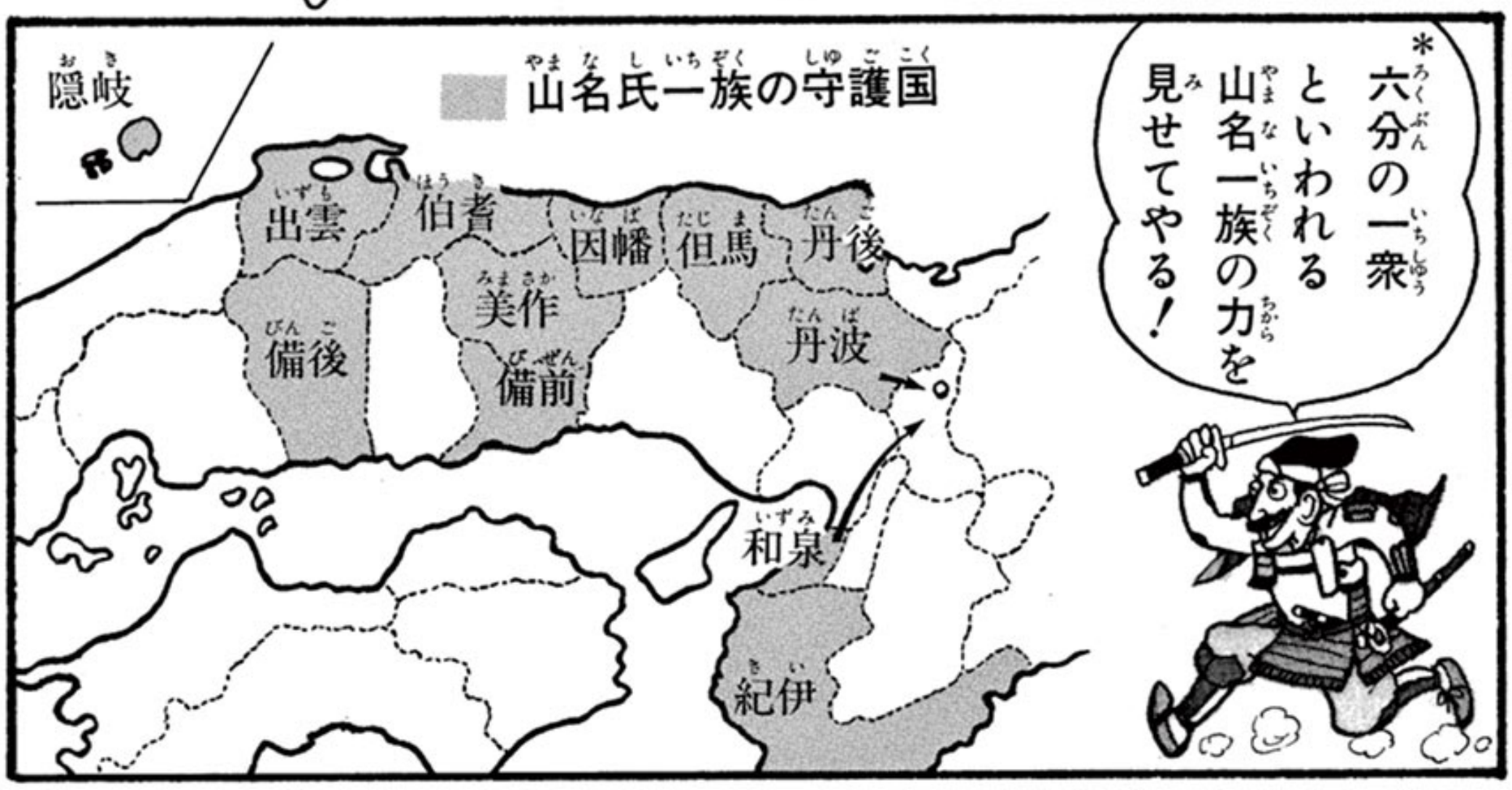
このじいにできることなら、何なりといたします……。

そちが来るというので、斯波義将は管領をやめて、あたふたと国へ帰ってしまったぞ。

また、管領としてはたらいてくれ。

いいえ、管領には養子の頼元をおつかせください。わたしは、その後ろだてとなります。

細川頼元



その年十二月、山名氏の一族氏清と満幸が、幕府にたいして挙兵しました。満幸は*丹波より、氏清は和泉より京へ進撃しました。

戦いは、京の*内野で行われました。

*丹波…京都府の中部と兵庫県の東部。

*六分の一衆…十一か国（全国六十六か国の六分の一）の守護をかねたため、こうよばれた。

*内野…京都府京都市上京区。平安京大内裏跡のあき地。

合戦は幕府側が勝ちました。氏清は討ち死にし、満幸は逃走しました。この戦いを「明徳の乱」といいます。

乱の後、山名一族の領地のほとんどは幕府側の武将にあたえられ、山名氏の勢力はおとろえていきました。

一、後亀山天皇は、譲位の儀式によって、後小松天皇に三種の神器をわたしてほしい。

二、これからは、南朝（大覚寺統）と北朝（持明院統）が交互に即位する。

三、国ぐにの*国衙領は、南朝のものとする。

四、皇室領のうち*長講堂領は、これ以後北朝が支配する。

……以上のとおりです。

うむ。いちおうは、南朝側の面目がたつようですな。

ともあれ、みかどにおつたえいたします。

こうして南朝と北朝は一つになり、およそ六十年にわたった南北併立の時代がおわりました。しかし、両朝合体のときの約束はまもられず、以後、北朝（持明院統）の天皇が代だい即位していくのです。

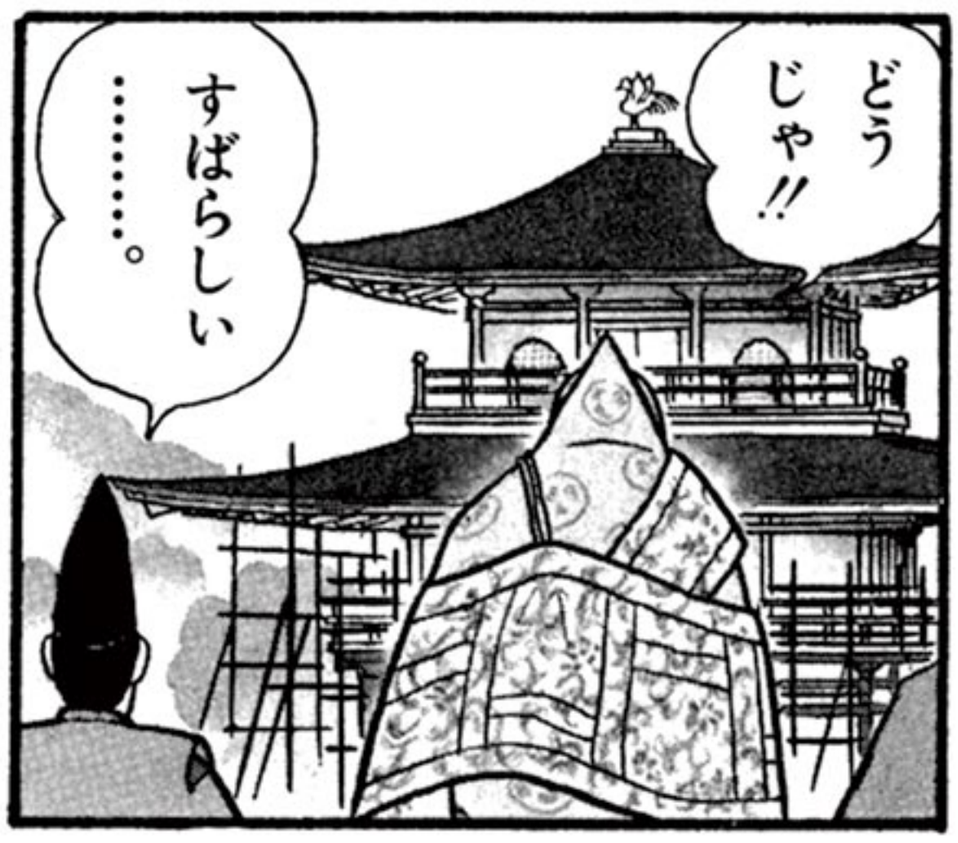
*国衙領…国司が管理している土地。*長講堂領…数多くあった皇室所有地のうち最大のもの。

*太政大臣…国家の政治を行う最高の官職。

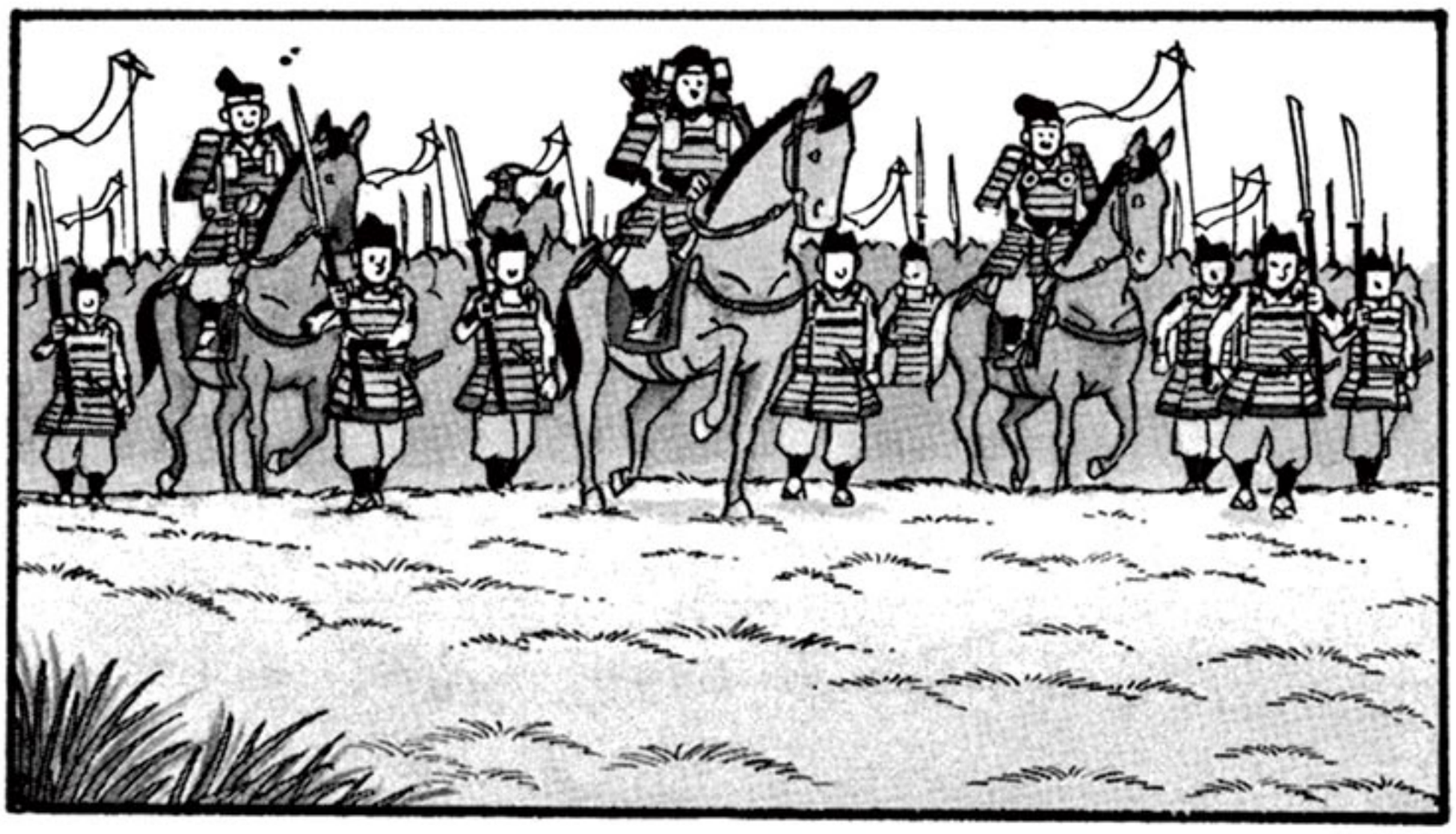
一三九七年、義満は諸大名を動員して、京の*北山に大山荘をつくりはじめました。この山荘は、北山殿(北山山荘)とよばれ、金色にかがやく*舎利殿は、金閣の名で今日まで知られています。

*北山…京都府京都市北区。衣笠山のふもと付近。

*舎利殿…仏舎利(釈迦の遺骨)をおさめる建物。

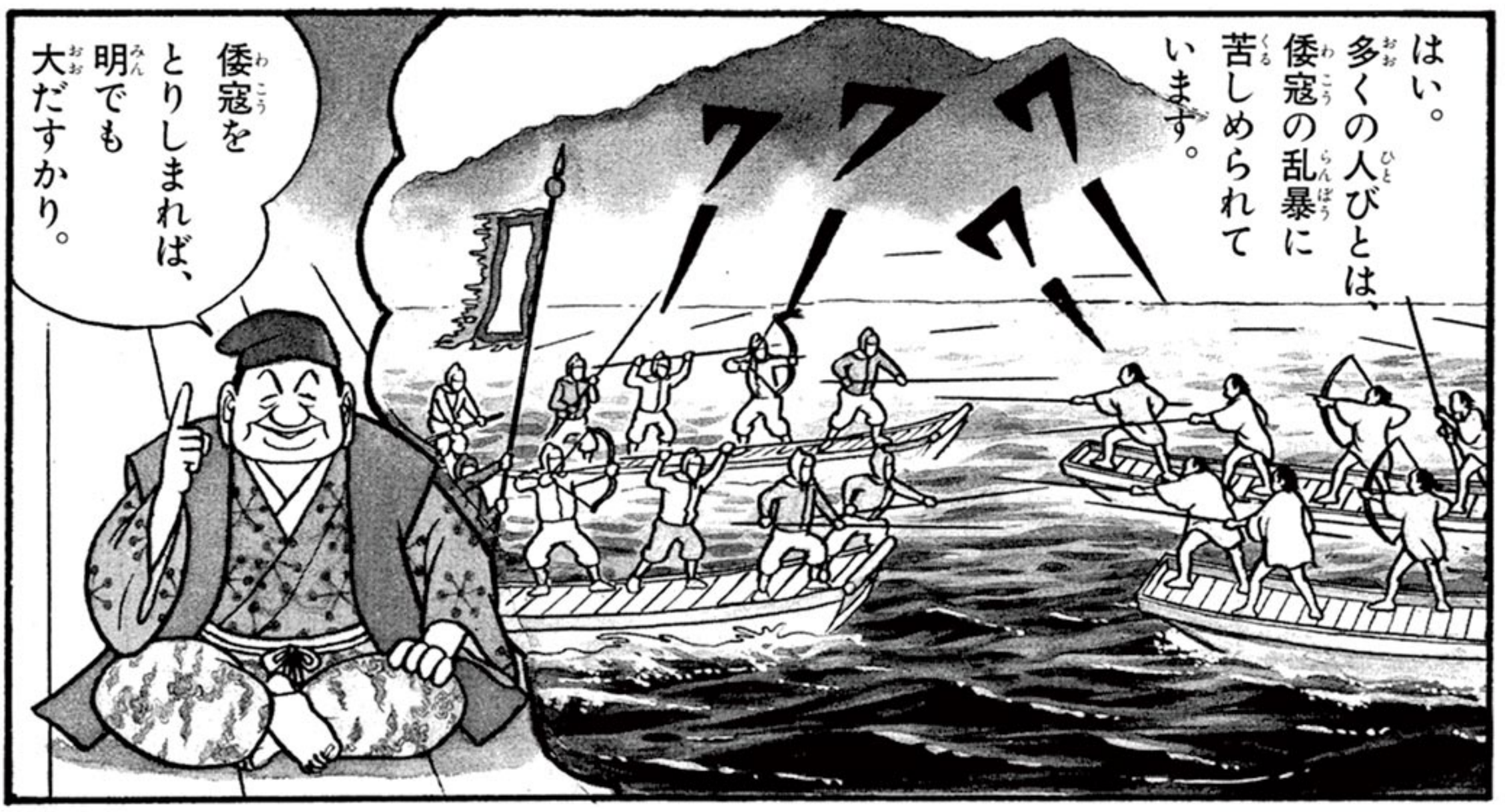


一三九九年十月、大内義弘は、*周防や筑紫の兵をひきいて、堺に上陸しました。
*周防…山口県の東南部
わしは三十年間、幕府のためにはたらき、数かずの戦いでてがらをたててきた。
また、両朝合体についても、わしのほねおりがあればこそ！
しかし義満さまは、このたび*紀伊、和泉の両国をとりあげようとしているそうな。
*紀伊…和歌山県の全部と三重県の一部
そうはさせぬ！
かねてから幕府に不満をもつ鎌倉の足利満兼さまも、お味方になってくださいます。
うむ、十一月二日に満兼さまの軍勢と同時に京へせめこむのじゃ。
しかし、鎌倉の満兼は、側近の上杉憲定が強く止めたので兵を出発させませんでした。
お知らせいたします！
幕府の軍勢と大内義弘さまの軍勢が堺で戦いになり、義弘さまの軍勢が優勢でございます。



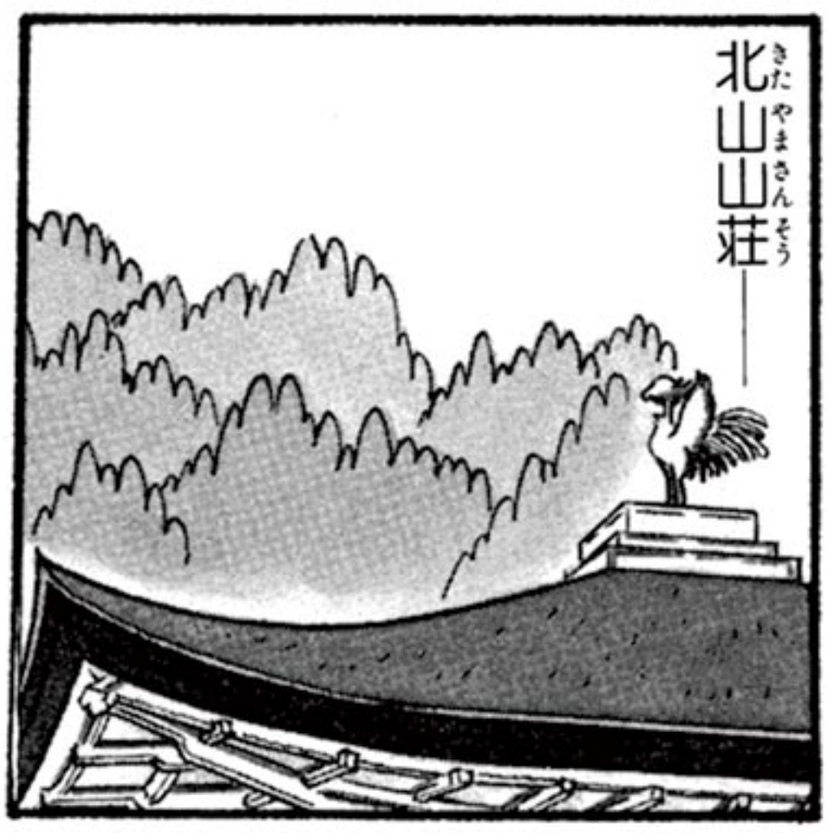
こうして、満兼は出陣しましたが、美濃に入ったころ、大内義弘の敗死の知らせがあり、鎌倉へ兵を引きました。この大内義弘の乱を「応永の乱」といいます。

*明…一三六八年から一六四四年までつづいた中国の統一国家。



*倭寇…朝鮮半島や中国大陸の沿岸をおそった、日本人を中心とする海賊。

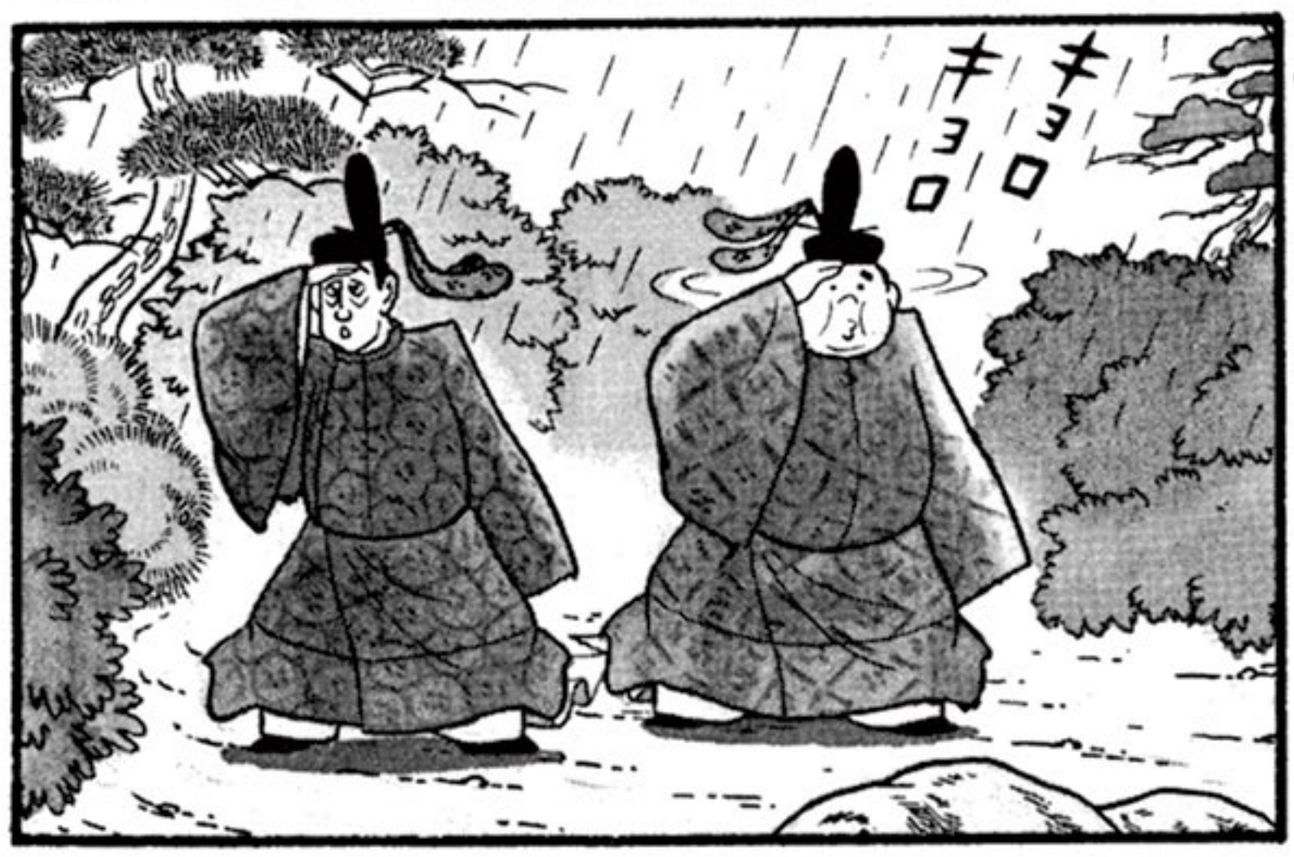
一四〇一年五月に明へむかった使節は、翌年の八月、明の使者を同行して帰ってきました。

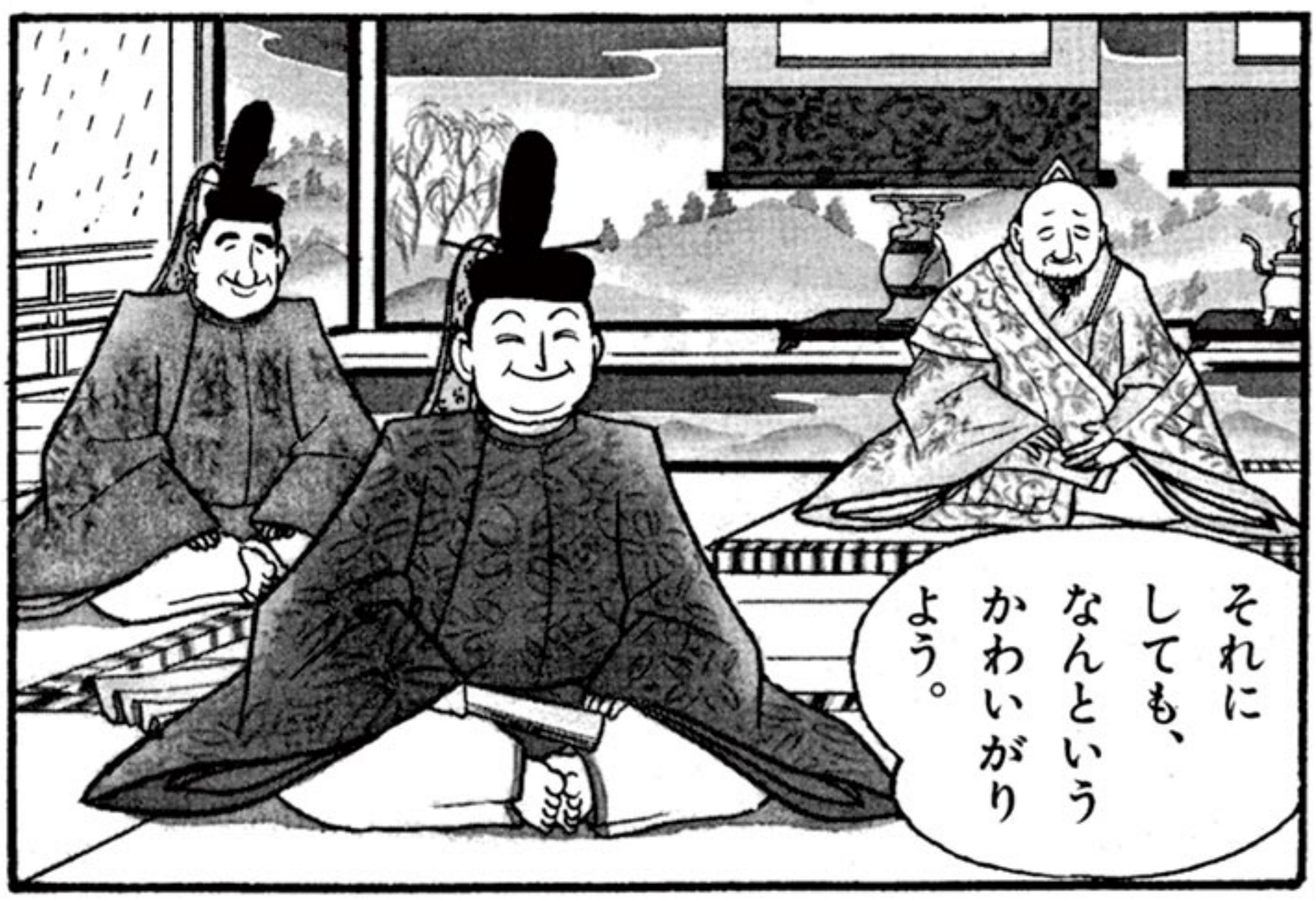


こうして、正式な国交がはじまり、一四〇三年からは、勘合符による日明貿易がさかんになりました。

また同じころ、朝鮮との国交もひらかれ、幕府や西国の大名は、倭寇をとりしまるとともに、さかんに貿易を行いました。

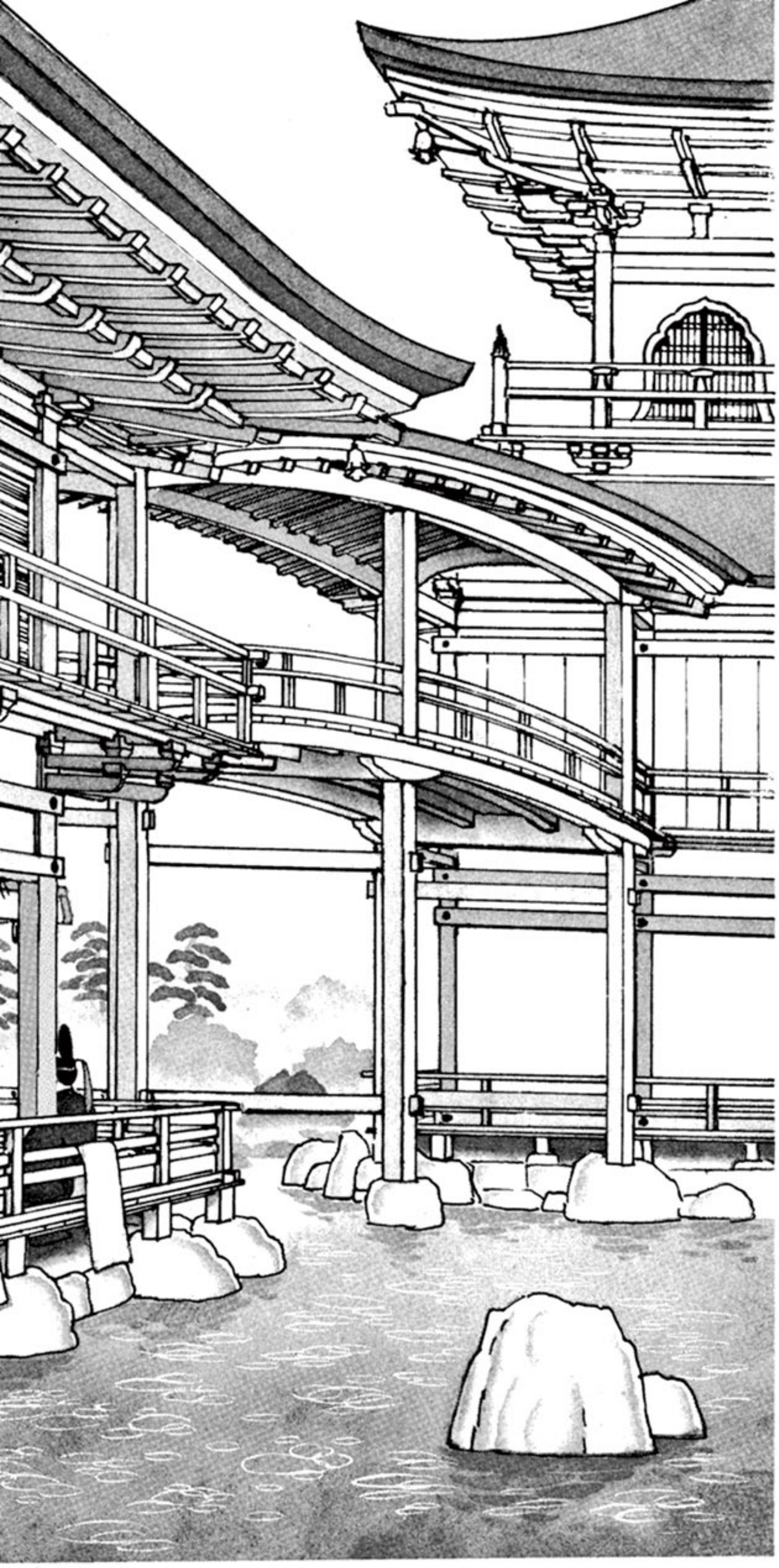
一四〇八年三月、義満は、後小松天皇を北山山荘にまねきました。
そして二十日間もの間、舞楽、*連歌会、けまり、猿楽などで歓待のかぎりをつくしました。





*連歌…和歌（短歌）の上の句と下の句を交互によみつづけていくもの。二人以上で楽しむ。

*紫宸殿…内裏（天皇の住まい）の中心をなす建物。



*桐竹紋…桐と竹を組み合わせた紋様。皇室が用いた。

*法服…僧や尼の服装。

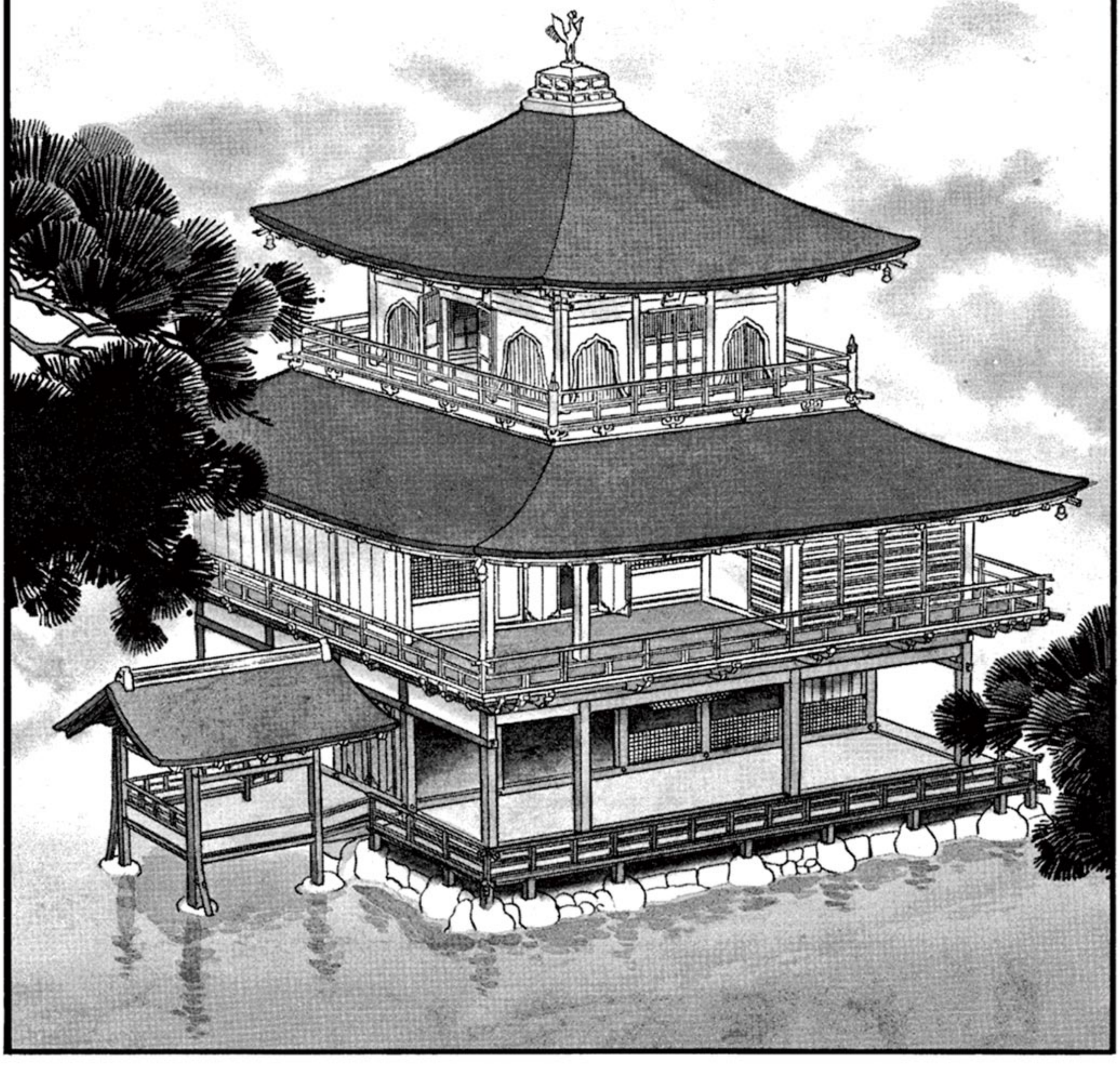
義満の時代には、文学・絵画・建築・芸能などの文化面ですばらしい発展をとげました。それは、伝統的な公家文化と新しい武家文化とがとけ合ってできた独特の文化で、「北山文化」とよばれています。

北山文化の中心人物である義満のまわりには、水墨画・連歌・猿楽など、さまざまな分野の名人たちがあつめられました。

なかでも猿楽を発展させて、今日の能をつくりあげた観阿弥・世阿弥の親子は有名です。

その三日後のこと、栄華によいしれる義満は病気になりました。五月一日に重態におちいった義満は、五日後、五十歳で世をさりました。才能にめぐまれ、権力を思うようにふるいつづけた人だっただけに、天下の人びとはおどろき、動揺しました。

このようにして、室町幕府の最盛期といわれる義満時代は、突然その幕をおろし、四代将軍義持の時代へと引きつがれます。義持は、なき父の時代以上にりっぱな幕府政治を行おうと努力します。しかし、義満の死後、有力な大名が、幕府の政治に口を出しはじめ、しだいに将軍の権威をおびやかすようになっていきます。



小学館 eBooks

おうちの方へ

南朝と北朝

京都教育大学名誉教授　高山博之

元寇後、鎌倉幕府は急速に衰えていきましたが、この機会をとらえた後醍醐天皇の倒幕計画が功を奏し、幕府は滅亡して天皇親政による建武の新政が展開します。

しかし、新政は混乱し、不満の武士たちの衆望を担った足利尊氏の挙兵によって、もろくも崩壊、朝廷も南朝・北朝に分裂して約半世紀にわたる全国的動乱が続きました。

この間に、足利氏による室町幕府が成立し、地方では守護大名が成長します。新しい幕府は三代将軍義満のときにやっと安定しますが、武家社会は大きく変容していきました。

●第1章「鎌倉幕府ほろぶ」

鎌倉幕府を支える御家人の生活は、2度の元寇や貨幣経済の進展により疲弊し、借金帳消しの徳政令も効果がなく幕府はゆらいでいきました。幕府への不満が高まり、悪党とよばれる反権力的な武士団の活動も目立ってきました。

当時、朝廷では二つの皇統が対立していましたが、大覚寺統から即位した後醍醐天皇は天皇親政をめざし、密かに倒幕計画を進めました。

元弘の変では天皇は隠岐に流されましたが、楠木正成らの奪戦につづき、有力御家人であった足利高氏、新田義貞らが幕府に反逆して天皇方についたため、ついに幕府は滅亡します。登場する様々な人物の立場に注目してください。

●第2章「建武の新政」

後醍醐天皇による建武の新政は、理想にはほど遠く混乱を重ねました。それは、大画面の二条河原の落書に具体的に見ることができます。

公家に厚く武士に薄い恩賞、所領安堵の不手際、増税など武士や庶民の期待は次々に裏切ら

れ、新政権は信頼を失っていきます。

これに対し、武士たちの人望を集め彼らの利益を代表したのが足利尊氏でした。中先代の乱で鎌倉に下った尊氏は、武士たちの期待を背に反旗をひるがえし、やがて湊川の戦いで楠木正成ら天皇方の有力武将が戦死、新政はわずか2年余りで崩壊しました。

天皇親政が失敗した理由を様々な面から話し合ってみましょう。

●第3章「南北朝のあらそい」

京都に進撃した足利尊氏は、持明院統の光明天皇をたて、逃れた後醍醐天皇は吉野に朝廷をおきました。吉野の南朝と京都の北朝の対立にそれぞれ武士が加担し戦乱が広がりました。

この間、尊氏は北朝から征夷大将軍の地位を得て、京都に幕府を開きました。しかし、足利氏の内紛も重なって、南北朝の動乱は全国的規模に拡大、約半世紀余りも続くのです。

この戦乱の中で社会の様相は大きく変容していきます。守護や地方の小領主が力を強め、地域によっては、農民が惣などの自治組織を作り団結するようになりました。これらの社会の変化をしっかり読みとらせましょう。

●第4章「花の御所」

室町幕府は、三代将軍義満のときにそのしくみが整い最盛期を迎えました。このころ、南朝の勢力は衰えていましたが、義満は南北朝のあいだを取りもって合一に導きます。

長い戦乱の間に、地方では守護が半済などの制度を利用して強大化し、守護大名とよばれる領主に成長していました。室町幕府は守護大名の勢力に支えられ成り立っていたのです。

義満は一応は大名らを抑えつけ、太政大臣にまで上り権勢を振いました。明との正式貿易を行い、花の御所や北山山荘に見られる新しい武家文化の時代をつくったのです。

幕府と守護大名の関係にとくに注目させてください。

児玉幸多
Kouta Kodama

歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の鋳造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks
学習まんが　少年少女 日本の歴史　第８巻　南朝と北朝

2015 年 3 月 27 日　電子書籍版発行
監　修　児玉幸多
まんが　あおむら 純
発行人　伊藤 護
発行所　株式会社　小学館
〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
s-ebook@shogakukan.co.jp

底　本　2014 年 10 月 20 日　増補版第 22 刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298108-9

※ご注意
本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および
有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。
個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと
著作権法、その他関連法によって処罰されます。